マニュアルの使いかた

安心してお使いいただくために

- パソコンをお取り扱いいただくための注意事項
  ご使用前に必ずお読みください。

セットアップガイド

- パソコンの準備
- Windowsのセットアップ
- 電源の切りかた
- Q&A集（電源が入らないとき）
- リカバリー（再セットアップ）
- デイリーケアとアフターケア　など

取扱説明書

- 電源の入れかた
- 各部の名前
- メモリの取り付け／取りはずし
- バッテリーパックの交換
- システム環境の変更とは　など

オンラインマニュアル（本書）

Windowsが起動しているときにパソコンの画面上で見るマニュアルです。

- パソコンを買い替えたとき
- パソコンの基本操作
- ネットワーク機能
- 周辺機器の接続
- バッテリーで使う方法
- システム環境の変更
- パソコンの動作がおかしいとき／Q&A集　　など

リリース情報

- 本製品を使用するうえでの注意事項など
  必ずお読みください。

参照 「はじめに- 7 リリース情報について」

もくじ

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、付属の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。
必ずお読みになり、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。
本書は、次の決まりに従って書かれています。

1 記号の意味

記号	意味
⚠危険	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
⚠警告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことが想定されること”を示します。
⚠注意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（＊2）を負うことが想定されるか、または物的損害（＊3）の発生が想定されること”を示します。
お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
メモ	知っていると便利な内容を示します。
役立つ操作集	知っていると役に立つ操作を示します。
参照	このマニュアルやほかのマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合…「　」 ほかのマニュアルへの参照の場合…『　』 「困ったときは」への参照の場合…《　》

＊1　重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

＊2　傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。

＊3　物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

2 用語について

本書では、次のように定義します。

システム

特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト

アプリケーションソフトウェアを示します。

WindowsまたはWindows 7

Windows® 7 Professionalを示します。

Windows Vista

Windows Vista® Businessを示します。

ドライブ

DVDスーパーマルチドライブを示します。

ドライブ内蔵モデル

DVDスーパーマルチドライブを内蔵しているモデルを示します。（モデルによっては書き込み機能を禁止しています。）

HDD内蔵モデル

HDD（ハードディスクドライブ）を内蔵しているモデルを示します。

SSD内蔵モデル

SSD（ソリッドステートドライブ）を内蔵しているモデルを示します。

Core 2モデル

インテル® Core™ 2 Duo プロセッサーを内蔵しているモデルを示します。

Office搭載モデル

Microsoft® Office Personal 2007をプレインストールしているモデルを示します。

PowerPoint搭載モデル

Microsoft® Office PowerPoint® 2007をプレインストールしているモデルを示します。

無線LANモデル

無線LAN機能を搭載しているモデルを示します。

モデム内蔵モデル

モデムを内蔵しているモデルを示します。

Bluetoothモデル

Bluetooth機能を搭載しているモデルを示します。

FeliCaポート内蔵モデル

FeliCaポートを内蔵しているモデルを示します。

個人・家庭向けモデル

別紙の『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』に「個人・家庭向けモデル」と記載されているモデルを示します。

企業向けモデル

別紙の『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』に「企業向けモデル」と記載されているモデルを示します。

RX2シリーズ

dynabookSSシリーズで、モデル名が「RX2」で始まるモデルを示します。

RX2Lシリーズ

dynabookSSシリーズで、モデル名が「RX2L」で始まるモデルを示します。

N12シリーズ

dynabookSSシリーズで、モデル名が「N12」で始まるモデルを示します。

ご購入のモデルの仕様については、別紙の『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

3 記載について

- 記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「＊＊＊＊モデルの場合」や「＊＊＊＊シリーズのみ」などのように注記します。
- インターネット接続については、ブロードバンド接続を前提に説明しています。
- アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは内蔵ハードディスクや付属のCD／DVDからインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。
- システムがWindows 7以外のモデルの場合、一部の使用方法や設定方法が異なる場合があります。詳しくは『セットアップガイド』や各ヘルプを確認してください。
- 本書では、コントロールパネルの操作方法について表示方法を「カテゴリ」に設定していることを前提に説明しています。画面右上の［表示方法］が「大きいアイコン」または「小さいアイコン」になっている場合は、「カテゴリ」に切り替えてから操作説明を確認してください。

参照 コントロールパネルの表示『Windowsヘルプとサポート』

- 本書は、語尾をのばすカタカナ語の表記において、語尾に長音（ー）を適用しています。
  画面の表示と異なる場合がありますが、読み換えてご使用ください。

4 Trademarks

- Microsoft、Windows、Windows Media、Windows Live、Windows Vista、Aero、Excel、MSN、Outlook、PowerPoint、SkyDriveは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
- Intel、インテル、インテル Core、Centrinoは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標、または登録商標です。
- ConfigFreeは、株式会社東芝の商標です。
- SDロゴは商標です。（SD）
- SDHCロゴは商標です。（SDHC）

- Fast Ethernet、Ethernetは富士ゼロックス株式会社の商標または登録商標です。
- Adobe、Adobe ReaderはAdobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の米国ならびに他の国における商標ならびに登録商標です。
- Corel、Corelロゴ、Ulead、Uleadロゴ、DVD MovieWriterは、カナダ、米国および／またはその他の国におけるCorel Corporationsおよび／またはその関連会社の商標または登録商標です。
- TRENDMICRO、ウイルスバスターはトレンドマイクロ株式会社の登録商標です。
- 「PC引越ナビ」は、東芝パソコンシステム株式会社の商標です。
- Javaはサンマイクロシステムズ社の米国および他の国における登録商標または商標です。
- Google ツールバーはGoogle Inc.の登録商標です。
- Bluetoothは、その商標権者が所有しており、東芝はライセンスに基づき使用しています。
- デジタルアーツ/DIGITAL ARTS、ZBRAIN、アイフィルター/i-フィルターはデジタルアーツ株式会社の登録商標です。
- パーソナルシェルター、かざしてナビは、株式会社ジャストシステムの登録商標です。
- シンプルログオン、スクリーンセーバーロック2、パーソナルシェルター、かざしてナビ、かんたん登録2、かざして転送［テキスト］、かざして転送［画像］は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。
- FeliCaはソニー株式会社の登録商標です。
- FeliCaはソニー株式会社が開発した非接触ICカードの技術方式です。
- は、フェリカネットワークス株式会社の登録商標です。
- ICOCAは西日本旅客鉄道株式会社の登録商標です。
- ㈱パスモ商標利用許諾済　第57号
- ㈱パスモの都合により予告なくPASMOカードが交換されることがあります。
- 【JR東日本Suica利用承認第18号】
  ※Suicaは東日本旅客鉄道株式会社の登録商標です。
  ※当該商品は、東日本旅客鉄道株式会社が本商品・サービスの内容・品質を保証するものではありません。
  ※東日本旅客鉄道株式会社の都合により、予告なくSuicaカードが交換されることがあります。
- FeliCa Secure Client、SFCard Viewer、FeliCaブラウザエクステンション、FeliCaポート自己診断は、ソニー株式会社の著作物であり、FeliCa Secure Client、SFCard Viewer、FeliCaブラウザエクステンション、FeliCaポート自己診断にかかる著作権、その他の権利はソニー株式会社および各権利者に帰属します。
- 「Near Field Rights Management」、「NFRM」および「カザスチャンネル」は、日本国内におけるフェイスの商標または登録商標です。
- 「Edy（エディ）」は、ビットワレット株式会社が管理するプリペイド型電子マネーサービスのブランドです。
- eLIOは、株式会社ソニーファイナンスインターナショナルの登録商標です。
- WiMAXはWiMAX Forumの商標です。

本書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

5 プロセッサ（CPU）に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ（CPU）の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- 周辺機器を接続して本製品を使用する場合
- ACアダプターを接続せずバッテリー駆動にて本製品を使用する場合
- マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- 複雑な造形に使用するソフト（例えば、運用に高性能コンピューターが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト）を本製品上で使用する場合
- 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
  目安として、標高1,000メートル（3,280フィート）以上をお考えください。
- 目安として、気温5～30℃（高所の場合25℃）の範囲を超えるような外気温の状態で本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPUの処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。
また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

■64ビットプロセッサに関する注意

64ビット対応プロセッサは、64ビットまたは32ビットで動作するように最適化されています。
64ビット対応プロセッサは以下の条件をすべて満たす場合に64ビットで動作します。

- 64ビット対応のOS（オペレーティングシステム）がインストールされている
- 64ビット対応のCPU/チップセットが搭載されている
- 64ビット対応のBIOSが搭載されている
- 64ビット対応のデバイスドライバーがインストールされている
- 64ビット対応のアプリケーションがインストールされている

特定のデバイスドライバーおよびアプリケーションは64ビットプロセッサ上で正常に動作しない場合があります。
プレインストールされているOSが、64ビット対応と明示されていない場合、32ビット対応のOSがプレインストールされています。

このほかの使用制限事項につきましては各種説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝PCあんしんサポートにお問い合わせください。

6 著作権について

音楽、映像、コンピューター・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

7 リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ずお読みください。次の操作を行うと表示されます。

① ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［はじめに］→［リリース情報］をクリックする

8 お願い

- 本製品の内蔵ハードディスクにインストールされている、または付属のCD／DVDからインストールしたシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- Windows標準のシステムツールまたは『セットアップガイド』に記載している手順以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェアの領域を壊すおそれがあります。
- 内蔵ハードディスクにインストールされている、または付属のCD／DVDからインストールしたシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- 購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種（型番）を確認後、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。有料にてパスワードを解除します。HDDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有料です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- 本製品はセキュリティ対策のためのパスワード設定や、無線LANの暗号化設定などの機能を備えていますが、完全なセキュリティ保護を保証するものではありません。セキュリティの問題の発生や、生じた損害に関し、弊社はいっさいの責任を負いません。
- 指紋認証機能は、正しくお使いいただいた場合でも、個人差により指紋情報が少ないなどの理由で、登録・使用ができない場合があります。
- 指紋認証機能は、データやハードウェアの完全な保護を保証しておりません。本機能を利用したことによる、いかなる障害、損害に関して、いっさいの責任は負いかねますので、ご了承ください。

- 「ウイルスバスター」を使用している場合、ウイルス定義ファイルおよびファイアウォール規則などは、新種のウイルスやワーム、スパイウェア、クラッキングからコンピューターを保護するためにも、常に最新のものにアップデートする必要があります。最新版へのアップデートは、ご使用開始から90日間に限り無料で行うことができます。90日を経過するとウイルスチェック機能を含めて、すべての機能がご使用できなくなります。ウイルスチェックが全く行われない状態となりますので、必ず期限切れ前に有料の正規サービスへ登録するか、市販のウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトを導入してください。
- ご使用の際は必ず本書をはじめとする各種説明書と『エンドユーザー使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』をお読みください。
- アプリケーション起動時に使用許諾書が表示された場合は、内容を確認し、同意してください。使用許諾書に同意しないと、アプリケーションを使用することはできません。一部のアプリケーションでは、一度使用許諾書に同意すると、以降起動時に使用許諾書は表示されなくなります。リカバリーを行った場合には再び使用許諾書が表示されます。
- 『東芝保証書』は、記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

本製品のお客様登録（ユーザー登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。弊社ホームページで登録できます。

参照 詳細について「付録 3 お客様登録の手続き」

9 ［ユーザー アカウント制御］画面について

操作の途中で［ユーザーアカウント制御］画面が表示された場合は、そのメッセージを注意して読み、開始した操作の内容を確認してから、画面の指示に従って操作してください。
パスワードの入力を求められた場合は、管理者アカウントのパスワードで認証を行ってください。

1章

使いはじめる前に

前のパソコンで使っていたデータを移行する便利なソフト「PC引越ナビ」について説明します。

1 前のパソコンのデータを移行する
－PC引越ナビ－

＊PC引越ナビ搭載モデルのみ

パソコンを買い替えたときは、それまでに使用していたパソコンと同じ環境にするために、設定やデータの移行といった準備が必要です。
「PC引越ナビ」は、データや設定を一つにまとめ、新しいパソコンへの移行の手間を簡略化することができるアプリケーションです。事前に次の点を確認しておくと、よりスムーズに操作ができます。

ここでは、移行したい設定やデータが保存されているパソコンを「前のパソコン」、設定やデータを移行したいパソコンを「本製品」として説明します。

パソコンの仕様を確認する

■前のパソコンの動作環境を確認する

「PC引越ナビ」は、次のシステムに対応しています。

- **システム**＊1
  Windows XP／Windows Vista／Windows 7

＊1 マイクロソフト社が提供している最新のService Packを適用してください。また、「Internet Explorer」のバージョンが「6 SP1」以上であることを確認してください。それ以下のバージョンの場合は、「6 SP1」を適用してください。
システムの正式名称は次のとおりです。
Windows XP..........Microsoft® Windows® XP operating system 日本語版の全エデション
Windows Vista .....Microsoft® Windows Vista® の全エディション
Windows 7............Microsoft® Windows® 7の全エディション

お願い 前のパソコンの動作環境について

- あらかじめ、「付録 1-1 「PC引越ナビ」について」を確認してください。

■使用できる環境を確認する

設定・データの移行をするには、次の方法があります。

- USBフラッシュメモリを使用する
- USBフラッシュメモリとネットワーク（有線LAN）を使用する
- USBフラッシュメモリとクロスケーブル（有線LAN）を使用する

前のパソコンと、本製品の仕様を確認し、共通して使用できる方法のなかから、移行する設定・データの容量に適した方法を選んでください。

USBフラッシュメモリのみで移行する場合は、512MB以上の容量が必要です。
USBフラッシュメモリの代わりに、メディアカードを使用することもできます。

本製品で使用できるメディアについては、「2章 6-1 使えるメディアを確認しよう」で確認してください。

前のパソコンでどの方法が使用できるかを確認し、USBフラッシュメモリやネットワーク用のケーブルが必要な場合は購入してください。また、フォーマットが必要なUSBフラッシュメモリは、あらかじめフォーマットしてください。
移行するファイルや設定内容に比べて、USBフラッシュメモリの容量が小さいと、数回に分けてデータをコピーすることになりますので、大容量のUSBフラッシュメモリを移行用に使用することをおすすめします。

移行できる設定とデータ

「PC引越ナビ」を起動したときの、ユーザーの設定とデータを移行できます。

- **Internet Explorerの設定** *1
- **Windows Live メール（Windows メール、Outlook Express）の設定** *2*4
- **Microsoft Outlookの設定** *3*4
- **［ドキュメント］（Windows XPでは［マイドキュメント］）フォルダーに保存されているファイル**
- **デスクトップ上のファイル**
- **任意のフォルダーに含まれるファイル**

＊1 Microsoft Internet Explorer 6 SP1以上
＊2 移行できるデータは、「Microsoft Outlook Express（バージョンが6 SP1以上）」、「Windows メール」、「Windows Live メール」のものになります。
＊3 移行できるデータは、「Microsoft Outlook 2000」以降のものになります。
本製品には、Office搭載モデルにのみ、「Microsoft Outlook」が付属およびインストールされています。Officeが搭載されていないモデルの場合、前のパソコンに保存されている「Microsoft Outlook」のデータを本製品に移行したいときは、「PC引越ナビ」をご使用の前に、市販の「Microsoft Outlook」を本製品にインストールする必要があります。
移行するためには、「Microsoft Outlook 2003」以降の「Microsoft Outlook」をインストールしてください。
＊4 本製品にメールソフトがインストールされていない場合でも、「PC引越ナビ」はパソコンにデータを保存します。
「Windows Live メール」および「Microsoft Outlook」は起動したときに、保存したデータのインポート（取り込み）を行います。
メールソフトによっては、違うソフトのデータを変換して取り込むことができます。
詳しくは、メールソフトのヘルプを確認してください。

メモ

- 移行できる設定やデータについて、詳しくは、「PC引越ナビ」のヘルプで確認してください。

お願い **操作にあたって**

- あらかじめ、「付録 1-1 「PC引越ナビ」について」を確認してください。

1 インストール方法

「PC引越ナビ」は、購入時の状態ではインストールされていません。
次の手順でインストールしてください。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする

2 ［セットアップ画面へ］をクリックする

3 ［アプリケーション］タブをクリックする

4 画面左側の［PC引越ナビ］をクリックし、［「PC引越ナビ」のセットアップ］をクリックする

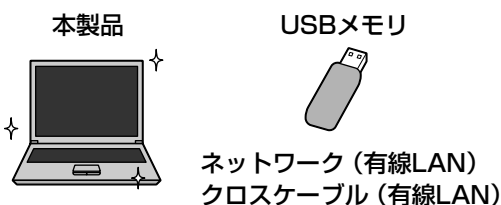
5 画面の指示に従ってインストールする

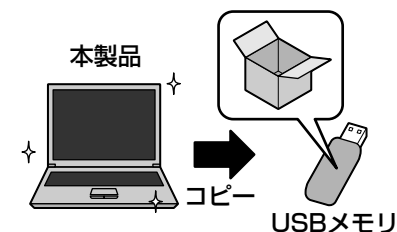
［ファイルのダウンロード］画面が表示された場合は、［実行］ボタンをクリックしてください。

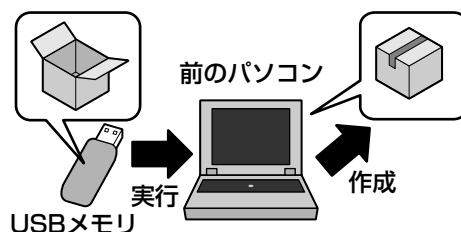
2 操作の流れ

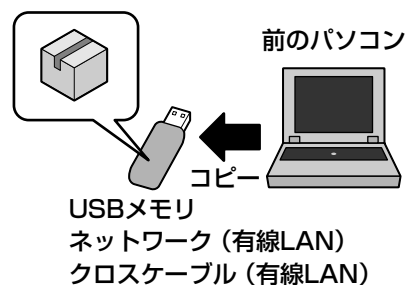
設定とデータの移行は、画面の指示に従って行います。移行する設定・データや使用する移行方法などで詳細の操作は異なりますが、大まかな流れは次のとおりです。
本製品と、前のパソコンとで交互に作業を行いますので、近くに設置して行うとよいでしょう。

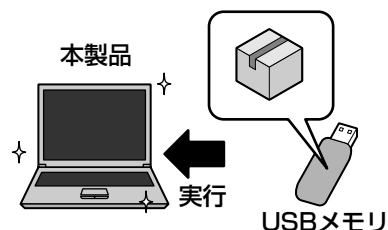
移行方法を決める

いくつかある移行方法のなかから、前のパソコンと本製品の仕様や、移行するデータの容量を元に移行方法を選択します。

「こん包プログラム」をコピーする

「こん包プログラム」は複数のファイルを1つにまとめるプログラムです。
USBフラッシュメモリにコピーしてください。

「こん包プログラム」を実行する

コピーした「こん包プログラム」を前のパソコンで実行し、移行する複数のデータを1つのファイル（「こん包ファイル」）にまとめます。

「こん包ファイル」をコピーする

作成した「こん包ファイル」をコピーします。移行するデータの容量によっては、「こん包ファイル」は複数作成されます。すべての「こん包ファイル」をコピーしてください。

「こん包ファイル」を開こんする

コピーした「こん包ファイル」を本製品で開き、コピーします。

3 起動方法

1 デスクトップ上の［PC引越ナビ］（ ）をダブルクリックする

「PC引越ナビ」が起動します。
［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［PC引越ナビ］をクリックして起動することもできます。

2 画面下の ヘルプ? ボタンをクリックし、注意制限事項を確認する

「PC引越ナビ」のヘルプが表示されます。
「PC引越ナビ」の注意制限事項をお読みください。
目次で［注意制限事項］をクリックし、画面右側に表示される各項目をよくお読みください。

3 ［同意する］をチェックし、［次へ］ボタンをクリックする

使用許諾契約に同意しないと、「PC引越ナビ」を使用することはできません。
注意事項が表示されます。内容を確認し、［次へ］ボタンをクリックしてください。

引き続き、説明画面が表示されますので、内容を確認しながら、操作してください。

2章

パソコンの基本操作を覚えよう

このパソコン本体の各部について、基本の使いかたなどを説明しています。

1 電源を入れるとき

1 メッセージが表示された場合

電源を入れたときにメッセージが表示された場合は、次の内容を確認してください。

■パスワードを設定している場合

- **ユーザーパスワードを設定している場合**

  電源を入れると次のメッセージが表示されます。

  ```
  Password =
  ```

  設定したユーザーパスワードまたはスーパーバイザーパスワードを入力し、ENTERキーを押してください。

メモ

- 購入時の設定では、パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。
- 「指紋認証ユーティリティ」で起動認証機能を有効にし、指紋を登録すると、パスワードを設定している場合に表示される「Password=」というメッセージの代わりに、指紋認証を行う画面が表示されます。指紋認証を行うと、起動認証機能によってパスワードの認証が行われます。
  認証を5回失敗するか、一定時間が経過する、またはBACKSPACEキーを押すと、「Password=」が表示されます。
  指紋認証について詳しくは、「7章 4 指紋認証を使う」または「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。
- 「東芝パスワードユーティリティ」の［スーパーバイザーパスワード］タブで、［ユーザーポリシーの設定］画面の［ユーザーパスワードの登録／変更を強制する］をチェックすると、次のように設定されます。
  - **・ユーザーパスワードが登録されていない場合**
    設定後の１回目の起動時に、「New Password=」と表示されます。
    ユーザーパスワードの登録を行ってください。
  - **・ユーザーパスワードが登録されている場合**
    設定後の起動時、「Password=」でユーザーパスワードを初めて入力したときに、「New Password=」と表示されます。
    新しいユーザーパスワードに変更してください。

  「Verify Password=」に「New Password=」で入力したパスワードをもう一度入力すると、ユーザーパスワードが登録／変更されます。

  スーパーバイザーパスワードについて詳しくは、「7章 3-2 スーパーバイザーパスワード」を参照してください。

  参照 パスワードについて「7章 3 パスワードセキュリティ」

● **HDDパスワードを設定している場合**

電源を入れると次のメッセージが表示されます。

```
HDD Password =
```

設定したHDDパスワードを入力し、*ENTER*キーを押してください。

メモ

- ユーザーパスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。
- ユーザーパスワードとHDDパスワードの両方を設定してある場合は、ユーザーパスワード→HDDパスワードの順に認証が求められます。
  ただし、ユーザーパスワードとHDDパスワードが同一の文字列の場合は、ユーザーパスワードの認証終了後、HDDパスワードの認証は省略されます。

参照 パスワードについて「7章 3 パスワードセキュリティ」

■その他のメッセージが表示される場合

不明なメッセージについては、『セットアップガイド』の「Q&A集」をご覧ください。

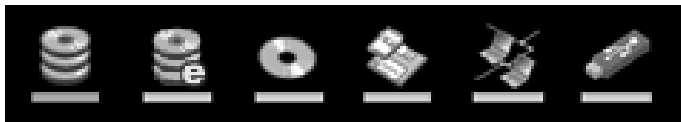
2 起動するドライブを変更する場合

ご購入時の設定では、標準ハードディスクドライブからシステムを起動します。起動するドライブを変更したい場合、次の方法で変更できます。

■一時的に変更する

電源を入れたときに表示されるメニューから、起動するドライブを選択できます。

1 F12 キーを押しながら電源スイッチを押す

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。
パスワードを入力して ENTER キーを押してください。
アイコンの下に選択カーソルが表示されます。

アイコンは左から、次の順に表示されます。

HDD→eSATA HDD→CD-ROMドライブ→FDDまたはSDメモリカード*1
→ネットワーク→USBフラッシュメモリ

別売りのフロッピーディスクドライブが接続されている場合、FDDまたはSDメモリカード*1 アイコンを選択すると、フロッピーディスクドライブが優先されます。

＊1 本機能には、SDHCメモリカードは対応しておりません。

2 起動したいドライブを ← または → キーで選択し、 ENTER キーを押す

■あらかじめ設定しておく

「東芝HWセットアップ」の［OSの起動］タブで起動ドライブの優先順位を変更できます。

参照 設定の変更「東芝HWセットアップ」のヘルプ

SDメモリカードから起動する

「東芝SDメモリブートユーティリティ」では、SDメモリカードで起動ディスクを作成することができます。
詳細については、「東芝SDメモリブートユーティリティ」のヘルプを参照してください。

メモ

- 本機能には、SDHCメモリカードは対応しておりません。

■東芝SDメモリブートユーティリティの起動方法

1 SDカードスロットにSDメモリカードをセットする

参照 「2章 9-2-1 セットする」

2 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［SDメモリブートユーティリティ］をクリックする

［東芝SDメモリブートユーティリティ］画面が表示されます。ヘルプを参照し、起動ディスクを作成してください。

■東芝SDメモリブートユーティリティのヘルプの起動方法

1 「東芝SDメモリブートユーティリティ」を起動後、［ヘルプ］ボタンをクリックする

2 パソコンの使用を中断する

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スリープまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。
再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断した時の状態が再現されます。

⚠警告

- **電子機器の使用が制限されている場所ではパソコンの電源を切る**
  パソコン本体を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線機能を無効に設定した上で、パソコンの電源を切ってください。他の機器に影響を与えることがあります。
  ・無線機能は、ワイヤレスコミュニケーションスイッチで無効にすることができます。ワイヤレスコミュニケーションスイッチで無線機能を無効に設定し、ワイヤレスコミュニケーションLEDが消灯しているのを確認してください。
  ・スリープや休止状態では、パソコンが自動的に動作することがあるため、飛行を妨げたり、他のシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。
  ・電源を切った状態でもパソコンが自動的に動作するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効に（解除）してください。

お願い　操作にあたって

中断する前に

- スリープまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- スリープまたは休止状態を実行するときは、メディアへの書き込みが完全に終了していることを確認してください。
  書き込み途中のデータがある状態でスリープまたは休止状態を実行したとき、データが正しく書き込まれないことがあります。メディアを取り出しできる状態になっていれば書き込みは終了しています。

中断したときは

- スリープ中に以下のことを行わないでください。次回電源を入れたときに、システムが起動しないことがあります。
  ・スリープ中にメモリを取り付け／取りはずしすること
  ・スリープ中にバッテリーをはずすこと
  また、スリープ中にバッテリー残量が減少した場合も同様に、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。
  システムが起動しない場合は、電源スイッチを5秒間押していったん電源を切ったあと、再度電源を入れてください。この場合、スリープ前の状態は保持できていません（Windowsエラー回復処理で起動します）。
- スリープ中や休止状態では、バッテリーやメモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。保存されていないデータは消失します。また、感電、故障のおそれがあります。
- スリープまたは休止状態を利用しないときは、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。

1 スリープ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。
スリープはすばやく状態が再現されますが、バッテリーを消耗します。作業を中断している間にバッテリーの残量が少なくなった場合などは、通常のスリープではそれまでの作業内容は消失します。
ACアダプターを取り付けて使用することを推奨します。
なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合（メモリやバッテリーパックの取り付け／取りはずしなど）は、スリープではなく、必ず電源を切ってください。
スリープの実行方法は『セットアップガイド』を確認してください。

メモ

- FN＋F3キーを押して、スリープにすることもできます。

2 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現できます。なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合（メモリやバッテリーパックの取り付け／取りはずしなど）は、休止状態ではなく、必ず電源を切ってください。

1 休止状態の実行方法

1 ［スタート］ボタン（ ）をクリックし①、 にポインターを合わせる②

2 **表示されたメニューから［休止状態］をクリックする**

メニューが表示されない場合は、▶ をクリックしてください。

休止状態から復帰させるときは、電源スイッチを押してください。

メモ

- FN＋F4キーを押して、休止状態にすることもできます。

3 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

［スタート］メニューから操作せずに、パソコン本体の電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じるときに、電源を切る（電源オフ）、またはスリープ／休止状態にすることができます。

1 パソコン本体の電源スイッチを押したときの動作の設定

1 **［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする**

2 **［ システムとセキュリティ］をクリックする**

3 **［ 電源ボタンの動作の変更］をクリックする**

4 **［電源ボタンを押したときの動作］で［スリープ状態］［休止状態］［シャットダウン］のいずれかを選択する**

［何もしない］に設定すると、特に変化はありません。
「バッテリ駆動」時と「電源に接続」時のそれぞれについて設定してください。

5 **［変更の保存］ボタンをクリックする**

パソコン本体の電源スイッチを押すと、選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

2 ディスプレイを閉じるときの動作の設定

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ システムとセキュリティ］をクリックする

3 ［ 電源ボタンの動作の変更］をクリックする

4 ［カバーを閉じたときの動作］で［スリープ状態］［休止状態］［シャットダウン］のいずれかを選択する

［何もしない］［シャットダウン］に設定すると、パネルスイッチ機能は働きません。
「バッテリ駆動」時と「電源に接続」時のそれぞれについて設定してください。

5 ［変更の保存］ボタンをクリックする

ディスプレイを閉じると、設定した状態へ移行します。
［スリープ状態］［休止状態］に設定した場合は、次にディスプレイを開くと、自動的にディスプレイを閉じる前の状態が再現されます。

メモ

- ディスプレイを閉じることによって［スリープ状態］［休止状態］のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。

3 タッチパッド

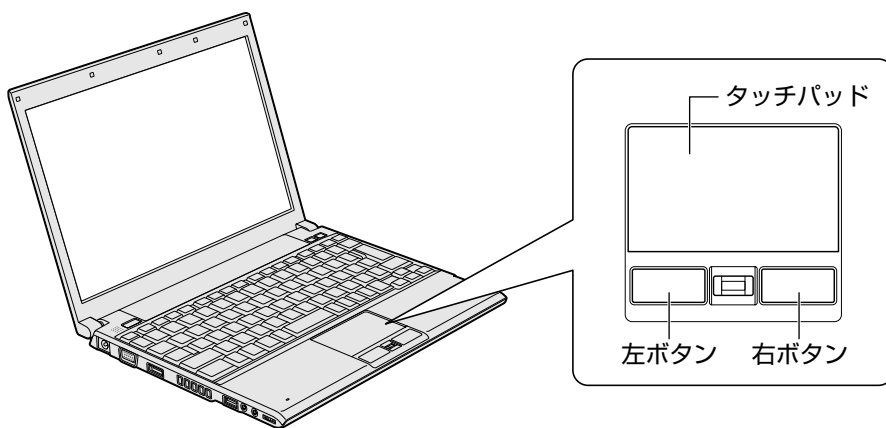
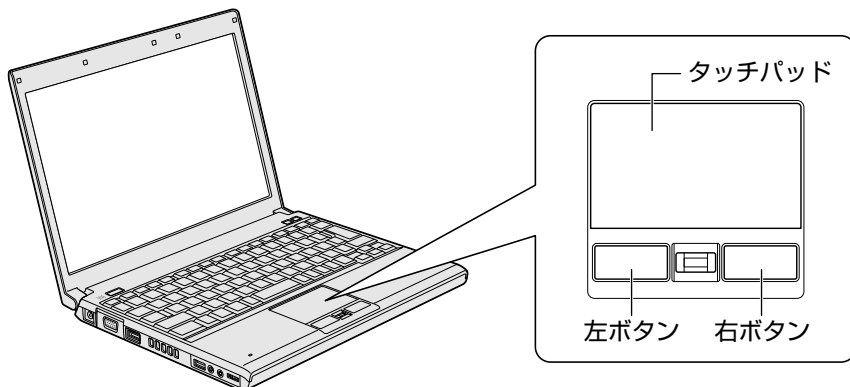
1 タッチパッドで操作する

電源を入れてWindowsを起動すると、パソコンのディスプレイに が表示されます。この矢印を「ポインター」といい、操作の開始位置を示しています。この「ポインター」を動かしながらパソコンを操作していきます。
パソコン本体には、「ポインター」を動かすタッチパッドと、操作の指示を与える左ボタン／右ボタンがあります。

タッチパッドと左ボタン／右ボタンを使ってポインターを動かし、パソコンを操作してみましょう。
ここでは、タッチパッドと左ボタン／右ボタンの基本的な機能を説明します。

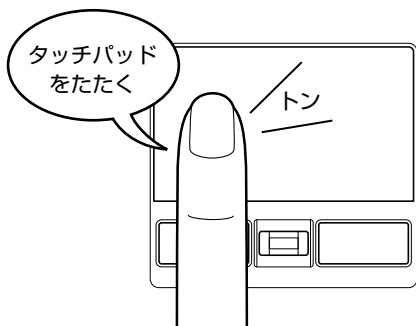
お願い タッチパッドの操作にあたって

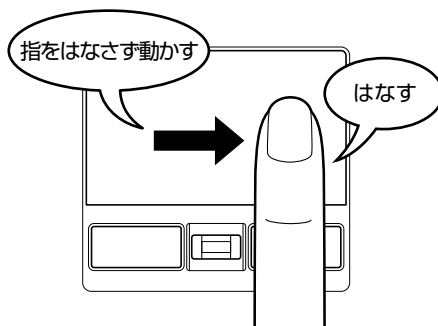
- あらかじめ、「付録 1 - 2 - タッチパッドの操作にあたって」を確認してください。

■RX2シリーズ、RX2Lシリーズの場合

■N12シリーズの場合

1 タッピングの方法

タッチパッドを指で軽くたたくことを「タッピング」といいます。
タッピング機能を使うと、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

❏ クリック／ダブルクリック

タッチパッドを1回軽くたたくとクリック、2回たたくとダブルクリックができます。

❏ ドラッグアンドドロップ

タッチパッドを続けて2回たたき、2回目はタッチパッドから指をはなさずに目的の位置まで移動し、指をはなします。

2 タッチパッドの使用環境を設定する

タッチパッドやポインタの設定は、［マウスのプロパティ］で行います。

1 ［マウスのプロパティ］の起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ ハードウェアとサウンド］→［ マウス］をクリックする

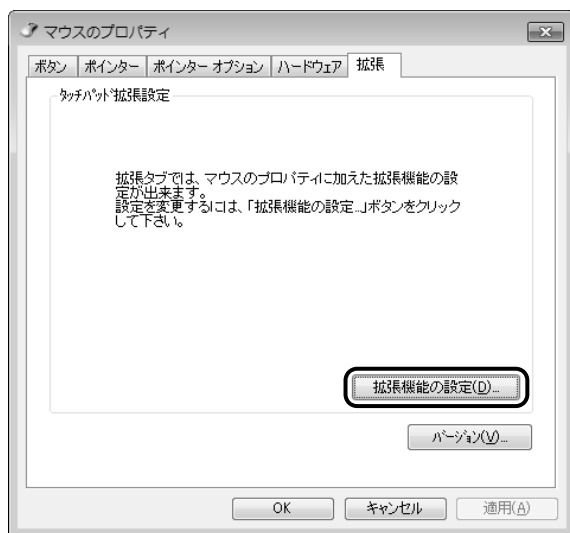
［マウスのプロパティ］画面が表示されます。

3 各タブで機能を設定し、[OK] ボタンをクリックする

各機能の設定については、以降の説明を参照してください。
[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

2 タッチパッドの設定方法

[マウスのプロパティ] では、タッチパッドやポインターなどの各種設定ができます。
タッチパッドの設定をするには、次のように操作してください。

1 [拡張] タブで [拡張機能の設定] ボタンをクリックする

[拡張機能の設定] 画面が表示されます。

2 ［タッチパッド］タブまたは［その他］タブで各項目を設定する

各項目にポインタを合わせると、画面下部の［説明］欄に詳細が表示されます。

役立つ操作集

タッチパッドを無効/有効にするには

キー操作でタッチパッドによる操作を無効にしたり、有効にしたりすることができます。

FN＋F9キーを押すごとに、タッチパッドの無効／有効が切り替わります。

FN＋F9キーでタッチパッドの有効／無効を切り替える場合は、タッチパッドから手を離してから行ってください。

FN＋F9キーでタッチパッドの操作を有効にした瞬間、カーソルの動きが数秒不安定になることがあります。そのような場合は、1度タッチパッドから手を離してください。しばらくすると、正常に操作できるようになります。

USB対応マウス接続時に、自動的にタッチパッドを無効にする

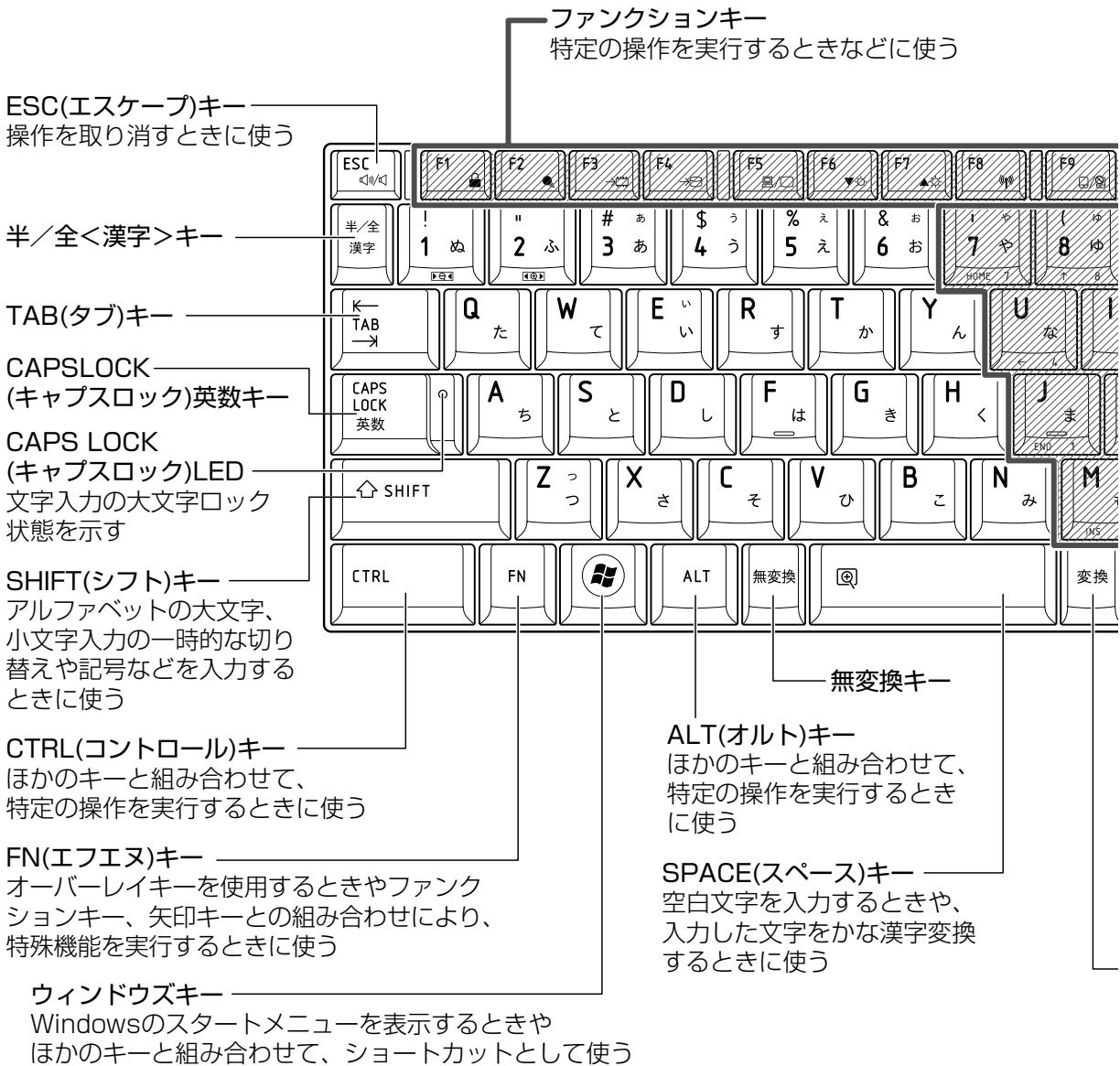
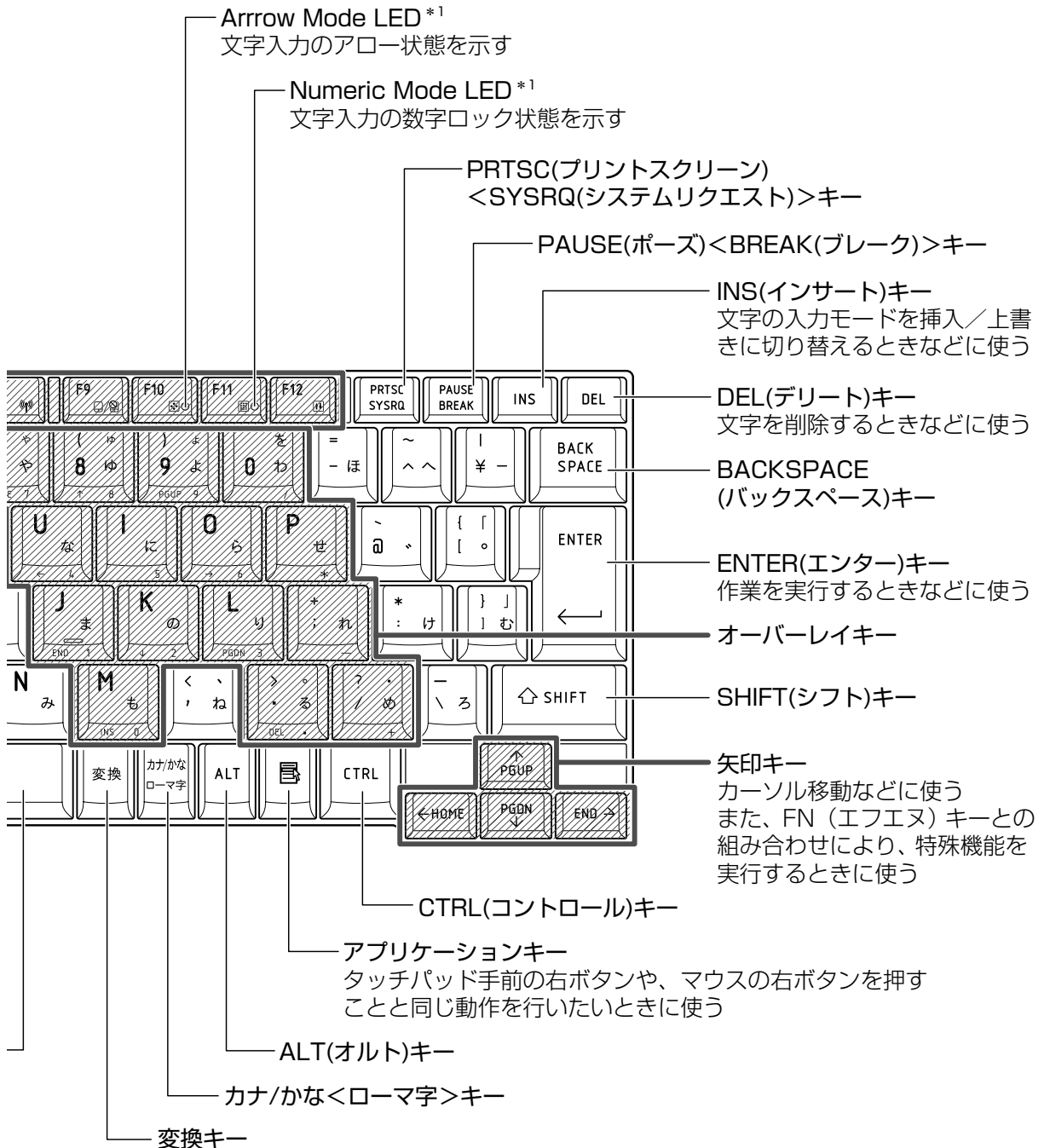
USB対応のマウスを接続したときに、タッチパッドによる操作が自動的に無効になるように設定することができます。

① ［スタート］ボタン（　）→［コントロールパネル］をクリックする
② ［ハードウェアとサウンド］→［マウス］をクリックする
③ ［拡張］タブで［拡張機能の設定］ボタンをクリックする
　［拡張機能の設定］画面が表示されます。
④ ［その他］タブの［USBマウス接続時の動作］で［タッチパッドを無効にする］をチェックする
⑤ ［OK］ボタンをクリックする
　［マウスのプロパティ］画面に戻ります。
⑥ ［OK］ボタンをクリックする

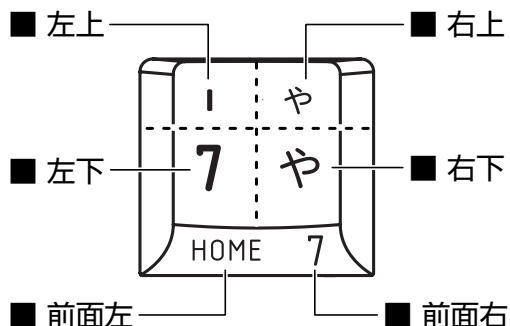
FN＋F9キーを押して設定する「タッチパッドオン／オフ機能」とは連動していません。
市販のUSB対応マウスをお使いの場合、マウスの種類によっては、本機能が動作しない場合があります。

4 キーボード

ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。

1 キーボード図

＊1「本節 2 - FN キーを使った特殊機能キー」を確認してください。

2 キーボードの文字キーの使いかた

文字キーは、文字や記号を入力するときに使います。文字キーに印刷されている文字や記号は、キーボードの文字入力の状態によって変わります。

左上	ほかのキーは使わず、そのまま押すと、アルファベットの小文字などが入力できます。SHIFTキーを押しながら押すと、記号やアルファベットの大文字が入力できます。
左下	ほかのキーは使わず、そのまま押すと、数字や記号が入力できます。
右上	かな入力ができる状態でSHIFTキーを押しながら押すと、記号、ひらがなの促音（小さい「っ」）、拗音（小さい「ゃ、ゅ、ょ」）が入力できます。
右下	かな入力ができる状態で押すと、ひらがなや記号が入力できます。
前面左	アロー状態のときに押すと、カーソル制御キーとして使えます。
前面右	数字ロック状態のときに押すと、テンキーとして使えます。

「TOSHIBA Flash Cards」について

「TOSHIBA Flash Cards」は、タッチパッドやマウスの操作で簡単にホットキー機能の実行や東芝製のユーティリティを起動することができるユーティリティです。
デスクトップ上にカードのように表示されるアイコンを選択し、それぞれのカードに割り当てられている機能を設定・実行することができます。

■操作方法

1 FNキーを押す

次のように「TOSHIBA Flash Cards」が表示されます。

（表示例）

2 設定したい機能のカードをクリックする

カードとアイコンが表示されます。

3 表示されたアイコンのうち、設定したい項目にポインターを合わせる

ポインターを合わせると、アイコンが大きくなります。

4 設定したい項目のアイコンが大きい状態でクリックする

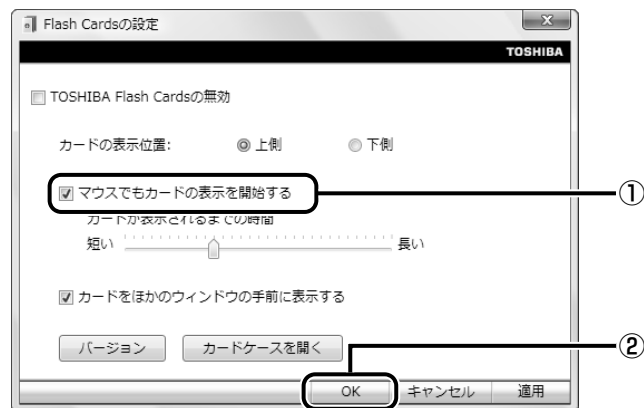
選択した項目に設定されます。

各カードに割り当てられている機能は、「TOSHIBA Flash Cards」のヘルプを参照してください。

■マウス操作でカードを表示させる

ポインターをデスクトップ上部に合わせることによって、「TOSHIBA Flash Cards」が表示されるように設定することもできます。次の手順を行ってください。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［Flash Cardsの設定］をクリックする

2 ［マウスでもカードの表示を開始する］をチェックし①、［OK］ボタンをクリックする②

■「TOSHIBA Flash Cards」のヘルプの起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［Flash Cards ヘルプ］をクリックする

キーを使った便利な機能

各キーにはさまざまな機能が用意されています。いくつかのキーを組み合わせて押すと、いろいろな操作が実行できます。

❏ FN キーを使った特殊機能キー

キー	内容
FN ＋ ESC <スピーカーのミュート>	FN キーを押したまま、ESC キーを押すたびに内蔵スピーカーやヘッドホンの音量のミュート（消音）のオン／オフを切り替えます。
FN ＋ SPACE <本体液晶ディスプレイの解像度切り替え>	FN キーを押したまま、SPACE キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの解像度を切り替えます。
FN ＋ TAB <ドライブの電源オン／オフ機能>	ドライブの電源を切る／入れることができます。 FN キーを押したまま、TAB キーを押すたびに、ドライブの電源を入れる／ディスクトレイを引き出す／ドライブの電源を切るのいずれかを選択できます。
FN ＋ F1 <インスタントセキュリティ機能>	コンピューターをワークステーションロック状態にします。 解除するには、ユーザー名をクリックしてください。 Windowsのログオンパスワードを設定している場合は、パスワード入力欄にWindowsのログオンパスワードを入力し、ENTER キーを押してください。
FN ＋ F2 <電源プランの設定>	FN ＋ F2 キーを押すと、設定されている電源プランが表示されます。 FN キーを押したまま、F2 キーを押すたびに電源プランが切り替わります。
FN ＋ F3 <スリープ機能の実行>	FN キーを押したまま、F3 キーを押し直し、［スリープ］アイコンが大きい状態で指をはなすと、スリープ機能が実行されます。
FN ＋ F4 <休止状態の実行>	FN キーを押したまま、F4 キーを押し直し、［休止状態］アイコンが大きい状態で指をはなすと、休止状態が実行されます。
FN ＋ F5 <表示装置の切り替え>	表示装置を切り替えます。 参照 詳細について「4章 4 外部ディスプレイの接続」
FN ＋ F6 <本体液晶ディスプレイの輝度を下げる>	FN キーを押したまま、F6 キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。表示される画面のスライダーバーで輝度の状態を確認できます。
FN ＋ F7 <本体液晶ディスプレイの輝度を上げる>	FN キーを押したまま、F7 キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。表示される画面のスライダーバーで輝度の状態を確認できます。
FN ＋ F8 <無線通信機能のオン／オフ機能>	ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOnにしている場合、FN キーを押したまま、F8 キーを押すたびに使用する無線LANまたはBluetoothのオン／オフを切り替えます。＊1

＊1 無線LANは無線LANモデルのみ、BluetoothはBluetoothモデルのみ

キー	内容
FN＋F9 <タッチパッド オン／オフ機能>	タッチパッドからの入力を無効にできます。再び有効にするには、もう1度FN＋F9キーを押します。 参照 詳細について「本章 3-2-2-役立つ操作集-タッチパッドを無効／有効にするには」
FN＋F10 <オーバーレイ機能>	FNキーを押したまま、F10キーを押すと、アロー状態になります。キー前面左に印刷されているカーソル制御キー（↑↓←→HOME PGUPなど）として使えます。アロー状態を解除するには、もう1度FN＋F10キーを押します。 Arrow Mode LEDが点灯します。
FN＋F11 <オーバーレイ機能>	FNキーを押したまま、F11キーを押すと、数字ロック状態になります。 キー前面右に印刷されているテンキー（1 2 3など）として使えます。数字ロック状態を解除するには、もう1度FN＋F11キーを押します。 アプリケーションによっては異なる場合があります。 Numeric Mode LEDが点灯します。
FN＋F12 <スクロールロック状態>	一部のアプリケーションで、↑↓←→キーを画面スクロールとして使用できます。ロック状態を解除するには、もう1度FN＋F12キーを押します。
FN＋↑ <PGUP（ページアップ）>	一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、↑キーを押すと、前のページに移動できます。
FN＋↓ <PGDN（ページダウン）>	一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、↓キーを押すと、次のページに移動できます。
FN＋← <HOME（ホーム）>	一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、←キーを押すと、カーソルが行または文書の最初に移動します。
FN＋→ <END（エンド）>	一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、→キーを押すと、カーソルが行または文書の最後に移動します。
FN＋1 <縮小>	デスクトップや一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、1キーを押すと、画面やアイコンなどが縮小されます。
FN＋2 <拡大>	デスクトップや一般的なアプリケーションで、FNキーを押したまま、2キーを押すと、画面やアイコンなどが拡大されます。

役立つ操作集

「TOSHIBA Smooth View」

「TOSHIBA Smooth View」は、キーボードを使って、最前面に表示されているアプリケーションの画面やデスクトップ上のアイコンを拡大／縮小表示できるアプリケーションです。

● **起動方法**

① ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［Smooth View］をクリックする

● **ヘルプの起動方法**

①「TOSHIBA Smooth View」を起動後、画面右上の［ヘルプ］ボタン（ ）をクリックする
② 画面上の知りたい項目にポインターを合わせ、クリックする

● **使用方法**

① FN キーを押したまま、1 キーまたは 2 キーを押す
画面やアイコンなどを縮小するときは 1 キー、拡大するときは 2 キーを押します。

❏ 特殊機能キー

特殊機能	キー	操作
タスクマネージャーの起動	CTRL + SHIFT + ESC	［Windows タスクマネージャー］画面が表示されます。 アプリケーションやシステムの強制終了を行います。
画面コピー	PRTSC<SYSRQ>	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	ALT + PRTSC<SYSRQ>	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。

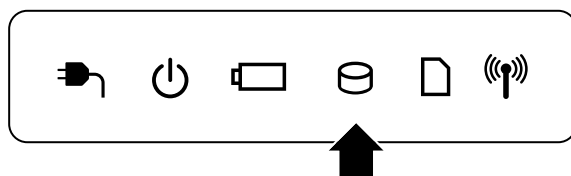
5 ハードディスクドライブ

本製品には、ハードディスクドライブが1台内蔵されています。
内蔵されているハードディスクドライブは、取りはずしできません。
PCカードタイプ（TYPE Ⅱ）、eSATA接続型やUSB接続型のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

お願い **操作にあたって**

- あらかじめ、「付録 1 - 3 ハードディスクドライブについて」を確認してください。

ハードディスクドライブに関する表示

内蔵のハードディスクやeSATA接続型のハードディスクなどとデータをやり取りしているときは、Disk ⊖ LEDが点灯します。

ハードディスクに記録された内容は、故障や障害の原因にかかわらず保証できません。
万が一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。

SSDについて

＊SSD内蔵モデルのみ

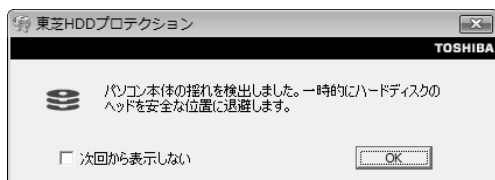
SSD内蔵モデルは、補助記憶装置として、フラッシュメモリを記憶媒体とするドライブを内蔵しています。SSD（ソリッドステートドライブ）とは、ハードディスクの記憶媒体である磁気ディスクの代わりに、NANDフラッシュメモリを使用した大容量記憶媒体です。
SSDの補助記憶装置としての機能は、ハードディスクドライブと同等です。
以下の機能についてもご利用いただけます。

- **BIOSセットアップ**
  BIOSセットアップ画面には「HDD」と表示されますが、SSDでも同様の動作をします。
- **HDDパスワード**
  ハードディスク同様、登録可能です。
- **ハードディスクからのリカバリー**
  ハードディスク同様、SSDからリカバリーできます。

本書および付属の取扱説明書では、HDDとSSDをまとめて「ハードディスクドライブ」と呼びます。

1 東芝HDDプロテクションについて

＊HDD内蔵モデルのみ

「東芝HDDプロテクション」とは、パソコン本体に内蔵された加速度センサーにより振動・衝撃およびその前兆を検出し、HDD（ハードディスクドライブ）を損傷する危険性を軽減する機能です。
パソコンの使用状況に合わせ、検出レベルを設定できます。
パソコン本体の揺れを検知すると、次のメッセージが表示されます。

メッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックして、画面を閉じてください。
HDDのヘッドを退避しているとき、通知領域の［東芝HDDプロテクション］アイコン（ ）が（ ）に変わります。

＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。

お願い 東芝HDDプロテクションの使用にあたって

- パソコンを激しく揺らしたり、強い衝撃を与えると、故障の原因となる場合があります。
- その他の注意事項については、あらかじめ「付録 1 - 3 - 東芝HDDプロテクションの使用にあたって」を確認してください。

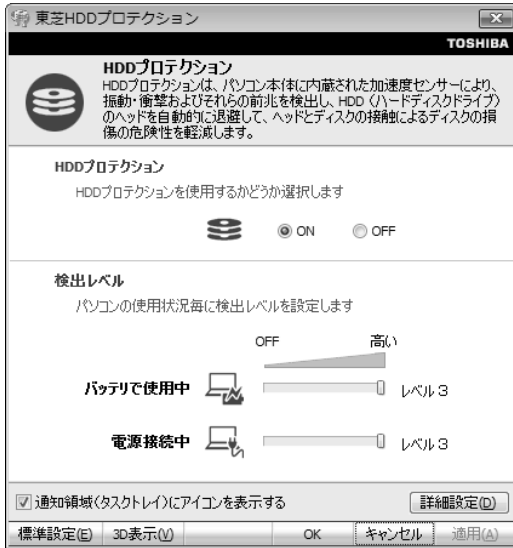
メモ

- 購入時の状態では、東芝HDDプロテクションがONに設定されています。
- パソコン起動時、スリープ、休止状態、および休止状態へ移行中と休止状態からの復帰中、電源を切ったときには、東芝HDDプロテクションは動作しません。パソコンに衝撃が加わらないようにご注意ください。

設定方法

東芝HDDプロテクションでは、パソコンの使用状況に合わせて検出レベルを設定することができます。

1 **［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［HDDプロテクションの設定］をクリックする**

［東芝HDDプロテクション］画面が表示されます。

メモ　3D表示

- ［東芝HDDプロテクション］画面で［3D表示］ボタンをクリックすると、［3D表示］画面が表示され、パソコン本体の傾きや揺れに合わせて動く3Dオブジェクトを画面上に表示します。振動を検出し、HDDのヘッドを退避させている間は、画面に表示されているディスクの回転が停止し、ヘッド退避が解除されると、回転が再開します。
  ［3D表示］画面を終了する場合は、［閉じる］ボタンをクリックしてください。
- ［3D表示］画面の3Dオブジェクトは、パソコン本体に内蔵されたハードディスクを仮想的に表現したものであり、ハードディスクのディスクの枚数や、ディスクの回転、ヘッドの動作、各部品のサイズや形状、向きなどは実際のものとは異なります。
- ［3D表示］画面を表示した状態でほかの作業を行ったときに、CPUやメモリの使用率が高くなる場合があるため、パソコンの動作が遅くなることがあります。

2 **各項目を設定する**

設定項目は、次のとおりです。
東芝HDDプロテクションを「ON」に設定すると、電源（ACアダプター）接続時とバッテリー使用時でそれぞれ検出レベルを設定することができます。
例えば、机上でパソコンを使う場合（電源接続中）にはレベルを上げておき、手で持って使うとき（バッテリーで使用中）にはレベルを下げる、といった使いかたができます。

HDDプロテクション	東芝HDDプロテクションの「ON」または「OFF」を設定できます。
バッテリーで使用中	「OFF」、「レベル1」、「レベル2」、「レベル3」のいずれかを選択できます。 「レベル3」が最も検出レベルが高いため、東芝HDDプロテクションを有効に使用するには、「レベル3」をおすすめします。 なお使用に応じてレベルを低く設定できます。*1
電源接続中	

＊1 パソコンを手に持って操作したり、不安定な場所で操作した場合、頻繁にHDDプロテクションが動作し、パソコンの応答が遅れることがあります。パソコンの応答速度を優先する場合は、設定を下げてご使用することもできます。

購入時の設定に戻したい場合は、［標準設定］ボタンをクリックしてください。
さらに詳細な設定が必要な場合は手順 3 へ、このまま設定を終了する場合は、手順 5 へ進んでください。

3 ［詳細設定］ボタンをクリックする

［詳細設定］画面が表示されます。

4 必要な項目をチェックし、［OK］ボタンをクリックする

設定項目は、次のとおりです。

ACアダプターを抜いたとき	検出レベル増幅機能を設定できます。パソコンが持ち運ばれる可能性が高いと想定し、約10秒間検出レベルを最大にします。
パネルを閉めたとき	
HDDプロテクション動作時メッセージを表示する	東芝HDDプロテクションが動作したときに、メッセージを表示するように設定できます。

5 ［東芝HDDプロテクション］画面で［OK］ボタンをクリックする

メモ

- 東芝HDDプロテクションの各設定は、通知領域の［東芝HDDプロテクション］アイコン（ ）をクリックし、表示されたメニューから項目を選択して行うこともできます。

6 CDやDVDを使う
ー ドライブ ー

＊ ドライブ内蔵モデルのみ

本製品には、DVDスーパーマルチドライブ1台が内蔵されています。
DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R＊1、DVD+RW、DVD+R＊2、CD-RW、CD-Rの読み出し／書き込み機能と、DVD-ROM、CD-ROMの読み出し機能を搭載したドライブです。
（モデルによっては書き込み機能を禁止しています。）

＊1 N12シリーズでは、本書で「DVD-R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD-R DL（Dual Layer DVD-R）を含みます。
＊2 N12シリーズでは、本書で「DVD+R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD+R DL（DVD+R Double Layer）を含みます。

『安心してお使いいただくために』に、CD／DVDを使用するときに守ってほしいことが記述されています。
CD／DVDを使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

お願い ドライブの電源について

- あらかじめ、「付録 1 - 4 - ドライブの電源について」を確認してください。

1 使えるメディアを確認しよう

使用できるCD／DVDの詳細と、書き込み速度については、「付録 2 記録メディアについて」と『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。
使用するメディアによっては、読み出しができない場合があります。

○：使用できる ×：使用できない

	読み出し＊1	書き込み回数
CD-ROM	○	×
CD-R	○	1回
CD-RW	○	繰り返し書き換え可能＊2
DVD-ROM	○	×
DVD-R	○＊3	1回
DVD-RW	○	繰り返し書き換え可能＊2
DVD+R	○＊3	1回
DVD+RW	○	繰り返し書き換え可能＊2
DVD-RAM	○	繰り返し書き換え可能＊2

＊1 対応フォーマットによっては再生ソフトが必要な場合があります。
＊2 実際に書き換えできる回数は、メディアの状態や書き込み方法により異なります。
＊3 メディアの状態や書き込み方法により、読み出しできない場合があります。

メモ　書き込みできるアプリケーション

- 書き込みに使用できる本製品に添付のアプリケーションは次のとおりです。
  - TOSHIBA Disc Creator（トウシバ ディスク クリエイター）

    参照 「6章 1 CD／DVDにデータのバックアップをとる」
- 記録メディアにデータを書き込むとき、記録メディアの状態やデータの内容、またはパソコンの使用環境によって、実行速度は異なります。

DVDの再生について

本製品では、モデルによってドライブにDVDをセットして、迫力ある映像を楽しむことができます。

DVD再生ソフトウェアとして、「TOSHIBA DVD PLAYER」が用意されています。

参照 「TOSHIBA DVD PLAYER」について「6章 2 DVDの映画や映像を見る」

2 CD／DVDを使うとき（セット）

CD／DVDは、パソコン本体に装備されているドライブにセットして使用します。

お願い CD／DVDの操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1-4 CDやDVDについて」、「付録 2-1 使えるCDを確認しよう」、「付録 2-2 使えるDVDを確認しよう」を確認してください。

メモ　セットする前に確認しよう

- 傷ついたり汚れのひどいCD／DVDの場合は、挿入してから再生が開始されるまで、時間がかかる場合があります。汚れや傷がひどいと、正常に再生できない場合もあります。汚れをふきとってから再生してください。
- CD／DVDの特性やCD／DVDへの書き込み時の特性によって、読み出せない場合もあります。
- CD／DVDの種類によっては、取り出すときWindowsが自動的にセッションを閉じてしまう場合があります。このとき、確認のメッセージなどは表示されません。

  よく確認してからCD／DVDをセットしてください。

  このWindowsの機能を無効にするには、次のように操作してください。

  ① ［スタート］ボタン（ ）→［コンピューター］をクリックする

  ② ドライブのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから［プロパティ］をクリックする

  ドライブのプロパティ画面が表示されます。

  ③ ［書き込み］タブで［共通の設定］ボタンをクリックする

  ④ ［共通の設定］画面で「シングル セッション ディスクを取り出すとき」と「マルチ セッション ディスクを取り出すとき」のチェックをはずし、［OK］ボタンをクリックする
- PCカードスロットを使用する場合、カードによってはディスクトレイが開かなくなる可能性があります。その場合、カードをいったん取りはずしてください。

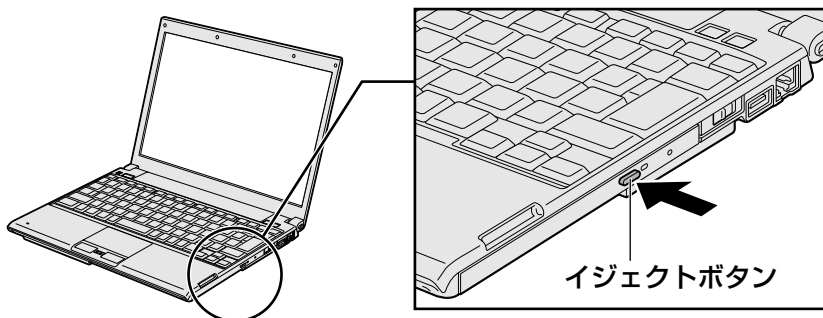
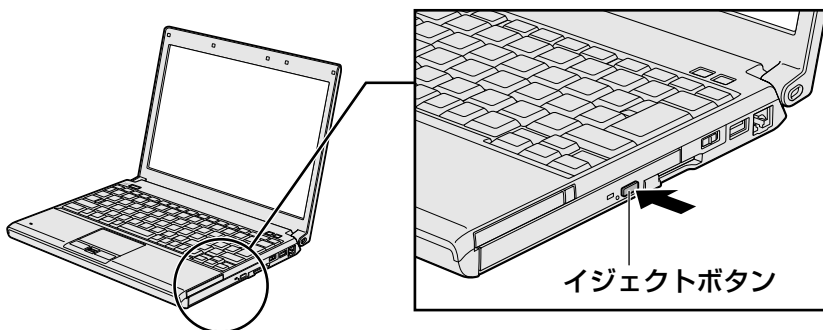
ドライブに関する表示

パソコンの電源が入っていて、ドライブが動作しているときは、ディスクトレイLEDが点灯します。

1 パソコン本体の電源を入れる

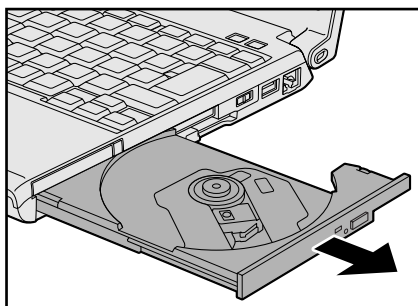
Windowsが起動します。

2 イジェクトボタンを押す

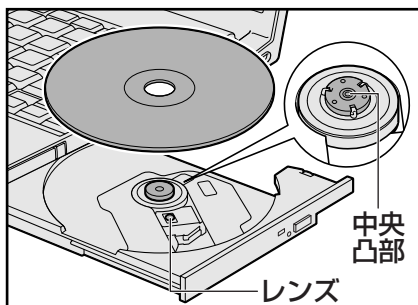
■RX2シリーズ、RX2Lシリーズの場合

■N12シリーズの場合

イジェクトボタンを押したら、ボタンから手をはなしてください。ディスクトレイが少し出てきます（数秒かかることがあります）。

※搭載されているドライブによってイジェクトボタンの位置は異なります。

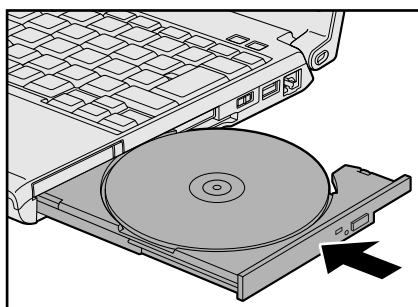
3 ディスクトレイを引き出す

＊イラストはN12シリーズです。

CD／DVDをのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

4 文字が書いてある面を上にして、CD／DVDの穴の部分をディスクトレイの中央凸部に合わせ、上から押さえてセットする

＊イラストはN12シリーズです。

CD／DVDをセットするときは、もう一方の手でディスクトレイを下からそっと支えてください。
「カチッ」と音がして、セットされていることを確認してください。

5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す

＊イラストはN12シリーズです。

3 CD／DVDを使い終わったとき（取り出し）

1 パソコン本体の電源が入っているか確認する

電源が入っていない場合は電源を入れてください。
パソコン本体の電源は入っているが、ドライブには電源が入っていない場合は、「TOSHIBA Flash Cards」で電源を入れてください。

参照 TOSHIBA Flash Cards
「本章 4-2-「TOSHIBA Flash Cards」について」

2 イジェクトボタンを押す

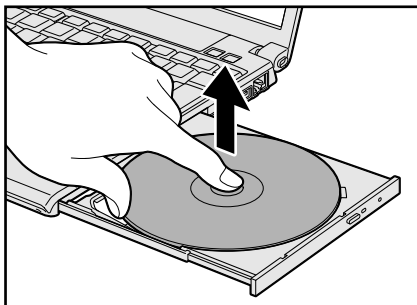
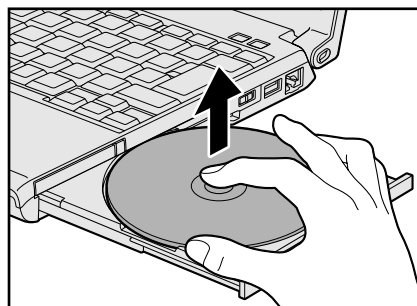
ディスクトレイが少し出てきます。

3 ディスクトレイを引き出す

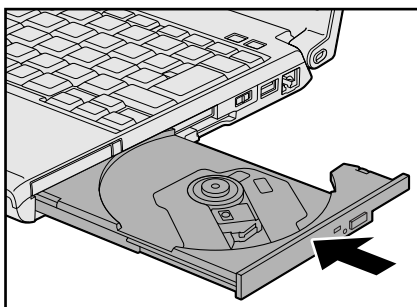
CD／DVDをのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

4 中央凸部を押さえながら、CD／DVDを上に持ち上げる

RX2シリーズ、RX2Lシリーズの場合は、中央凸部を押さえながら、左手前の穴に指を入れて、CD／DVDを上に持ち上げてください。

■RX2シリーズ、
RX2Lシリーズの場合

■N12シリーズの場合

CD／DVDを取り出すときは、もう一方の手でディスクトレイを軽く押さえてください。
CD／DVDが取り出しにくいときは、中央凸部を少し押して、取り出してください。

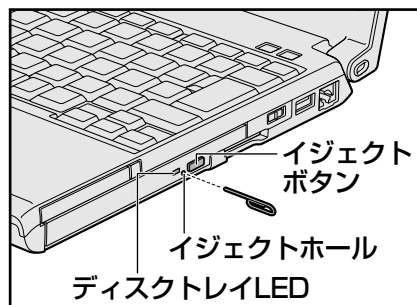
5 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す

＊イラストはN12シリーズです。

CD／DVDが出てこない場合

電源を切っているとき、または休止状態のときは、イジェクトボタンを押してもCD／DVDは出てきません。電源を入れてからイジェクトボタンを押し、CD／DVDを取り出してください。
次の場合は、電源が入っていても、イジェクトボタンを押したあとすぐにCD／DVDは出てきません。

- 電源を入れた直後
- ディスクトレイを閉じた直後
- 再起動した直後
- ドライブ関係のLEDが点灯しているとき
- ドライブの電源を切っているとき
- スリープ状態のとき

上記以外でCD／DVDが出てこない場合は、次のように操作してください。

- **Windows動作中の場合**
  CD／DVDを使用しているアプリケーションをすべて終了してから、イジェクトボタンを押してください。
- **パソコン本体の電源が入らない場合**
  電源が入らない場合は、イジェクトホールを、先の細い丈夫なもの（クリップを伸ばしたものなど）で押してください。

＊ イラストはN12シリーズです。

4 DVD-RAMをフォーマットする

新品のDVD-RAMは、使用する目的に合わせて「フォーマット」という作業が必要です。
フォーマットとは、DVD-RAMにデータの管理情報（ファイルシステム）を記録し、DVD-RAMを使えるようにすることです。
フォーマットされていないDVD-RAMは、フォーマットしてから使用してください。

お願い DVD-RAMのフォーマットについて

- あらかじめ、「付録 1-4 CDやDVDについて」を確認してください。

ファイルシステム

DVD-RAMをフォーマットするときにファイルシステムを選択します。
ファイルシステムは、書き込むデータの種類や書き込み後のメディアを使用する機器に応じて選択します。また、映像データを書き込むときは、書き込み用のアプリケーションによって指定されている場合があります。
選択できるファイルシステムは「UDF2.5」「UDF2.01」「UDF2.0」「UDF1.5」「UDF1.02」「FAT32」です。

DVD-RAMのセクターの一部に不具合が生じた場合などに、通常のフォーマットとは違う「物理フォーマット」を行う場合があります。通常、購入したばかりなどのDVD-RAMに対しては、物理フォーマットを行う必要はありません。
物理フォーマットに対して、通常のフォーマットを「論理フォーマット」と呼びます。
なお、物理フォーマットを行ったあとには、論理フォーマットが必要となります。

1 論理フォーマット

通常のフォーマット（論理フォーマット）は、Windows上で実行できます。
フォーマット方法については、［スタート］ボタン（ ）→［ヘルプとサポート］をクリックして、『Windowsヘルプとサポート』を参照してください。

2 物理フォーマット

物理フォーマットを行うには、非常に時間がかかります。
なお、企業向けモデルの場合は「TOSHIBA Disc Creator」がインストールされていないと本機能を使用することができません。あらかじめインストールしておいてください。

参照 「TOSHIBA Disc Creator」について「6章 1-1 TOSHIBA Disc Creator」

1 物理フォーマットするDVD-RAMをセットする

2 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［CD&DVDアプリケーション］→［DVD-RAMユーティリティ］をクリックする

［東芝DVD-RAMユーティリティ］画面が表示されます。

3 ［開始］ボタンをクリックする

以降、画面に表示されるメッセージに従ってください。
物理フォーマットをしたあとは、論理フォーマットが必要です。

7 画面を見やすく調整する
ー ディスプレイ ー

本製品は表示装置としてTFTカラー液晶ディスプレイ（1280×800ドット）を内蔵しています。ドットは画素数を表します。
外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

1 画面の明るさを調整する

❑ 輝度を調整する

本体液晶ディスプレイの明るさ（輝度）を調整します。輝度は「1～8」の8段階で設定ができます。
設定方法は、次のとおりです。

FN＋F6：FNキーを押したまま、F6キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。
表示される［輝度］のカードとスライダーバーで状態を確認できます。

FN＋F7：FNキーを押したまま、F7キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。
表示される［輝度］のカードとスライダーバーで状態を確認できます。

❑ バックライトで調整する

＊RX2シリーズのみ

本体液晶ディスプレイのバックライトをONまたはOFFにすることにより、画面の明るさを調整することができます。
屋外で天候が良い、といった明るい場所で使用する場合などにバックライトをOFFにすると、バッテリーの消費を抑えることができます。

バックライトのONまたはOFFは、バックライトON/OFFボタンを押すことにより切り替えることができます。

参照 バックライトON/OFFボタン『取扱説明書』

パソコン起動時、スリープや休止状態からの復帰時は、バックライトはONになります。

8 サウンド

1 スピーカーの音量を調整する

スピーカーの音量は、ボリュームダイヤル、または音量ミキサーから調整できます。

1 ボリュームダイヤルで調整する

メモ

- パソコンの起動時、または電源を切っているときは、ボリュームダイヤルをまわしても音量調節はできません。

1 パソコン本体のボリュームダイヤルをまわす

ボリュームダイヤルの位置は、『取扱説明書』で確認してください。
奥側にまわすと音量が大きくなります。
手前側にまわすと音量が小さくなります。
音量を確認しながら、ボリュームダイヤルをまわして調整してください。

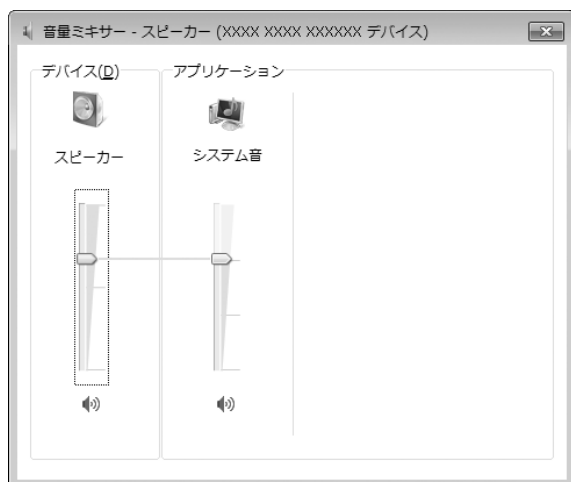
2 音量ミキサーから調整する

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ ハードウェアとサウンド］→［ システム音量の調整］をクリックする

［音量ミキサー］画面が表示されます。

3 各項目でつまみを上下にドラッグして調整する

［ミュート］ボタン（ ）をクリックすると消音（ミュート）になります。

（表示例）

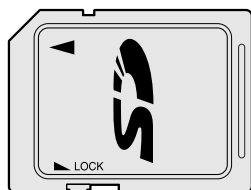
❏ 音楽／音声を再生するとき

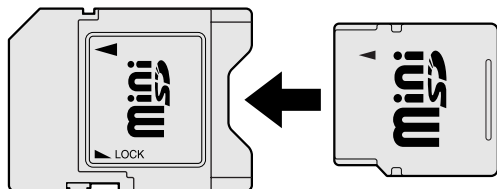
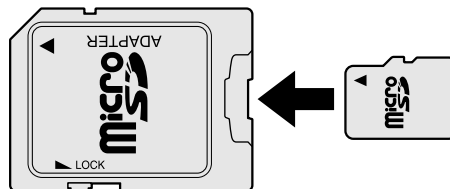
音量ミキサーの各項目では、次の音量が調整できます。

スピーカー	スピーカーの音量を調整します。
システム音	Windowsのプログラムイベント（Windowsの終了、システムエラーなどの動作）で再生されるサウンド設定の音量を調整します。

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。詳しくは『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

9 SDメモリカードを使う
ー SDカードスロット ー

SDメモリカード[*1]／SDHCメモリカード[*1]をSDカードスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

次のメディアカードは、市販のアダプターを装着すると、本製品のSDカードスロットでも使用できます。必ずアダプターを装着した状態でご使用ください。

- miniSDメモリカード[*1]
  SDメモリカードサイズのminiSDメモリカード用のアダプターを使用します。

- microSDメモリカード[*1]
  SDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプターを使用します。

＊1　著作権保護技術CPRMに対応しています。

アダプターの装着や使用方法は、『メディアカードの取扱説明書』を確認してください。

本書では、特に区別して説明する場合を除き、SDメモリカード、miniSDメモリカード、microSDメモリカードを「SDメモリカード」と呼びます。

使用できる各メディアカードの容量については『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

コンパクトフラッシュメモリカードなどは使用できません。使用する場合はUSB経由で周辺機器（デジタルカメラなど）を接続するか、専用のカードリーダーをご使用ください。

1 SDメモリカード／SDHCメモリカードを使う前に

お願い SDメモリカード／SDHCメモリカードの使用にあたって

- あらかじめ、「付録 2 - 3 メディアカードを使う前に」を確認してください。

新品のSDメモリカード／SDHCメモリカードは、SDメモリカード／SDHCメモリカードの規格に合わせてフォーマットされた状態で販売されています。
フォーマットとは、SDメモリカード／SDHCメモリカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、SDメモリカード／SDHCメモリカードを使えるようにすることです。
再フォーマットをする場合は、SDメモリカード／SDHCメモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。

SDメモリカード／SDHCメモリカードでは、再フォーマットをする場合に「東芝SDメモリカードフォーマット」も使用できます。
「東芝SDメモリカードフォーマット」については、「本項 -「東芝SDメモリカードフォーマット」を使ってフォーマットする」をご覧ください。

「東芝SDメモリカードフォーマット」を使ってフォーマットする

お願い フォーマットするにあたって

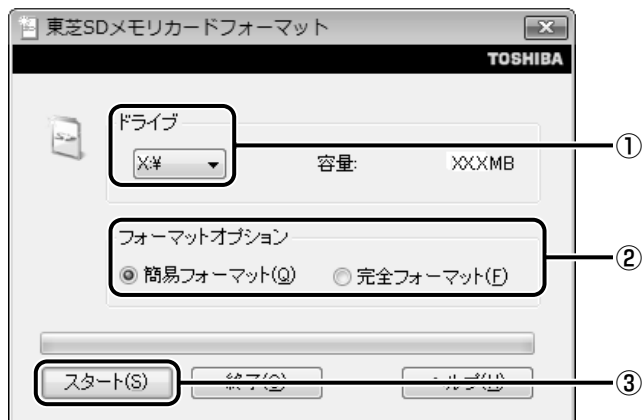
- あらかじめ、「付録 2 - 3 - 2 - SDメモリカード／SDHCメモリカードのフォーマットについて」を確認してください。

1 **SDメモリカード／SDHCメモリカードをセットする**

2 **SDメモリカード／SDHCメモリカードを使用するアプリケーションを起動している場合は終了する**

3 **［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［SDメモリカードフォーマット］をクリックする**

［東芝SDメモリカードフォーマット］画面が表示されます。

4 **フォーマットしたいSDメモリカード／SDHCメモリカードがセットされているドライブを確認し①、必要に応じてフォーマットの種類を設定し②、［スタート］ボタンをクリックする③**

- **簡易フォーマット**
  ファイルの削除のみを行い、すべての領域の初期化は行われません。
- **完全フォーマット**
  SDメモリカード／SDHCメモリカードのすべての領域を初期化します。簡易フォーマットに比べて、フォーマットに時間がかかります。

5 **メッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする**

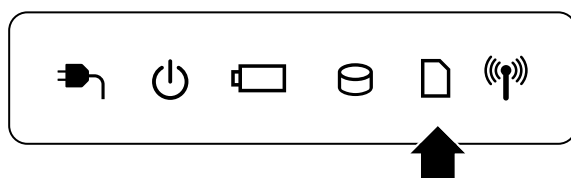
フォーマットが開始されます。
画面下のバーは進行状況を示しています。フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

6 **メッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする**

これで、フォーマットは完了です。
フォーマットを終了する場合は、［終了］ボタンをクリックしてください。

2 カードのセットと取り出し

SDカードスロットに関する表示

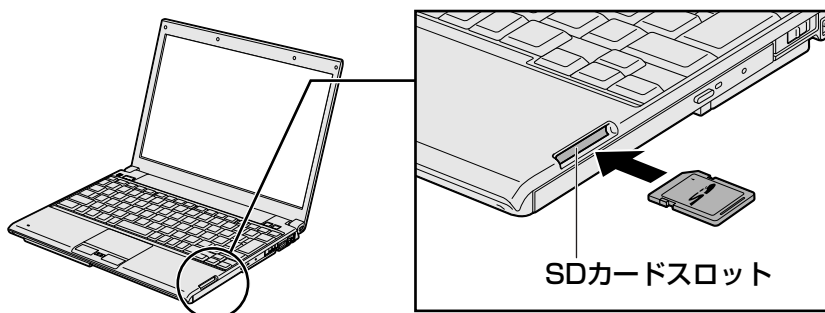
パソコン本体に電源が入っている場合、SDカードスロットに挿入したメディアカードとデータをやり取りしているときは、SD Card LEDが点灯します。

お願い 操作にあたって

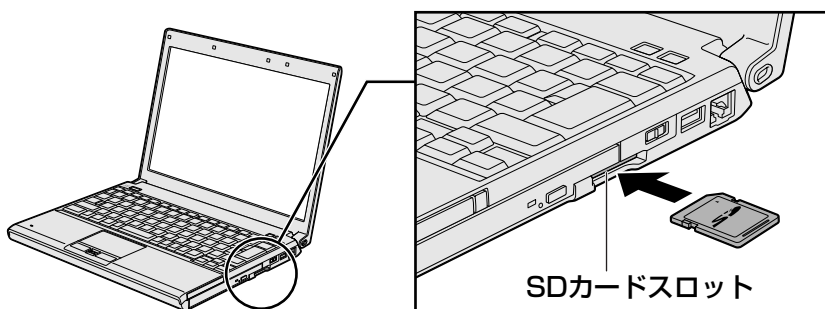
- あらかじめ、「付録 2-3-1 メディアカードの操作にあたって」を確認してください。

1 セットする

1 メディアカードの表裏を確認し、表を上にして、SDカードスロットに挿入する

奥まで挿入します。

■RX2シリーズ、RX2Lシリーズの場合

■N12シリーズの場合

お願い

- miniSDメモリカード、microSDメモリカードは、SDメモリカードサイズのアダプターが必要です。
  アダプターを使用せずに直接挿入すると、取り出せなくなります。

2 セットしたカードの内容を見る

著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コンピューター］をクリックする

［コンピューター］画面が表示されます。

2 メディアのアイコンをダブルクリックする

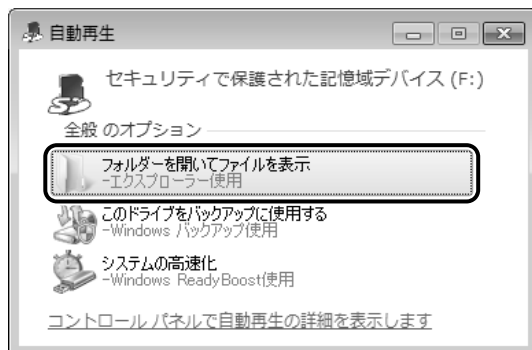
以下の名称は表示の一例です。異なる名称が表示される場合があります。

SDメモリカード／SDHCメモリカード ： セキュリティで保護された記憶域デバイス

セットしたメディアカードの内容が表示されます。

メモ

- メディアカードによっては、SDカードスロットにセットすると、自動的に内容が表示されたり、メディアカードに対する操作を選択する画面が表示される場合があります。選択画面が表示されたときは、［フォルダーを開いてファイルを表示］を選択してください。

（表示例）

3 取り出す

メディアカードに保存しているファイルを使用していたり、ウィンドウを開いたりしていると、取り出しができません。
ウィンドウやファイルを閉じてから、操作を行ってください。

1 メディアカードの使用を停止する

①通知領域の［ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す］アイコン（ ）をクリックする

＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。

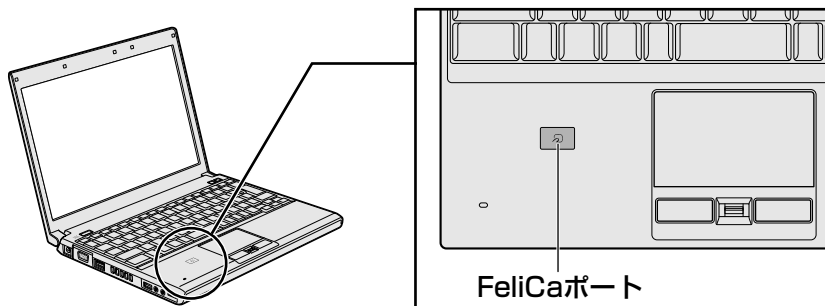
②表示されたメニューから［(取りはずすカード）の取り出し］をクリックする
③「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、 をクリックする

2 メディアカードを押す

メディアカードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

10 FeliCaポートを使う

＊FeliCaポート内蔵モデルのみ

本製品には、「FeliCa（フェリカ）ポート」が内蔵されています。
「FeliCa」に対応しているカードや携帯電話をパソコン本体のFeliCaポートにかざすことで、「かざしてナビ」などの「FeliCaポート」対応アプリケーションを使用することができます。

お願い FeliCaポートの操作について

- あらかじめ、「付録 1-5 FeliCaポートについて」を確認してください。
  使用上の注意事項を説明しています。

FeliCaについて

「FeliCa」は電子マネーや交通機関のプリペイドカードなどで使われている、非接触ICカード技術方式のひとつです。「FeliCa」に対応しているカードを読取装置にかざすことで、お店の支払いや改札機を通過することができます。
カードの種類によって利用できるサービスが異なります。

本書では、「FeliCa」に対応しているカードを「FeliCa対応カード」、携帯電話を「FeliCa対応携帯電話」と呼びます。また2つをまとめて「FeliCa対応製品」と呼びます。

メモ

- FeliCaプラットフォームマーク（ ）は、本製品がFeliCaを利用したマルチアプリケーションプラットフォームに対応していることを表しています。

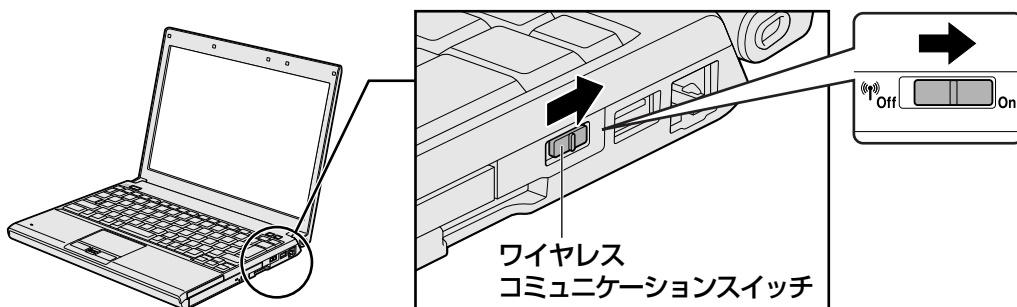
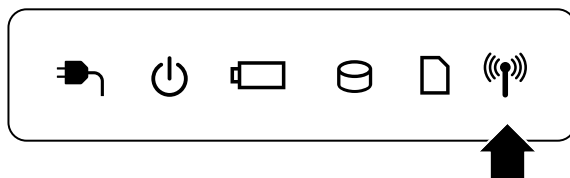
1 FeliCa対応カードをかざす

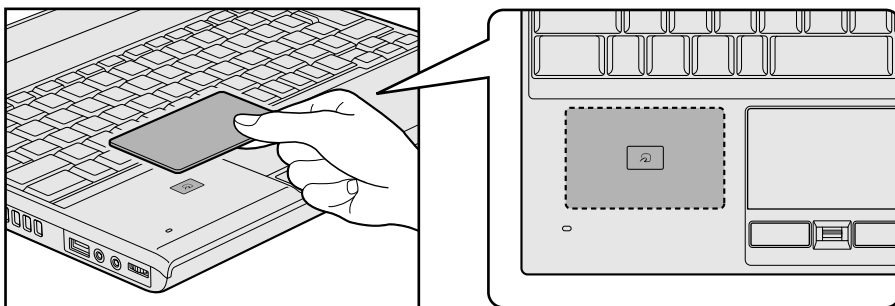
⚠警 告

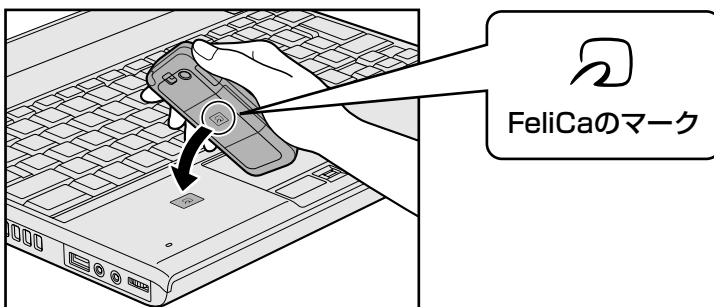
- **FeliCaポートが内蔵されている製品をお使いになる場合、心臓ペースメーカーを装着している方は、心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離す**
  電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

飛行機の中や電波の使用が制限されている場所では、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOFF側にして、電波の発信を止めるようにしてください。
ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOFF側にするとFeliCaポートのポーリングもオフになります。

参照 ポーリングについて「付録 1 - 5 - ポーリングについて」

1 本体右側面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドする

ワイヤレスコミュニケーション LEDが点灯します。

2 FeliCa対応カードまたはFeliCa対応携帯電話をFeliCaポートにかざす

【FeliCa対応カード】

カードを横向きに持ち、カードの中心をFeliCaポート（ ）にあわせるようにしてください。

【FeliCa対応携帯電話】

携帯電話のFeliCaのマークをFeliCaポート（ ）にあわせるようにしてください。

FeliCa対応製品をかざすと、「かざしてナビ」が起動します。

参照 かざしてナビについて
「本節 2 FeliCa対応製品をかざしてアプリケーションを使う」

メモ　FeliCa対応製品のかざしかた

- FeliCa対応製品は、必ず1つずつ使用してください。複数のFeliCa対応製品を同時にかざすと、正しく読み取ることができません。
- FeliCa対応製品がFeliCaポートからはみ出す、または傾けてかざすと、正しく認識できないことがあります。また、かざしたFeliCa対応製品が認識されにくい場合は、FeliCa対応製品を直接FeliCaポートに置いてください。
- FeliCa対応製品をかざしても、「かざしてナビ」が起動しない場合や、「FeliCaポート」対応アプリケーションが反応しない場合は、「付録 1-5 FeliCaポートについて」を確認してください。

2 FeliCa対応製品をかざしてアプリケーションを使う

本製品の「FeliCaポート」対応アプリケーションは、「かざしてナビ」から起動することができます。

かざしてナビについて

「かざしてナビ」は、「FeliCaポート」対応アプリケーションを簡単に起動できるようにメニューにまとめたものです。FeliCa対応製品を、FeliCaポートにかざすことで起動できます。

「かざしてナビ」には、「FeliCa」を利用して実行する、さまざまな機能を持ったアプリケーションが用意されています。
使用したいアプリケーションのボタンをクリックすると、起動します。

交通機関：FeliCa対応製品をかざすと、IC乗車券の残高や利用履歴を確認できます。
ショッピング：「電子マネー」の残高確認やチャージ、専用サイトへのアクセスなどのサービスを受けることができます。
エンターテイメント：FeliCa対応携帯電話をかざすと、携帯電話で購入した動画をパソコンに表示して見ることができます。
PCユーティリティ：FeliCa対応製品をかざすとパソコンにログオンするアプリケーションや、入力を簡単にするアプリケーションなどがあります。

詳しくは、「かざしてナビ」および各アプリケーションのヘルプを確認してください。

メモ　「FeliCaポート」対応アプリケーションについて

- 「かざしてナビ」を初めて起動したときは、［使用許諾契約の確認］画面が表示されますので、内容を確認し、［同意する］ボタンをクリックします。続いて、ユーザー登録をおすすめする画面が表示されます。この方法でユーザー登録を行うには、インターネットに接続できる環境とメールが受信できる環境が必要です。ユーザー登録を行う場合は、［登録へ］ボタンをクリックし、画面の指示に従ってユーザー登録を行ってください。あとでユーザー登録を行う場合は、［閉じる］ボタンをクリックしてください。
- 「かざしてナビ」にある「ショッピング」のアプリケーションは、インターネットに接続しないと、一部の機能を除いて使用できません。
- 「かざしてナビ」にある「エンターテイメント」の「NFRM」を利用するには、「NFRMPCViewer」のセットアップが必要です。インターネットに接続する準備をしてから、［NFRM］をクリックし、表示されるメッセージにしたがって操作してください。
- 本製品のアプリケーションで利用できるFeliCa対応製品については、各アプリケーションのヘルプ、またはhttp://www.justsystems.com/jp/atlife/kazasu/card/を確認してください。
  FeliCa対応携帯電話の場合は、本製品のアプリケーションに対応しているサービスを携帯電話にダウンロードすると使用することができます。詳しくは『FeliCa対応携帯電話の取扱説明書』を確認してください。
- 「かざしてナビ」および「FeliCaポート」対応アプリケーションは、［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［FeliCaポート］から選択して起動することもできます。
- 「FeliCaポート」対応アプリケーションのお問い合わせ先は、『取扱説明書 付録 2 お問い合わせ先』を参照してください。

3 章

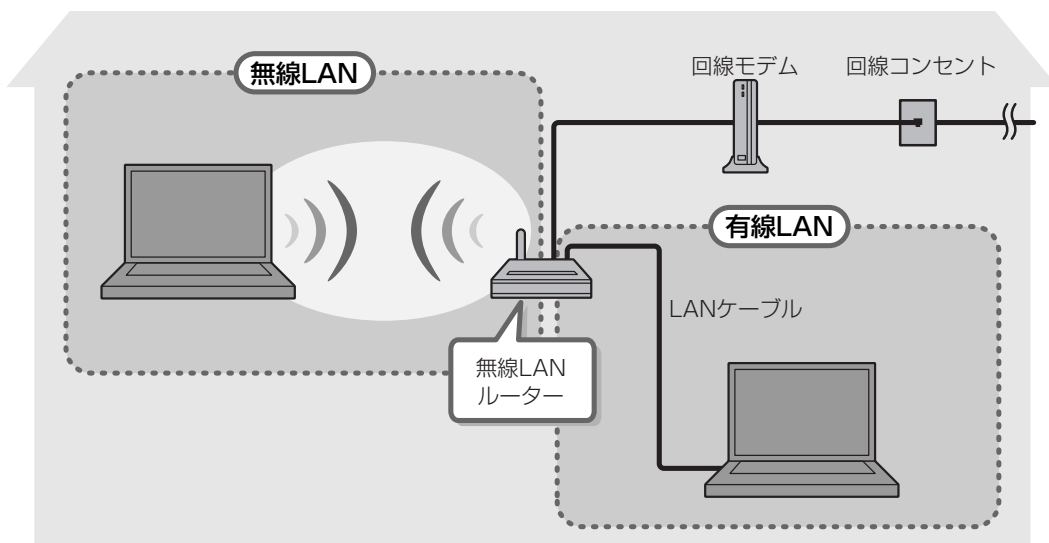
ネットワークの世界へ

本製品に搭載されている通信に関する機能を説明しています。
ネットワークやほかのパソコンと通信する方法について紹介します。

1 ネットワークで広がる世界

会社や家庭でそれぞれ自分専用のパソコンを持っている場合、1つのプリンタを共有したいときや、インターネット接続を使いたいときは、ネットワークを使うと便利です。

1 LAN接続はこんなに便利

会社や家庭でそれぞれが自分専用のパソコンを持っている場合や、ひとりで複数のパソコンを持っているなど、複数のパソコンがあるときは、LAN（Local Area Network）を使うと便利です。
LAN機能にはケーブルを使った有線LANと、ケーブルを使わない無線LANがあります。

（接続例）

■有線LAN

有線LANの機能やLANケーブルの接続については、「本節 2 ブロードバンドで接続する」を参照してください。

■無線LAN

無線LANとは、パソコンにLANケーブルを接続していない状態でもネットワークに接続できる、ワイヤレスのLAN機能のことです。モデムやルーターの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピューターをLANシステムに接続できます。
無線LANルーターや無線LANアクセスポイント（市販）を使用することによって、パソコンからワイヤレスでネットワーク環境を実現できます。

ネットワークに接続したあとに、ファイルの共有の設定や、ネットワークに接続しているプリンターなどの機器の設定を行う必要があります。ネットワーク機器の接続先やネットワークの詳しい設定については、［スタート］ボタン（ ）→［ヘルプとサポート］をクリックして、『Windowsヘルプとサポート』を参照してください。
ネットワークに接続している機器の設定は、それぞれの取扱説明書を確認してください。
また、会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

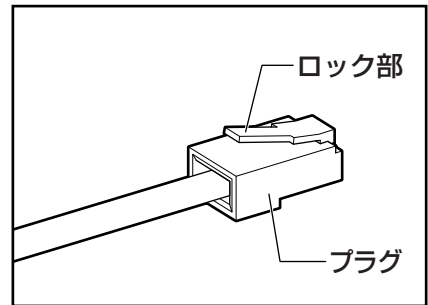
2 ブロードバンドで接続する

本製品には、ブロードバンド接続などに使用するLAN（ラン）機能が搭載されています。
本製品のLANコネクタにブロードバンドの回線機器やブロードバンドルーターなどをLANケーブルで接続することができます。
また、本製品のLAN機能は、Gigabit（ギガビット） Ethernet（イーサネット）（1000BASE-T）、Fast（ファスト） Ethernet（イーサネット）（100BASE-TX）、Ethernet（イーサネット）（10BASE-T）に対応しています。LANコネクタにLANケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。Gigabit Ethernet、Fast Ethernet、Ethernetは、ご使用のネットワーク環境（接続機器、ケーブル、ノイズなど）により、自動で切り替わります。

1 LANケーブルを接続する

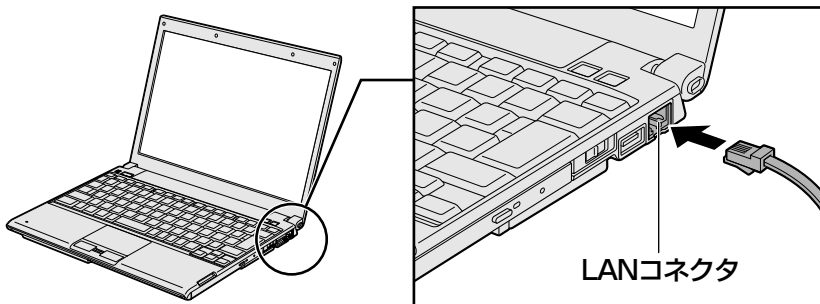
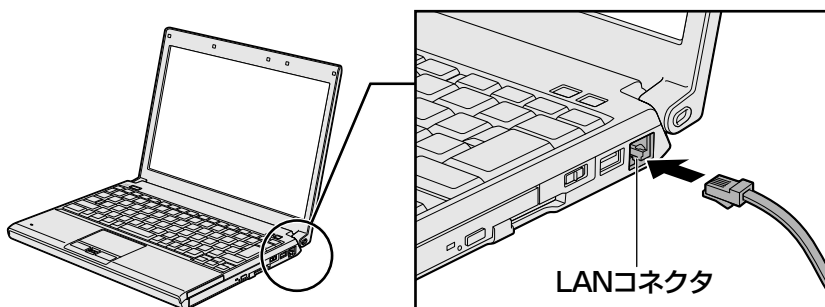
お願い LANケーブルの使用にあたって

- あらかじめ、「付録 1-6 有線LANについて」を確認してください。

LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 LANケーブルのプラグをパソコン本体のLANコネクタに差し込む

ロック部を下にして、「カチッ」と音がするまで差し込んでください。

■RX2シリーズ、RX2Lシリーズの場合

■N12シリーズの場合

3 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

接続する機器の名称や以降の設定はプロバイダーによって異なります。詳しくは契約しているプロバイダーにお問い合わせください。

3 ワイヤレス（無線）LANを使う

＊無線LANモデルのみ

1 無線LANモジュールの確認

本書では、内蔵された無線LANモジュールの種類によって説明が異なる項目があります。
使用しているパソコンに合った説明をご覧ください。
使用しているパソコンに内蔵された無線LANモジュールの種類は、「ConfigFree（コンフィグフリー）」を使って確認できます。

参照 「本項 2 - 役立つ操作集 - ConfigFree」

1 通知領域の［ConfigFree］アイコン（ ）をクリックする

＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。

2 表示されたメニューでアダプター名を確認する

アダプター名が示すモジュールは、それぞれ次のようになります。

- 「Intel(R) WiFi Link 5100 AGN」の場合
  IEEE802.11a（W52/W53/W56）、IEEE802.11b、IEEE802.11gおよびIEEE802.11nに対応したモジュールです。このモジュールを、「Intel a/b/g/ n モジュール」と呼びます。
- 「Atheros AR9280 Wireless Network Adapter」の場合
  IEEE802.11a（W52/W53/W56）、IEEE802.11b、IEEE802.11gおよびIEEE802.11nに対応したモジュールです。このモジュールを、「Atheros a/b/g/ n モジュール」と呼びます。

- 「Atheros AR9281 Wireless Network Adapter」の場合
  IEEE802.11b、IEEE802.11gおよびIEEE802.11nに対応したモジュールです。
  このモジュールを、「Atheros b/g/nモジュール」と呼びます。

その他の本製品の無線LANモジュールの仕様については、「付録 6 - 1 無線LANの概要」と『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

2 無線LANを使ってみよう

⚠警告

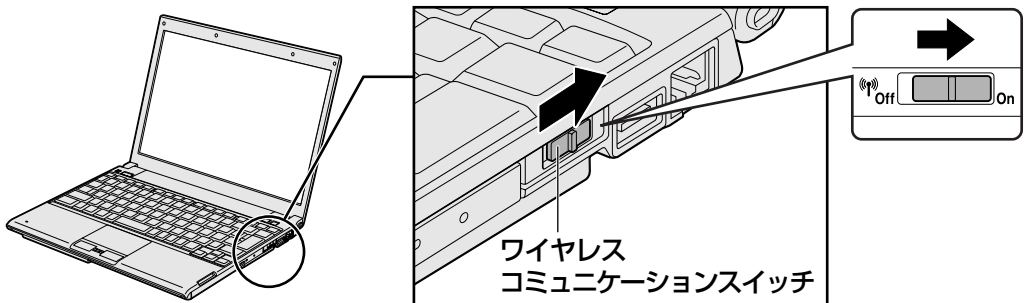
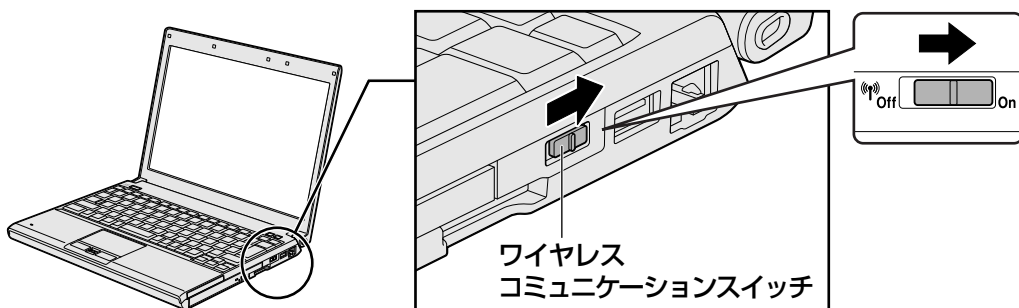
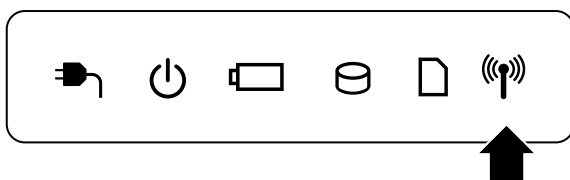
- **無線LANモジュールが内蔵されている製品をお使いになる場合、心臓ペースメーカーを装着している方は、心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離す**
  電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

飛行機の中や電波の使用が制限されている場所では、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOFF側にして、電波の発信を止めるようにしてください。

お願い 無線LANのご使用にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 7 無線LANについて」を確認してください。
  『安心してお使いいただくために』に、セキュリティに関しての注意事項や使用上の注意事項を説明しています。
  無線LANを使用する場合は、その記述を読んで、セキュリティの設定を行ってください。

1 本体右側面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドする

■RX2シリーズ、RX2Lシリーズの場合

■N12シリーズの場合

ワイヤレスコミュニケーション LEDが点灯します。

以降の無線の設定方法には、次の2種類があります。

- 「ConfigFree」を使う
- Windows標準機能を使う

「ConfigFree」を使って設定する場合は、「本項 2 - 役立つ操作集 - ConfigFree」を参照してください。
また、Windows標準機能を使って設定する場合は、[スタート] ボタン（ ）→ [ヘルプとサポート] をクリックして、『Windowsヘルプとサポート』を参照してください。

役立つ操作集

ConfigFree
本製品に用意されている「ConfigFree」を使うと、近隣の無線LANデバイスを検出したり、LANケーブルをはずすと自動的に無線LANに切り替えるなど、ネットワーク設定に便利な機能が使えます。
詳細については、「ファーストユーザーズガイド」をご覧ください。
「ConfigFree」は、コンピューターの管理者のユーザーアカウントで使用してください。

- **ファーストユーザーズガイドの起動方法**
  ① [スタート] ボタン（ ）→ [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ConfigFree] → [ConfigFreeファーストユーザーズガイド] をクリックする
- **「ConfigFree」の起動方法**
  購入時の状態では、Windows を起動すると通知領域に「ConfigFree」のアイコン（ ）が表示されています。
  「ConfigFree」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。
  ① [スタート] ボタン（ ）→ [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ConfigFree] → [ConfigFree トレイ] をクリックする

3 セキュリティの設定

無線LAN機能を使用する場合、セキュリティ設定を行うことをおすすめします。
セキュリティの設定を行っていない場合、さまざまな問題が発生する可能性があります。

参照 無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意
『安心してお使いいただくために』

これらの問題に対応するためには、無線アクセスポイント、無線LANカードの双方で通信データの暗号化などのセキュリティが必要になります。
本製品には、無線LANを使用するにあたっての問題に対応するためのセキュリティ機能が用意されています。
次のセキュリティ設定を行い、セキュリティ機能を有効にして本製品を使用すれば、それらの問題が発生する可能性を低くすることができます。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ インターネットへの接続］をクリック→［ワイヤレス］をクリックする

現在のワイヤレスネットワークへの接続状態が表示されます。

3 画面右下の［ワイヤレスネットワーク接続］画面で、接続したいアクセスポイント名をクリックする

4 ［自動的に接続する］をチェックし、［接続］ボタンをクリックする

5 ［ネットワークに接続］画面で必要なネットワークセキュリティ情報を入力し、［OK］ボタンをクリックする

選択する項目、データ暗号化の方式、ネットワーク キーの詳細については、お使いになる無線アクセスポイントの取扱説明書を確認のうえ、正しく設定してください。正しく設定していない場合、無線アクセスポイントに接続できない場合があります。

4 ダイヤルアップで接続する

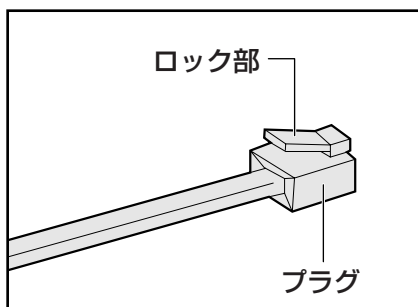
＊モデム内蔵モデルのみ

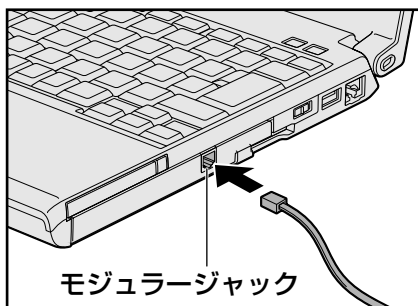
本製品の内蔵モデムを使って、ダイヤルアップ接続でインターネットに接続することができます。内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90に準拠しています。通信先のプロバイダーがV.90以外の場合は、最大33.6kbpsで接続されます。

お願い **内蔵モデムの操作にあたって**

● あらかじめ、「付録 1-8 内蔵モデムについて」を確認してください。

1 モジュラーケーブルを接続する

モジュラーケーブルをはずしたり差し込むときは、モジュラープラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、ジャックプラグのロック部を押しながらはずしてください。
ケーブルを引っ張らないでください。

1 モジュラーケーブルのプラグの一方をパソコン本体のモジュラージャックに差し込む

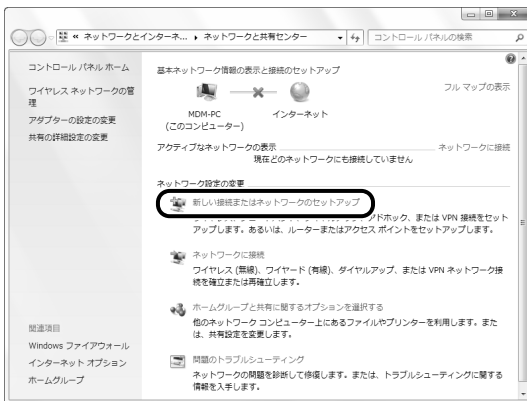
ロック部を下にして、「カチッ」と音がするまで差し込んでください。
LANケーブルとモジュラーケーブルのプラグは形状が非常に似ていますが、プラグの部分の大きさは、モジュラーケーブルのほうが小さいです。ケーブルを接続するときは、モジュラージャックとプラグの大きさをよくご確認のうえ、接続してください。

2 もう一方のモジュラーケーブルのプラグを電話機用モジュラージャックに差し込む

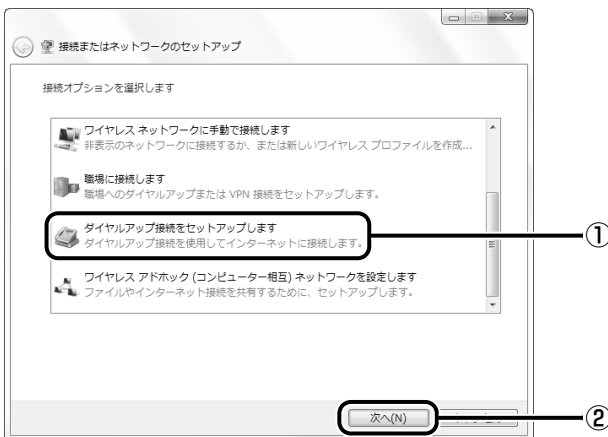
2 ダイヤルアップ接続を設定する方法

ここでは、すでに契約しているプロバイダーにダイヤルアップ接続するための方法について説明します。
設定は管理者アカウントで行ってください。
接続に必要な設定内容は、契約しているプロバイダーの取扱説明書を確認してください。

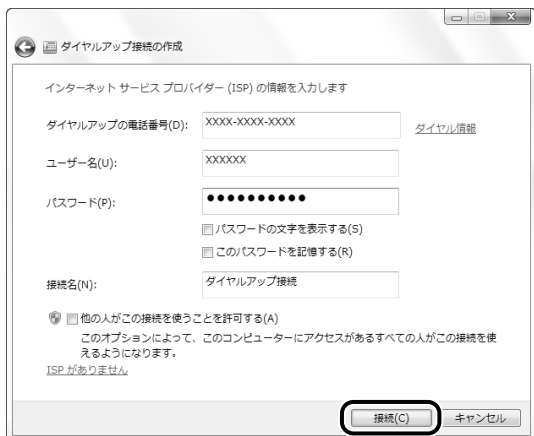
1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ ネットワークの状態とタスクの表示］をクリックする

3 ［新しい接続またはネットワークのセットアップ］をクリックする

［接続オプションを選択します］画面が表示されます。

4 ［ダイヤルアップ接続をセットアップします］を選択し①、［次へ］ボタンをクリックする②

［インターネットサービスプロバイダ（ISP）の情報を入力します］画面が表示されます。

5 各項目を設定し、［接続］ボタンをクリックする

［ダイヤルアップの電話番号］［ユーザー名］［パスワード］など、それぞれを入力してください。

ダイヤルアップ接続が実行されます。

接続が完了したあと［閉じる］ボタンをクリックすると、環境を設定する画面が表示されます。画面に従って、各項目を設定してください。

3 海外でインターネットに接続するには

本製品の内蔵モデムで使用できる国／地域については、「付録 4 技術基準適合について」を参照してください。
海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」で内蔵モデムの地域設定が必要です。

設定は管理者アカウントで行ってください。それ以外のユーザーアカウントで起動しようとすると、エラーメッセージが表示され、起動できません。

日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用すると、電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。
購入時は「日本」に設定されています。

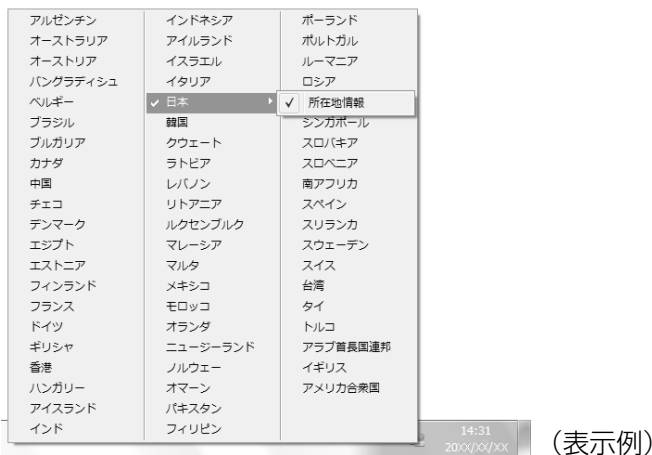
設定方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ネットワーク］→［Modem Region Select］をクリックする

［Internal Modem Region Select Utility］アイコン（ ）が通知領域に表示されます。

（表示例）

2 通知領域の［Internal Modem Region Select Utility］アイコン（ ）をクリックする

内蔵モデムがサポートする地域のリストが表示されます。
その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。内蔵モデムに接続する回線がPBX等を経由する場合は使用できない場合があります。
上の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめご了承ください。
現在設定されている地域設定と、所在地情報名にチェックマークがつきます。

（表示例）

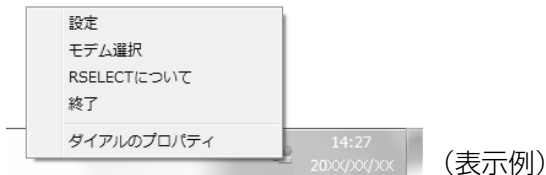
3 使用する地域名または所在地情報名を選択し、クリックする

- **地域名を選択した場合**
  モデムの地域設定を行ったあと、新しく所在地情報が作成されます。この場合、現在の所在地情報は新しく作成されたものになります。
- **所在地情報名を選択した場合**
  その所在地情報に設定されている地域でモデムの地域設定を行います。選択された所在地情報が現在の所在地情報になります。

その他の設定

次のような設定ができます。

1 通知領域の［Internal Modem Region Select Utility］アイコン（ ）を右クリックし、表示されたメニューから項目を選択する

（表示例）

メモ

- 通知領域に［Internal Modem Region Select Utility］アイコン（ ）が表示されていない場合は、［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ネットワーク］→［Modem Region Select］をクリックしてください。

❏ 設定

チェックボックスをクリックすると、次の設定を変更することができます。

自動起動モード	システム起動時に、自動的に「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」が起動し、モデムの地域設定が行われます。
地域選択後に自動的にダイアルのプロパティを表示する	地域選択後、［電話とモデムのオプション］の［ダイヤル情報］が表示されます。
場所設定による地域選択	［電話とモデムのオプション］の所在地情報名が地域名のサブメニューに表示され、所在地情報名から地域選択ができるようになります。
モデムとテレフォニーの現在の場所設定の地域コードとが違っている場合にダイアログを表示	モデムの地域設定と、［電話とモデムのオプション］の現在の場所設定の地域コードが違っている場合に、注意の画面を表示します。

❏ モデム選択

COMポート番号を選択する画面が表示されます。内蔵モデムを使用する場合、通常は自動的に設定されますので、変更の必要はありません。

❏ ダイアルのプロパティ

［電話とモデムのオプション］の［ダイヤル情報］画面を表示します。

2 Bluetooth機能

＊Bluetoothモデルのみ

Bluetoothワイヤレステクノロジーは、パソコンや周辺機器、携帯電話などの機器どうしで無線でデータをやりとりできる、世界標準の通信方式です。
Bluetoothワイヤレステクノロジーを搭載した機器であれば、お互いに通信相手を登録することで、簡単にデータのやりとりができます。
詳細については、『Bluetoothユーティリティユーザーズガイド』を参照してください。

参照 起動方法「本節 1 - Bluetoothユーティリティユーザーズガイドの起動方法」

お願い Bluetooth機能の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 9 Bluetoothについて」を確認してください。

メモ

- Bluetoothのバージョンによっては本製品と通信できないBluetooth対応機器があります。本製品では、Bluetooth Version 1.1、1.2、2.0、2.0+EDR、2.1、2.1+EDRのBluetooth対応機器と通信ができます。
- 2.4GHz帯の無線LANが近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。

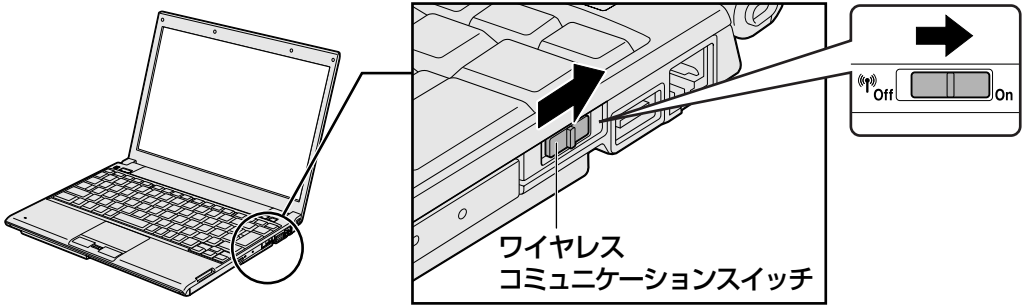
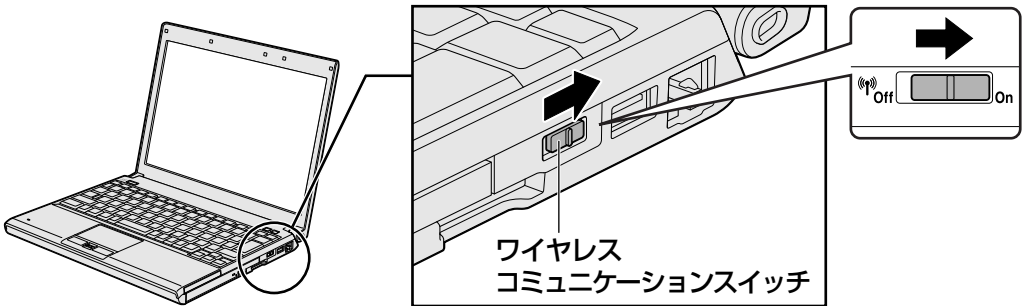
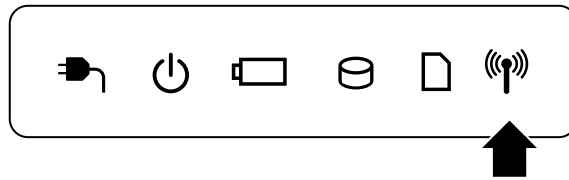
1 Bluetooth通信が可能な状態にする

⚠警告

- **Bluetoothモジュールが内蔵されている製品をお使いになる場合、心臓ペースメーカーを装着している方は、心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離す**
  電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

飛行機の中や電波の使用が制限されている場所では、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOFF側にして、電波の発信を止めるようにしてください。

1 本体右側面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドする

■RX2シリーズ、RX2Lシリーズの場合

■N12シリーズの場合

ワイヤレスコミュニケーション LEDが点灯します。

2 **［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［Bluetooth］→［Bluetooth設定］をクリックする**

初めて起動したときは、Bluetooth用ドライバーのインストールが始まります。インストールが終了するまでお待ちください。
「Bluetooth Manager」が起動し、周辺のBluetooth対応機器を検索する［自動登録］画面が表示されます。すぐにBluetooth対応機器を登録する必要がない場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
無線LAN（Wireless LAN）と同時に使用する際の［注意］画面が表示された場合は、内容を確認のうえ、［OK］ボタンをクリックして画面を閉じてください。
通知領域に［Bluetooth Manager］アイコン（ ）が表示されます。以降、通知領域に常駐し、次回Windows を起動したときには自動的にアイコンが表示されます。
［Bluetooth Manager］アイコン（ ）はサービスの状態によって表示が異なります。詳細については、『Bluetooth ユーティリティユーザーズガイド』を確認してください。
Bluetoothの電源が入っていない場合には、［Bluetooth Manager］アイコン（ ）を右クリックして表示されたメニューから、［Bluetoothオン］を選択して電源を入れてください。

＊ 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。

Bluetoothモデルには、ほかのBluetooth対応機器と通信するためのユーティリティとして「Bluetoothユーティリティ」がプレインストールされています。
初めてBluetoothを使うときには、ユーティリティの設定が必要になります。設定方法や通信する方法については、『Bluetoothユーティリティユーザーズガイド』をご覧ください。

Bluetooth ユーティリティユーザーズガイドの起動方法

1 **［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［Bluetooth］→［ユーザーズ ガイド］をクリックする**

4 章

周辺機器を使って機能を広げよう

パソコンでできることをさらに広げたい。
そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。
本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器の紹介と、よく使う周辺機器の取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

1 周辺機器を使う前に

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことで、デバイスともいいます。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、パソコンが持っていない機能を広げることができます。
周辺機器には、パソコンのカバーを開けて、パソコンの中に取り付ける内蔵方式のものと、パソコン本体の周囲にあるコネクタや端子、スロットにつなぐ外付け方式のものがあります。

■内蔵方式のもの

- メモリ
- バッテリー

■外付け方式のもの

本製品のインターフェースに合った周辺機器をご利用ください。
周辺機器によっては、インターフェースなどの規格が異なることがあります。インターフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタや端子、スロットの形状などの規格のことです。
購入される際には、目的に合った機能を持ち、本製品に対応している周辺機器をお選びください。周辺機器が本製品に対応しているかどうかについては、その周辺機器のメーカーに確認してください。

参照 コネクタの仕様について「付録 5 各インターフェースの仕様」

お願い　周辺機器の取り付け／取りはずしにあたって

- あらかじめ、「付録 1-10 周辺機器について」を確認してください。

本製品で使用できるおもな周辺機器は、次のとおりです。

- メモリ
  参照 メモリの増設『取扱説明書 1章 3 メモリの増設』
- USB対応機器
  参照 USB対応機器「本章 2 USB対応機器を使う」
- eSATA対応機器
  参照 eSATA対応機器「本章 3 eSATA対応機器を使う」
- 外部ディスプレイ
  参照 外部ディスプレイの接続「本章 4 外部ディスプレイの接続」
- マイクロホン
  参照 マイクロホンの接続「本章 5-1 マイクロホンを使う」
- ヘッドホン
  参照 ヘッドホンの接続「本章 5-2 ヘッドホンを使う」
- PCカード
  参照 PCカード「本章 6 PCカードを使う」
- スリムポートリプリケーター
  参照 ポートリプリケーター「本章 7 ポートリプリケーターを使う」

2 USB対応機器を使う

USB（ユーエスビー）対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができます。
また、新しい周辺機器を接続すると、システムがドライバーの有無をチェックし、自動的にインストールを行うプラグアンドプレイに対応しています。
USB対応機器には次のようなものがあります。

- USB対応マウス
- USB対応プリンター
- USB対応スキャナー
- USBフラッシュメモリ　など

本製品のUSBコネクタにはUSB2.0 対応機器とUSB1.1対応機器を取り付けることができます。
USB対応機器の詳細については、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い USB対応機器の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 10 - USB対応機器の操作にあたって」を確認してください。

USBの常時給電

（ ⚡ ）アイコンが付いているUSBコネクタでは、パソコン本体の電源がOFFの状態（スリープ状態、休止状態、シャットダウン状態）でも、USBコネクタにUSBバスパワー（DC5V）を供給することができます。
本機能を利用して、USBに対応する携帯電話や携帯型デジタル音楽プレーヤーなどの外部機器の使用および充電ができます。
＊ USBケーブルは本製品に含まれていません。別途ご使用の機器に対応したケーブルを準備してください。

USBの常時給電については、「東芝USBスリープ アンド チャージ ユーティリティ」で設定することができます。
なお、外部機器によっては本機能を使用できない場合があります。

お願い USBの常時給電について

- あらかじめ、「付録 1 - 10 - USBの常時給電について」、「付録 1 - 10 - 東芝USBスリープ アンド チャージ ユーティリティについて」を確認してください。

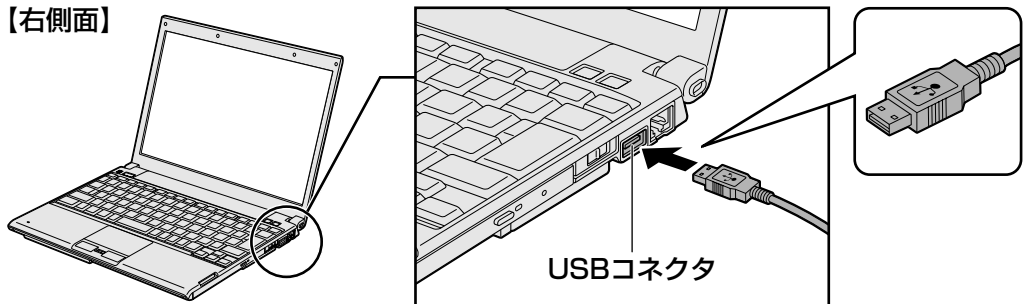
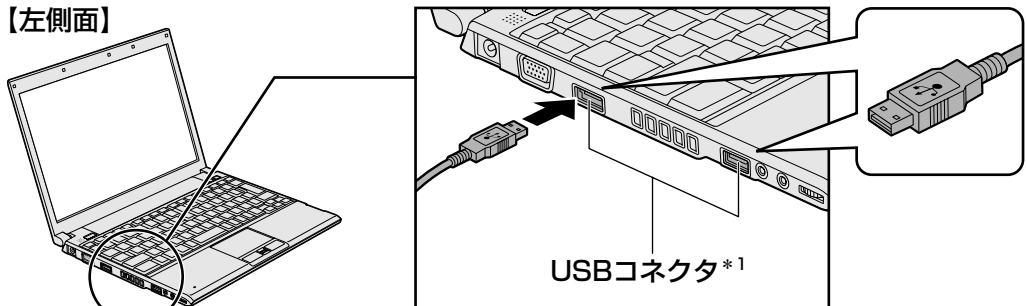
1 取り付け

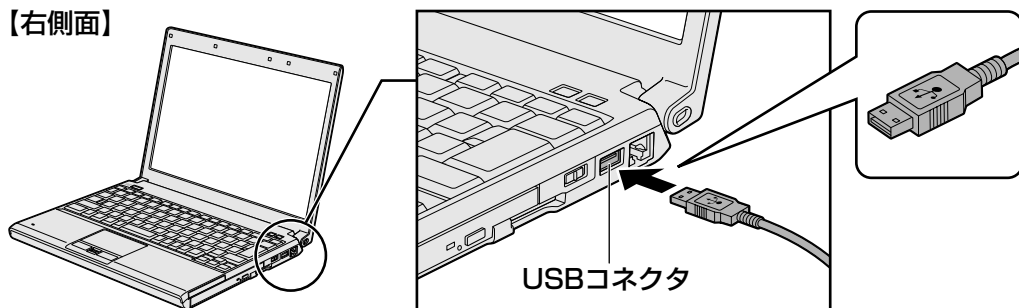
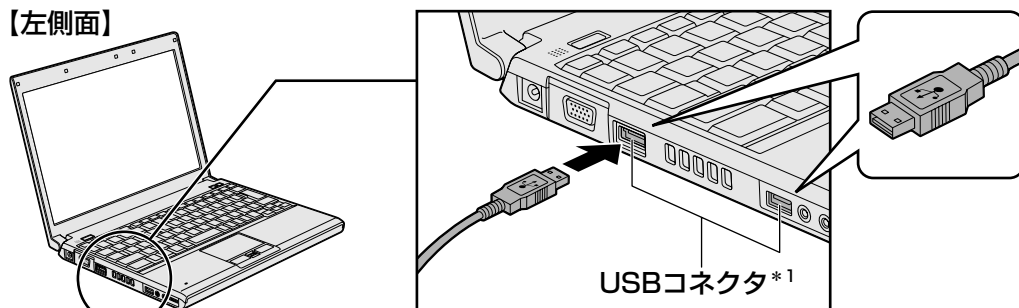
1 USBケーブルのプラグをUSB対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。USB対応機器についての詳細は、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 USBケーブルのもう一方のプラグをパソコン本体のUSBコネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。

■RX2シリーズ、RX2Lシリーズの場合

＊1 奥のUSBコネクタは、eSATAコネクタを兼ねています。

■N12シリーズの場合

*1 奥のUSBコネクタは、eSATAコネクタを兼ねています。

2 取りはずし

1 USB対応機器の使用を停止する

①通知領域の［ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す］アイコン（　）をクリックする

* 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、　をクリックしてください。
この操作を行ってもアイコンが表示されないUSB対応機器は、次の手順は必要ありません。
手順 2 に進んでください。

②表示されたメニューから［(取りはずすUSB対応機器) の取り出し］をクリックする
③「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、　をクリックする

2 パソコン本体とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルを抜く

3 eSATA対応機器を使う

eSATA（イーエスエーティーエー）対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができます。
また、新しい周辺機器を接続すると、システムがドライバーの有無をチェックし、自動的にインストールを行うプラグアンドプレイに対応しています。
eSATA対応機器には次のようなものがあります。

- eSATA対応ハードディスクドライブ　　など

eSATA対応機器の詳細については、『eSATA対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い eSATA対応機器の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 10 - eSATA対応機器の操作にあたって」を確認してください。

1 取り付け

本製品のeSATAコネクタは、USBコネクタを兼ねています。

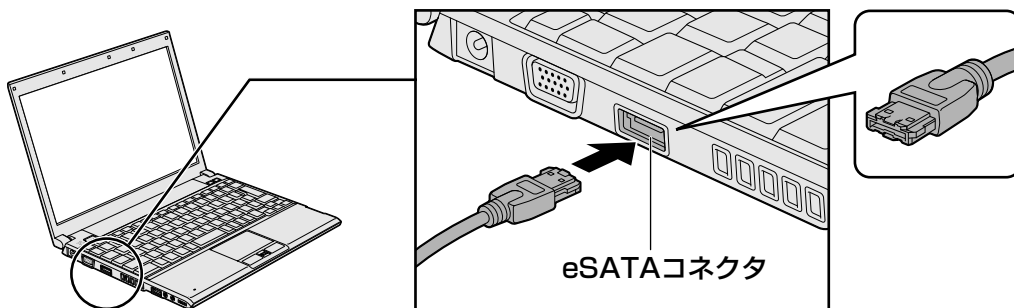
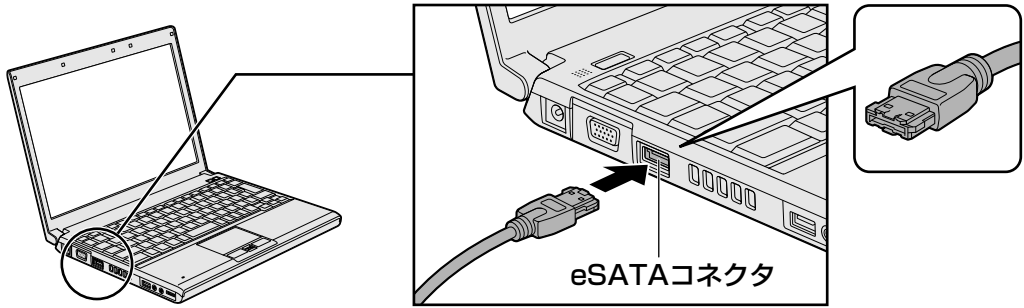
参照 「本章 2 USB対応機器を使う」

1 eSATAケーブルのプラグをeSATA対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。eSATA対応機器についての詳細は、『eSATA対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 eSATAケーブルのもう一方のプラグをパソコン本体のeSATAコネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。

■RX2シリーズ、RX2Lシリーズの場合

■N12シリーズの場合

2 取りはずし

1 eSATA対応機器の使用を停止する

①通知領域の［ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す］アイコン（ ）をクリックする

＊ 通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。
この操作を行ってもアイコンが表示されないeSATA対応機器は、次の手順は必要ありません。
手順 2 に進んでください。

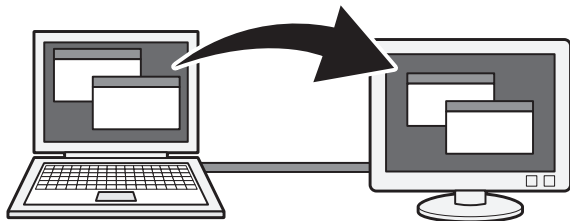
②表示されたメニューから［(取りはずすeSATA対応機器）の取り出し］をクリックする

③「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、 をクリックする

2 パソコン本体とeSATA対応機器に差し込んであるeSATAケーブルを抜く

4 外部ディスプレイの接続

RGB（アールジービー）コネクタにケーブルを接続して、外部ディスプレイにWindowsのデスクトップ画面を表示させることができます。

メモ

- 使用可能な外部ディスプレイは、本体液晶ディスプレイで設定している解像度により異なります。解像度に合った外部ディスプレイを接続してください。
- 接続するケーブルは、市販のものを使用してください。

1 パソコンに接続する

お願い 外部ディスプレイ接続の操作にあたって

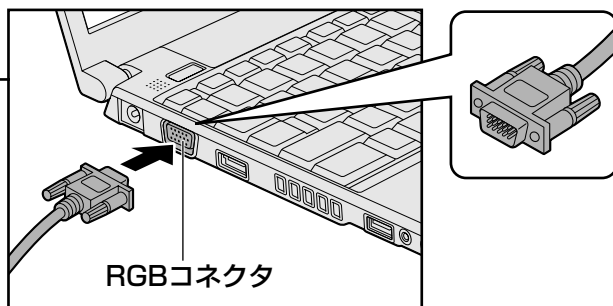
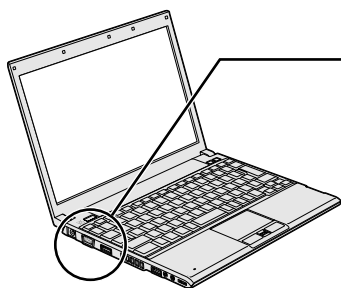
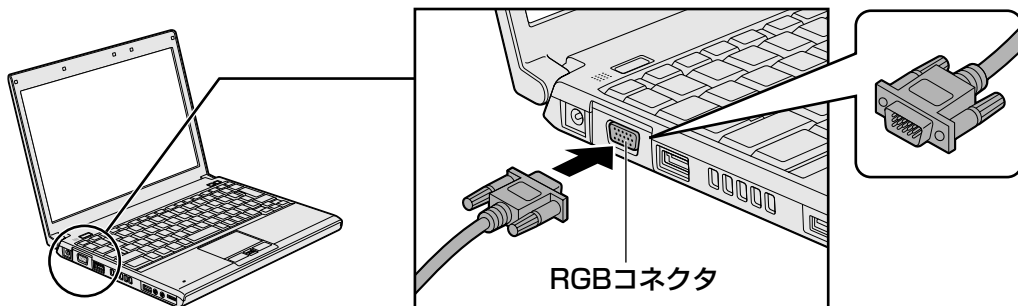
- あらかじめ、「付録 1 - 10 - 外部ディスプレイ接続の操作にあたって」を確認してください。

外部ディスプレイとパソコン本体の電源を切った状態で接続してください。

1 外部ディスプレイのケーブルのプラグをRGBコネクタに差し込む

本製品のRGBコネクタには、固定用のネジ穴はありませんが、プラグに固定用のネジが付いているタイプの外部ディスプレイケーブルも使用できます。

■RX2シリーズ、RX2Lシリーズの場合

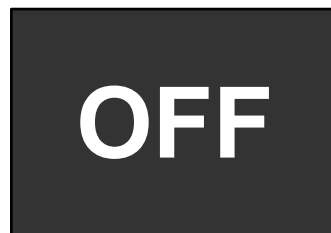
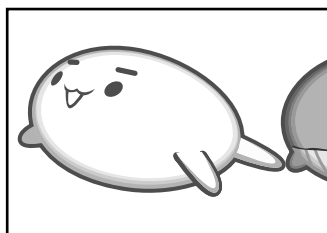
4章 周辺機器を使って機能を広げよう

■N12シリーズの場合

2 **外部ディスプレイの電源を入れてから、パソコン本体の電源を入れる**

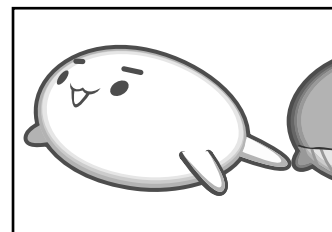
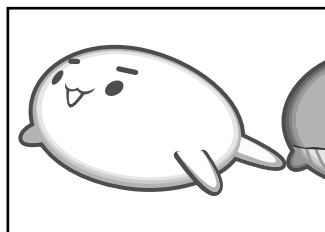
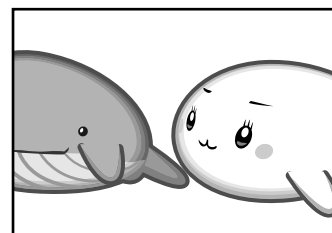
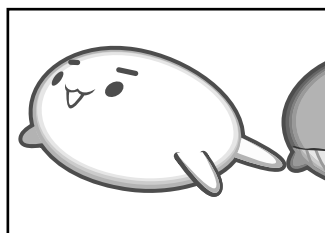
外部ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその外部ディスプレイを認識します。

2 表示を切り替える

外部ディスプレイを接続した場合には、次の表示方法があります。
表示方法は、表示装置の切り替えを行うことで変更できます。

■本体液晶ディスプレイだけに表示／外部ディスプレイだけに表示

いずれかの表示装置にのみ、デスクトップ画面を表示します。

■本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示

- **クローン表示**
  2つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。

- **拡張表示**
  2つの表示装置を1つの大きなデスクトップ画面として使用（拡張表示）します。

外部ディスプレイに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、外部ディスプレイには表示されません。

メモ

- 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイを同時表示させる場合は、同時表示の種類や設定に合った色数／解像度で表示されます。
- 表示を切り替えたとき、システムによって自動的に解像度が変更される場合があります。
本体液晶ディスプレイだけに表示を切り替えると、元の解像度に戻ります。
- 外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。
- 「TOSHIBA DVD PLAYER」*1で使用する表示装置を変更したい場合は、アプリケーションを起動する前に表示装置を切り替えてください。
起動中は、表示装置を切り替えることができません。

＊1 個人・家庭向けモデルのドライブ内蔵モデル、企業モデルのみ

1 方法1－コントロールパネルで設定する

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 画面右上の［表示方法］で「大きいアイコン」または「小さいアイコン」をクリックする

3 ［ Intel(R) GMA Driver for Mobile］ボタンをクリックする

4 ［ディスプレイデバイス］で、表示する装置を選択する

（表示例）

＊画面は外部ディスプレイを接続している場合の表示例です。

- 本体液晶ディスプレイだけに表示
  ①［動作モード］で［シングル ディスプレイ］を選択する
  ②［ディスプレイの選択］の［プライマリ デバイス］で［ノートブック］を選択する
- 外部ディスプレイだけに表示
  ①［動作モード］で［シングル ディスプレイ］を選択する
  ②［ディスプレイの選択］の［プライマリ デバイス］で［PCモニタ］を選択する

● **クローン表示**

2つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。

①［動作モード］で［Intel(R) デュアル・ディスプレイ・クローン］を選択する

②表示に合わせた設定をする

項目	プライマリデバイス	セカンダリデバイス
本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイでクローン表示	ノートブック	PCモニタ
	PCモニタ	ノートブック

● **拡張表示**

2つの表示装置を1つの大きなデスクトップ画面として使用できます。

①［動作モード］で［拡張デスクトップ］を選択する

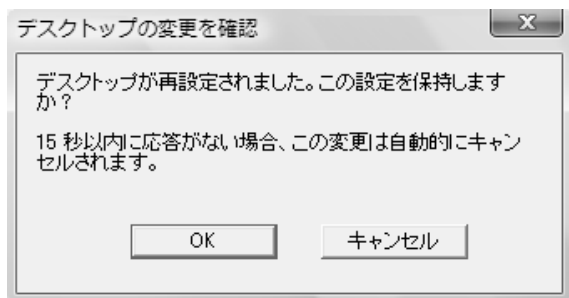
②表示に合わせた設定をする

項目	プライマリデバイス	セカンダリデバイス
本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイで拡張表示	ノートブック	PCモニタ
	PCモニタ	ノートブック

メモ

● 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイをクローン表示または拡張表示に設定する際に、外部ディスプレイにノイズが発生した場合は、外部ディスプレイの解像度、色数、リフレッシュレートを下げてご使用ください。
設定は、クローン表示または拡張表示に設定したあと、［ディスプレイ設定］をクリックし、表示される画面で行います。

5 ［OK］ボタンをクリックする

次の画面が表示されます。

6 ［OK］ボタンをクリックする

2 方法2 － FN＋F5キーを使う

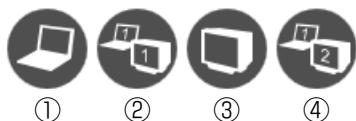
● **表示装置をLCD（本体液晶ディスプレイ）に戻す方法**

現在の表示装置がLCD（本体液晶ディスプレイ）以外に設定されている場合、表示装置をLCDに戻すことができます。表示装置を選択する画面が表示されていない状態で、FN＋F5キーを3秒以上押し続けてください。

表示装置に何も表示されず、選択する画面が表示されているか確認できない場合は、いったんキーボードから指をはなしてから、FN＋F5キーを3秒以上押し続けてください。

表示装置を選択する画面

FNキーを押したままF5キーを押すと、「TOSHIBA Flash Cards」の表示装置を選択する画面が表示されます。

＊画面はLCD（本体液晶ディスプレイ）と外部ディスプレイを接続した場合です。

（表示例）

上のカードは現在の表示装置を示しています。FNキーを押したままF5キーを押すたびに、大きなアイコンが移動します。表示する装置が大きなアイコンに変わったところで、FNキーをはなすと表示装置が切り替わります。

①LCD........................本体液晶ディスプレイだけに表示

②LCD＋CRT ....本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時表示

③CRT........................外部ディスプレイだけに表示

本体液晶ディスプレイには何も表示されません。

④LCD＋CRT Extended Desktop

................................本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイに拡張表示

本体液晶ディスプレイがプライマリモニターになります。

❏ 拡張表示でプライマリモニターを切り替える方法

現在の表示装置が拡張表示に設定されている場合、プライマリモニター、セカンダリモニターを切り替えるアイコン（）が表示されます。

＊画面はLCD（本体液晶ディスプレイ）と外部ディスプレイを接続した場合です。

（表示例）

FNキーを押したままF5キーを数回押し、プライマリモニター、セカンダリモニターを切り替えるアイコンに移動したら、FNキーをはなすと、表示装置が切り替わります。

3 パソコンから取りはずす

外部ディスプレイを取りはずすときは、「スリープ」や「休止状態」にせず、必ず電源を切ってください。

1 Windowsを終了させてパソコン本体の電源を切る

参照 電源の切りかた『セットアップガイド』

2 外部ディスプレイの電源を切る

3 RGBコネクタからケーブルを抜く

5 マイクロホンやヘッドホンを使う

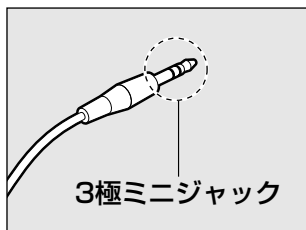
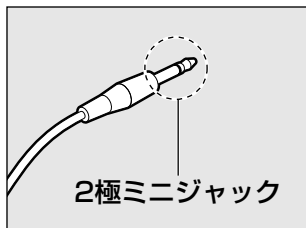
本製品には、マイクロホンやヘッドホンを接続できます。
マイクロホンやヘッドホンを使うと、音声ソフトや音声を使ったチャットを行うことができます。

1 マイクロホンを使う

マイク入力端子には、マイクロホンを接続できます。本製品にはサウンド機能が搭載されています。

参照 サウンド機能について「2章 8 サウンド」

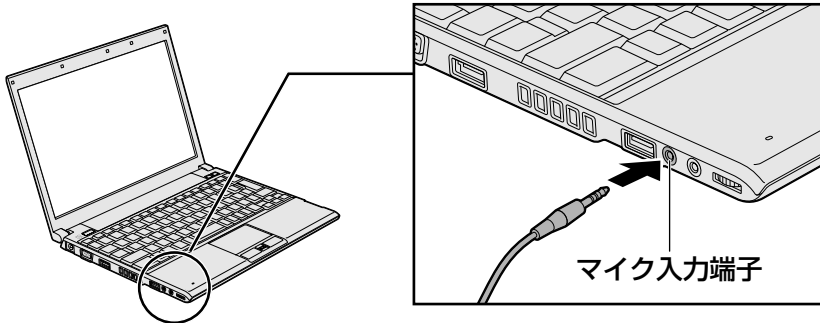
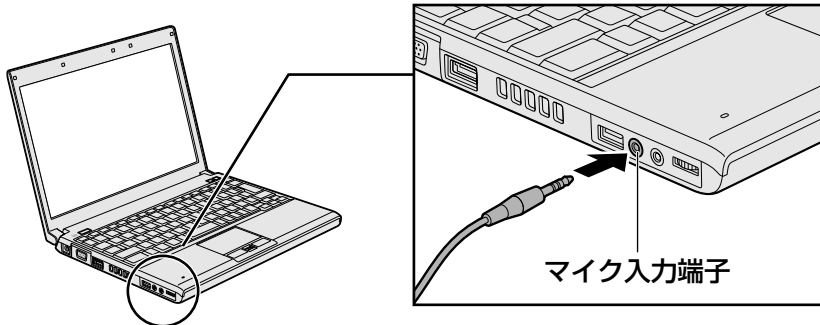
1 使用できるマイクロホン

本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。

- モノラルマイクのみ使用できます。
- プラグは直径3.5mm3極ミニジャックタイプが使用できます。

- 直径3.5mm2極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリーなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。

2 接続する

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む

■RX2シリーズ、RX2Lシリーズの場合

■N12シリーズの場合

取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを抜きます。

2 ヘッドホンを使う

ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続すると、音楽や音声を聞くことができます。
ヘッドホンのプラグは、直径3.5mmステレオミニジャックタイプを使用してください。

お願い **ヘッドホンの操作にあたって**

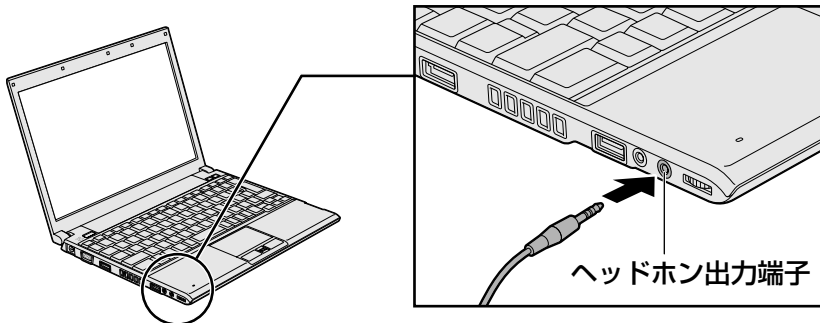
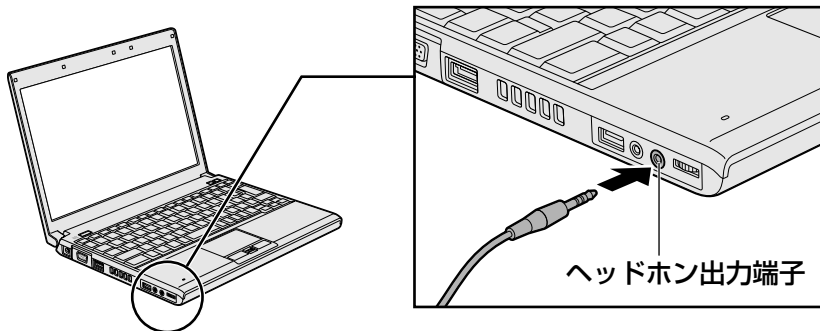
- あらかじめ、「付録 1 - 10 - ヘッドホンの操作にあたって」を確認してください。

本製品にはサウンド機能が搭載されています。
ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、またはWindowsの音量ミキサーで調節してください。

参照 「2章 8 サウンド」

1 接続する

1 ヘッドホンのプラグをヘッドホン出力端子に差し込む

■RX2シリーズ、RX2Lシリーズの場合

■N12シリーズの場合

取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

6 PCカードを使う

目的に合わせたPCカードを使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。
PCカードには、次のようなものがあります。

- データ通信カード（PHS、携帯電話）
- フラッシュメモリカード用アダプターカード
- 外付けハードディスクドライブ、CD／DVDドライブ用アダプターカード　など

1 PCカードを使う前に

本製品は、PC Card Standard準拠のTYPEⅡ対応のカード（CardBus対応カードも含む）を使用できます。
PCカードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサーション）に対応しているので便利です。
使用しているPCカードがホットインサーションに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『PCカードに付属の説明書』を確認してください。

お願い PCカードの操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 10 - PCカードの操作にあたって」を確認してください。

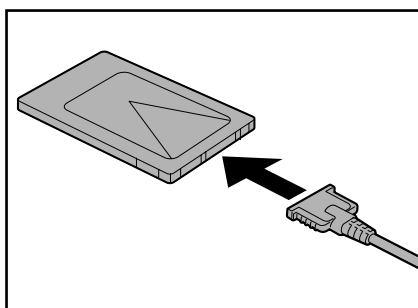
メモ

- PCカードスロットを使用する場合、カードによってはディスクトレイが開かなくなる可能性があります。その場合、カードをいったん取りはずしてください。

2 PCカードを使う

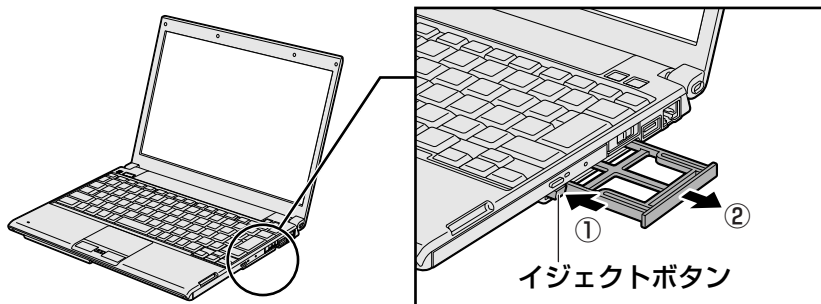
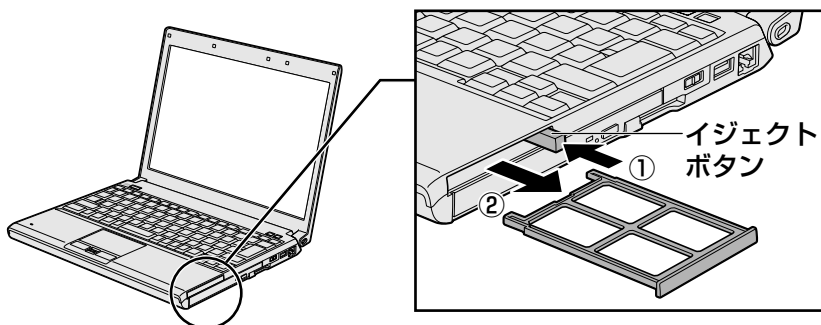
PCカードを使う場合、パソコン本体のPCカードスロットにPCカードを取り付けてください。

1 取り付け

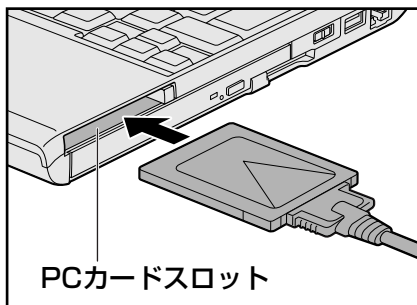
1 PCカードにケーブルを付ける

SCSIカードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。

2 イジェクトボタンを2回押し①、ダミーカードを抜く②

1回押すとイジェクトボタンが出てくるので、もう1度「カチッ」と音がするまで押してください。ダミーカードが出てきます。

■RX2シリーズ、RX2Lシリーズの場合

■N12シリーズの場合

ダミーカードはなくさないように保管してください。

3 PCカードの表裏を確認し、表を上にして挿入する

＊イラストはN12シリーズです。

カードは無理な力を加えず、静かにカードが奥に突き当たるまで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PCカードを使用できない、またはPCカードが壊れる場合があります。
カードを接続したあと､カードが使用できるように設定されているか確認してください。

2 取りはずし

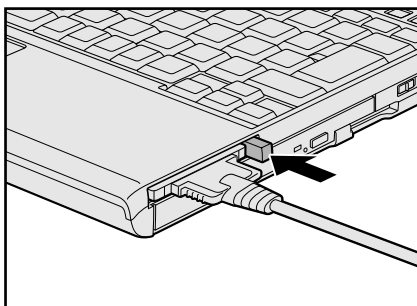
1 PCカードの使用を停止する

①通知領域の［ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す］アイコン（ ）をクリックする

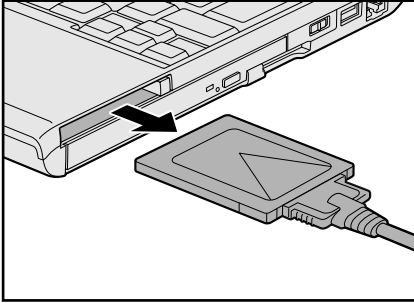
＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。
この操作を行ってもアイコンが表示されないPCカードは、次の手順は必要ありません。
手順 2 に進んでください。

②表示されたメニューから［(取りはずすPCカード）の取り出し］をクリックする
③「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、 をクリックする

2 イジェクトボタンを2回押す

＊イラストはN12シリーズです。

1回押すとイジェクトボタンが出てくるので、もう1度「カチッ」と音がするまで押してください。
カードが奥まで差し込まれていない場合、イジェクトボタンが出てこないことがあります。カードを奥まで押し込んでから、もう1度イジェクトボタンを押してください。
カードが少し出てきます。

3 カードをしっかりとつかみ、抜く

＊イラストはN12シリーズです。

カードを抜くときはケーブルを引っ張らないでください。故障するおそれがあります。熱くないことを確認してから行ってください。

4 ダミーカードを挿入する

5 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンが収納されていない場合は、イジェクトボタンを押して収納します。

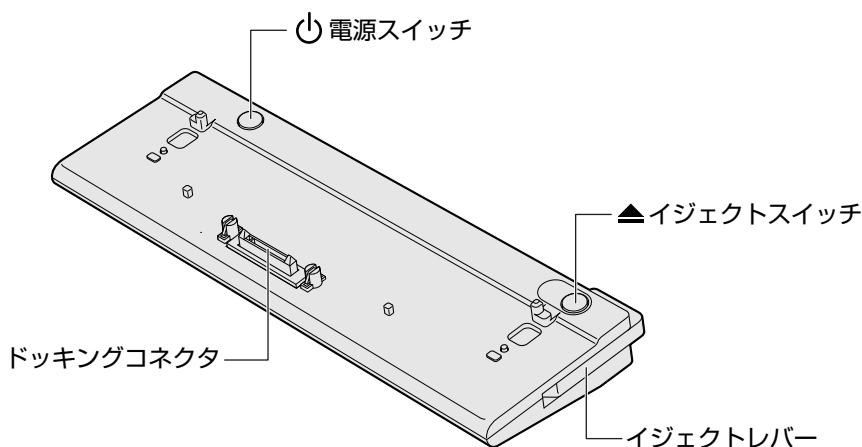
7 ポートリプリケーターを使う

本製品のドッキングポートに、オプションのスリムポートリプリケーター（型番：PASPR003）を接続することができます。ここではスリムポートリプリケーターを「ポートリプリケーター」と呼びます。
ポートリプリケーターには、さまざまな周辺機器を接続することができるため、パソコンの機能を広げることができます。

1 ポートリプリケーターについて

ポートリプリケーターの各部名称とコネクタに説明します。
本体との接続方法など、詳細は『スリムポートリプリケーター取扱説明書』を参照してください。

1 ポートリプリケータの各部の名前

ここでは、おもにパソコン本体との接続に必要な部分を説明します。

2 使用できるコネクタ

ポートリプリケーターのうち、本製品に対応しているコネクタは、次のとおりです。
（　）内はコネクタの数です。

- LANコネクタ
- USBコネクタ（4）
- DVIコネクタ
- RGBコネクタ

ポートリプリケーターを接続すると、本体のLANコネクタ、RGBコネクタは使用できなくなりますのでポートリプリケーターのLANコネクタ、RGBコネクタを使用してください。

5 章

バッテリー駆動で使う

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリーは、使いかたによっては長持ちさせることができます。
ここでは、充電や充電量の確認など、バッテリーを使用するにあたっての取り扱い方法について説明しています。

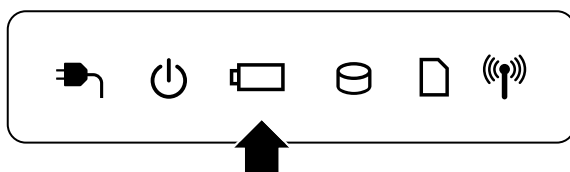
1 バッテリーについて

パソコン本体には、バッテリーパックが取り付けられています。
バッテリーを充電して、バッテリー駆動（ACアダプターを接続しない状態）で使うことができます。
本製品を初めて使用するときは、バッテリーパックを充電してから使用してください。
バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめACアダプターを接続してバッテリーパックの充電を完了（フル充電）させるか、フル充電したバッテリーパックを取り付けてください。
指定する方法・環境以外でバッテリーパックを使用した場合には、発熱、発火、破裂するなどの可能性があり、人身事故につながりかねない場合がありますので、十分ご注意をお願いします。
『安心してお使いいただくために』や『取扱説明書』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

1 バッテリー充電量を確認する

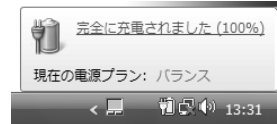
バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

1 システムインジケーターで確認する

ACアダプターを使用している場合、Battery LEDが点灯します。

Battery LEDは次の状態を示しています。

白または緑	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要 参照 バッテリーの充電について「本節 2 バッテリーを充電する」
消灯	・バッテリーが接続されていない ・ACアダプターが接続されていない 上記のいずれにも当てはまらない場合は、バッテリー異常の可能性があります。東芝PCあんしんサポートに連絡してください。

2 通知領域の［バッテリー］アイコンで確認する

通知領域の［バッテリー］アイコン（ ）の上にポインターを置くと、バッテリー充電量が表示されます。
［バッテリー］アイコン（ ）をクリックすると、電源プランなども表示されます。

参照 省電力設定について「本章 2 省電力の設定をする」

1ヵ月以上の長期にわたり、ACアダプターを接続したままパソコンを使用してバッテリー駆動を行わないと、バッテリー充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリー充電量が減少したときは、Battery LEDや［バッテリー］アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヵ月に1度は再充電することを推奨します。

3 バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量が少なくなると、次のように警告します。

- Battery LEDがオレンジ色に点滅する（バッテリーの残量が少ないことを示しています）
- バッテリーのアラームが動作する
  「電源オプション」で［プラン設定の変更］→［詳細な電源設定の変更］をクリックして表示される［詳細設定］タブの［バッテリ］→［バッテリ低下の通知］や［バッテリ切れの操作］で設定すると、バッテリーの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

参照 省電力設定（電源オプション）について「本章 2 省電力の設定をする」

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。
①パソコン本体にACアダプターを接続し、充電する
②電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリー減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery LEDでも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックのほかに、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。
時計用バッテリーの充電は、ACアダプターを接続し電源を入れているとき（電源ON時）に行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。
時計用バッテリーが切れていると、時間の再設定をうながすWarning（警告）メッセージが出ます。

■充電完了までの時間

時計用バッテリーは、電源ON（Power LEDが白または緑色に点灯）の状態において約24時間で充電が完了します。
実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

2 バッテリーを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い バッテリーを充電するにあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 11 - バッテリーを充電するにあたって」を確認してください。

1 充電方法

1 パソコン本体にACアダプターを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

DC IN LEDが白または緑色に点灯してBattery LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。
電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源のON／OFFにかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 Battery LEDが白または緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中はBattery LEDがオレンジ色に点灯します。
DC IN LEDが消灯している場合は、電源が供給されていません。ACアダプター、電源コードの接続を確認してください。

メモ

- パソコン本体を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

■充電完了までの時間

バッテリー充電時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。
周囲の温度が低いとき、バッテリーパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けているとき、アプリケーションを使用しているときは、充電完了まで時間がかかることがあります。
詳細は、別紙の『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

■バッテリー駆動時間

バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。
詳細は、別紙の『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

■バッテリー駆動時の処理速度

高度な処理を要するソフトウェア（3Dグラフィックス使用など）を使用する場合は、充分な性能を発揮するためにACアダプターを接続してご使用ください。

■使っていないときの充電保持時間

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。
バッテリーの保持時間は、放置環境などによって異なります。
保持時間は、充電完了の状態で電源を切った場合の目安にしてください。
詳細は、別紙の『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。
スリープを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリー駆動時は休止状態、またはハイブリッド スリープにすることをおすすめします。

参照 ハイブリッド スリープについて『セットアップガイド』

2 バッテリーを長持ちさせる

本製品のバッテリーをより有効に使うための工夫を紹介します。

バッテリーの機能低下を比較的遅くする方法

次の点に気をつけて使用すると、バッテリーの機能低下を比較的遅くすることができます。

- パソコンとACアダプターをコンセントに接続したままの状態で、パソコンを長時間使用しないときは、ACアダプターをコンセントからはずしてください。
- 1ヵ月以上の長期間バッテリーを使わない場合は、パソコン本体からバッテリーをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- おもにACアダプターを接続してパソコンを使用し、バッテリーパックの電力をほとんど使用しないなど、100%の残量近辺で充放電をくり返すとバッテリーの劣化を早める場合があります。
- 1ヵ月に1度は、ACアダプターをはずしてバッテリー駆動でパソコンを使用してください。

バッテリー充電量を節約する方法

バッテリーを節約して、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする

  参照 「2章 2-2 休止状態」

- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく

  参照 「2章 2-3 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」

- 省電力の電源プランを設定する

  参照 「本章 2 省電力の設定をする」

バッテリーの充電能力を調べる

バッテリーは、消耗品です。バッテリーを交換する目安を調べることができます。

参照 『取扱説明書 2章 3 パソコンの動作状況を監視し、記録する』

3 バッテリーパックを保管する

バッテリーパックを保管するときは、次の説明をお読みください。
また、『安心してお使いいただくために』にも、バッテリーパックを保管するときの重要事項が記述されています。あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

- 充電状態の電池を放置しておくと電池が劣化し、もう一度充電したときの容量が減少してしまいます。この劣化は、保存温度が高いほど早く進みます。
- バッテリーパックの電極（金属部分）がショートしないように、金属製ネックレス、ヘアピンなどの金属類と混在しないようにしてください。
- 落下したり衝撃がかかったりしないよう安定した場所に保管してください。

2 省電力の設定をする

1 電源オプション

「電源オプション」ではパソコンの電源を管理して、電力の消費方法を状況に合わせて変更することができます。
バッテリー駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らして長い時間使用するように設定したり、電力を使ってパフォーマンスの精度を上げるように設定したりできます。
これらの電源設定を電源プランといいます。
「電源オプション」では、使用環境に合わせて設定された電源プランがあらかじめ用意されていますので、使用環境が変化したときに電源プランを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができます。
購入時には、次の電源プランが用意されています。

- **バランス**
  必要なときは電力を使ってパフォーマンスを最大にし、動作させていないときは電力を節約します。
- **eco**
  東芝の推奨する設定により、消費電力を抑えます。
  参照 「本項 1 - 役立つ操作集 - 東芝ecoユーティリティ」
- **東芝省電力**
  東芝独自の省電力により、電力の消費を抑えます。
- **高パフォーマンス**
  パフォーマンスと応答速度を最大にします。バッテリー駆動のときにこのプランを使用すると、バッテリーが通常よりも早く消費されます。

＊「東芝省電力」、「高パフォーマンス」は［追加のプランを表示します］の をクリックすると表示されます。

各電源プランの設定を変更したり、新しく電源プランを追加することもできます。詳しくは、「電源オプション」のヘルプをご覧ください。

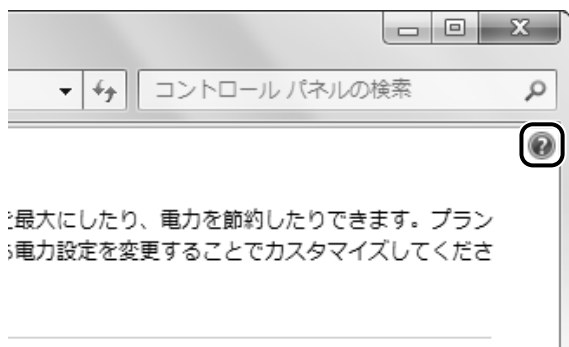
1 起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［ システムとセキュリティ］→［ 電源オプション］をクリックする

「電源オプション」が起動します。

ヘルプの起動方法

1 「電源オプション」を起動後、画面右上の ? ボタンをクリックする

2 表示された一覧から知りたい項目をクリックする

該当するページが表示されます。

役立つ操作集

東芝ecoユーティリティ

＊ 東芝ecoユーティリティ搭載モデルのみ

東芝の推奨する設定により、電源プランやディスプレイの明るさなどを自動的に調節して、消費電力を抑えます。
詳しくは、「東芝ecoユーティリティ」のヘルプをご覧ください。

- **起動方法**
  ①［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［ecoユーティリティ］をクリックする
  初回起動時は、［はじめにお読みください］画面が表示されますので、［同意する］をチェックし、［OK］ボタンをクリックしてください。

  ［TOSHIBA ecoユーティリティ］画面が表示され、通知領域にアイコン（ ）が表示されます。

- **ヘルプの起動方法**
  ①［TOSHIBA ecoユーティリティ］画面で［ヘルプ］ボタンをクリックする
  「TOSHIBA ecoユーティリティ」のヘルプが表示されます。

2 ドライブの電源を切ってバッテリーを節約する

＊ ドライブ内蔵モデルのみ

パソコン本体の電源はそのまま、ドライブの電源だけを切る／入れることができます。ドライブの電源を切ることにより、消費電力を減らすことができます。
本機能は、Windowsを起動しているときに「TOSHIBA Flash Cards」から実行できます。
次のように操作します。

1 操作方法

1 FNキーを押して、「TOSHIBA Flash Cards」を表示させる

2 FNキーを押したまま、TABキーを押す

マウス操作の場合は、FNキーを押したまま、画面左端の［ODD］のカードをクリックしてください。

3 FN＋TABキーを押して、表示された候補群の中から、実行したい動作のアイコンを選択する

マウス操作の場合は、［ODD］のカードの下に表示される、丸いアイコンをクリックしてください。

各アイコンの動作内容は、左から次のようになります。

ドライブの電源を入れる／ドライブからディスクを取り出す／ドライブの電源を切る

ドライブの電源を切ると、ドライブにアクセスできなくなったり、ディスクトレイが開かなくなります。ドライブにアクセスしたり、ディスクトレイを開けるには、もう1度ドライブの電源を入れてください。

メモ

- 「ハードウェアの安全な取り外し」を行っても、ドライブをパソコン本体から取り出すことはできません。
- ドライブの電源が切れている状態で、ドライブにメディアがセットされていると、ディスクトレイが出てくるのに時間がかかる場合があります。

役立つ操作集

「東芝ピークシフトコントロール」

「東芝ピークシフトコントロール」は、昼間の電力消費の一部を夜間に移行させて電力を効果的に活用し、電力需要の平準化を実現する機能です。たとえば夏期の日中のように、電力使用のピーク時間帯には自動的にAC電源からの電力供給を止め、電力需要の少ない時間帯（夜間など）に蓄えたノートパソコンのバッテリーで動作させる電源管理機能で、環境への負荷低減に貢献することができます。
ピークシフト機能は、パソコン単体でも使用できますが、複数台数で同じ時間帯に制御することによってその効果を発揮します。制御するパソコンの台数は多ければ多いほど効果が大きくなります。
この機能を実現するには、「東芝ピークシフトコントロール」のインストールが必要です。
使用方法については、ヘルプを参照してください。

- **インストール方法**
  ① ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする
  ② 画面のメッセージに従ってインストールする
  ［東芝ユーティリティ］タブの［TOSHIBA Peakshift Control］に用意されています。
- **起動方法**
  ① ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［ピークシフトコントロール］をクリックする
- **ヘルプの起動方法**
  ① 「東芝ピークシフトコントロール」を起動後、画面右上の［ヘルプ］ボタン（ ）をクリックする
  ② 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

6 章

アプリケーションについて

データをCD／DVDに記録する、DVDの映像を見る、ウイルス対策など、パソコンでよく使う機能のアプリケーションについて説明しています。

1 CD／DVDにデータのバックアップをとる

CD-R、CD-RW、DVD-R、DVD-RW、DVD+R、DVD+RWにデータをコピーするには、本製品に添付されている「TOSHIBA Disc Creator（トウシバ ディスク クリエイター）」を使います。
データをコピーする（書き込む）際に気をつけていただきたいことがあります。また、それぞれ対応しているメディアが異なります。以降の説明をよくお読みになってから書き込んでください。
ドライブが内蔵されていないモデルでは、別途CD／DVDドライブを用意してください。

メモ

- DVD-RAMにデータを書き込む場合は、バックアップしたいファイルやフォルダを［DVD-RAMドライブ］にコピーしてください。
  詳しくは、『Windowsヘルプとサポート』を参照してください。
  DVD-RAMのフォーマットには、「東芝DVD-RAMユーティリティ」を使用してください。

  参照 詳細について「2章 6-4 DVD-RAMをフォーマットする」
- CD-R、CD-RWなどにバックアップをとった場合、そのデータは書き込み不可になっている場合があります。この場合、バックアップをとったデータを使うときには、1度ハードディスクドライブなどにコピーしてからそのデータを右クリック→［プロパティ］で、［読み取り専用］のチェックをはずしてください。

お願い CD／DVDに書き込みを行うにあたって

- あらかじめ、「付録 1-12 CD／DVDにデータのバックアップをとる」を確認してください。

1 TOSHIBA Disc Creator

使用できるメディアは次のとおりです。
メディアについての詳細は、「2章 6 CDやDVDを使う」を参照してください。

○：使用できる　×：使用できない

CD-R	CD-RW	DVD-R	DVD-RW	DVD+R	DVD+RW	DVD-RAM
○	○	○＊1・2	○＊1	○＊1・3	○＊1	×

＊1 DVD-Video、DVD-VR、DVD-Audioの作成はできません。また、DVDプレーヤーなどで使用することはできません。

＊2 N12シリーズの場合、DVD-R DLを含みます。なお、DVD-R DLには追記ができません。

＊3 N12シリーズの場合、DVD+R DLを含みます。

インストール方法

＊企業向けモデルのみ

企業向けモデルでは、「TOSHIBA Disc Creator」が、購入時の状態ではインストールされていません。
［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］の［アプリケーション］タブからインストールしてください。

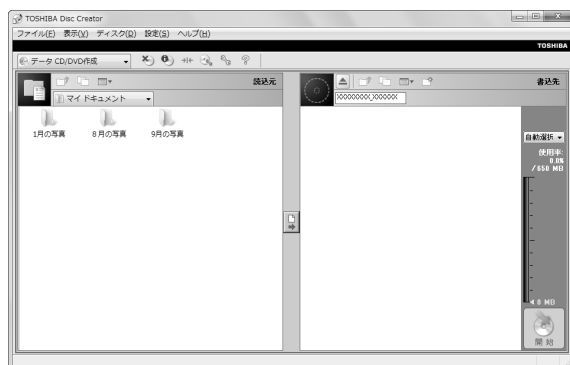
使用方法

あらかじめ書き込みを始める前にCD／DVDをドライブにセットしてください。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［CD&DVD アプリケーション］→［Disc Creator］をクリックする

「TOSHIBA Disc Creator」の［Startup Menu］画面が表示されます。

2 ［データCD/DVD作成］をクリックする

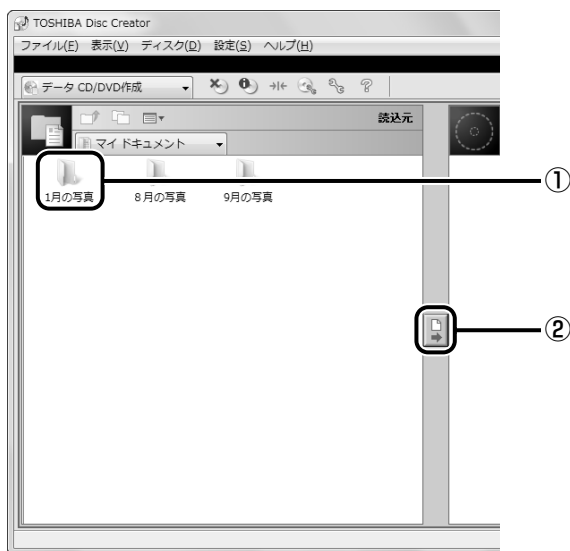
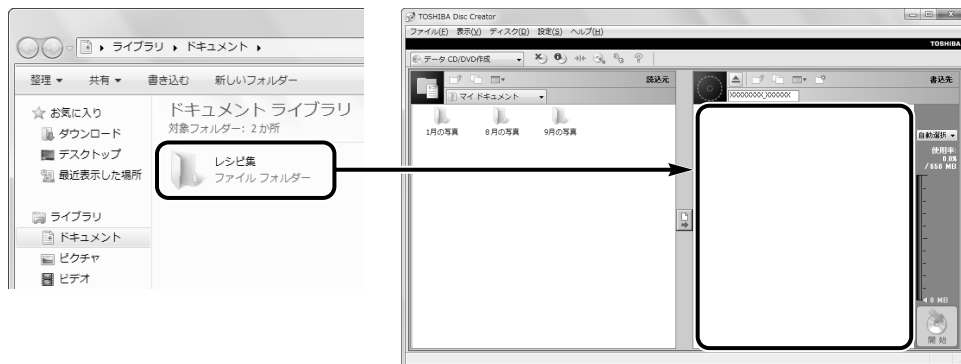
メインウインドウが表示されます。

3 「書込先」にファイルを追加する

●方法1 「読込元」でファイルを選択する

1. ボタンをクリックし①、記録するファイルやフォルダーの保存先を選択する②

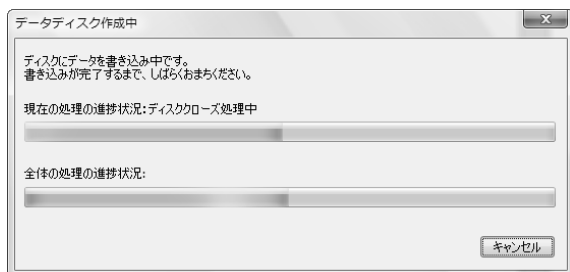
（表示例）

2. 記録するファイルやフォルダーをクリックし①、[書き込み先にデータを追加する]ボタン（ ）をクリックする②

6章 アプリケーションについて

●方法2　記録するファイルやフォルダーを「書込先」にドラッグアンドドロップする

4 「書込先」の［開始］ボタン（　）をクリックする

メッセージが表示されます。

5 ［はい］ボタンをクリックする

書き込みが開始されます。
CD／DVDをセットしていない場合は、メッセージ画面が表示されます。CD／DVDをセットして、［OK］ボタンをクリックしてください。
データの書き込みが開始され、進捗を示す画面が表示されます。

書き込みが終了すると、購入時の設定では元のデータと書き込んだCD／DVDのデータを比較します。

比較して問題ないことが確認されると、完了のメッセージが表示され、自動的にディスクトレイが開きます。

もう1枚、同じCD／DVDを作成する場合は、［はい］をクリックしてください。
［追記ディスクへの書き込みが正常に終了しました。］というメッセージが表示された場合は、［OK］ボタンをクリックしてください。

ヘルプの起動方法

■方法1

① ［スタート］ボタン（　）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［CD&DVDアプリケーション］→［Disc Creatorヘルプ］をクリックする

■方法2

① メインウインドウの［ヘルプ］→［ヘルプ］をクリックする

「TOSHIBA Disc Creator」のヘルプが表示されます。

2 DVDの映画や映像を見る

Windows上でDVDを再生するには、「TOSHIBA（トウシバ） DVD（ディーブイディー） PLAYER（プレーヤー）」を使います。
ドライブが内蔵されていないモデルでは、別途DVDドライブを用意してください。

用語について

本節では、「DVD」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD-Videoフォーマットまたは DVD-VRフォーマットで記録されたディスクを示します。

お願い DVDの再生にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 13 DVDの再生にあたって」を確認してください。

メモ

- Windows上でDVDを再生する場合、「TOSHIBA DVD PLAYER」を使用してください。
  「Windows Media Player」やその他の市販ソフトを使用してDVDを再生すると、表示が乱れたり、再生できないことがあります。

インストール方法

＊システム（OS）がWindows 7以外の場合のみ

システム（OS）がWindows 7以外の場合は、「TOSHIBA DVD PLAYER」が、購入時の状態ではインストールされていません。
［スタート］ボタン→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］の［東芝ユーティリティ］タブからインストールしてください。

1 TOSHIBA DVD PLAYERで見る

ここでは、「TOSHIBA DVD PLAYER」でDVDの映像を見る方法を説明します。

1 Windowsが起動している状態で、ドライブにDVDをセットする

参照 DVDのセット「2章 6 - 2 CD／DVDを使うとき（セット）」

2 ［DVDムービーの再生 -TOSHIBA DVD PLAYER使用］をクリックする

［DVDムービーに対しては常に次の動作を行う］にチェックがついている状態で、手順 2 の操作をすると、次回以降はDVDをセットすると自動的に「TOSHIBA DVD PLAYER」が起動します。

（表示例）

「TOSHIBA DVD PLAYER」が起動します。
詳細は、「TOSHIBA DVD PLAYER」のヘルプを参照してください。

メモ

- 「TOSHIBA DVD PLAYER」が起動しなかった場合は、［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA DVD PLAYER］→［TOSHIBA DVD PLAYER］をクリックしてください。

■TOSHIBA DVD PLAYERについて

本製品で再生できるのは、DVD-VideoとDVD-VRです。Video CDとは異なります。DVDが入っていたパッケージやDVDの盤面に「DVD-Video」と記載されていることを確認してください。

ヘルプの起動方法

「TOSHIBA DVD PLAYER」についての詳細は、ヘルプを確認してください。
起動方法は次のとおりです。

1 映像ウィンドウ右上の［ヘルプ］ボタン（ ? ）をクリックする

3 映像を編集してDVDに残す

＊個人・家庭向けモデルのドライブ内蔵モデルのみ

デジタルビデオカメラで撮影した映像をパソコンで編集し、DVDに残すことができます。

1 DVD MovieWriter

映像を編集してDVDに残すには、「DVD MovieWriter for TOSHIBA」を使います。

DVDを用意する

「DVD MovieWriter」がサポートしているメディアとフォーマットを参考に、書き込み可能なDVDメディアを用意してください。なお、推奨するメーカーのメディアを使用してください。

参照 推奨するメーカーについて「付録 2-1 使えるCDを確認しよう」
「付録 2-2 使えるDVDを確認しよう」

❏ フォーマット

フォーマットとは、映像を書き込むときの記録形式のことです。フォーマットによって、作成したDVDを再生できる機器が異なります。それぞれ次の特徴があります。

■DVD-Videoフォーマット

もっとも一般的なDVD形式です。ほとんどの家庭用DVDビデオレコーダーやパソコンと再生互換性があります。メニューを作成することができます。

■-VRフォーマット

再編集可能なDVDを作成します。一部の家庭用DVDビデオレコーダーやパソコンでは再生できない場合があります。メニューを作成することはできません。

■+VRフォーマット

再編集可能なDVDを作成します。DVD+VRに対応した家庭用DVDビデオレコーダーやパソコンでのみ再生できます。メニューを作成することができます。

メモ

- メニューとは、DVDをセットしたときに表示されるタイトル画面のことです。

「DVD MovieWriter」がサポートしているメディアとフォーマットは、次のとおりです。

○：使用できる　×：使用できない

	DVD-R＊1	DVD-RW	DVD+R＊2	DVD+RW	DVD-RAM
DVD-Videoフォーマット	○	○	○	○	×
-VRフォーマット	○	○	×	×	○
+VRフォーマット	×	○	×	○	×

＊1 N12シリーズの場合、DVD-R DLを含みます。

＊2 N12シリーズの場合、DVD+R DLを含みます。

インストール方法

「DVD MovieWriter」は、購入時の状態ではインストールされていません。
［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］の［アプリケーション］タブからインストールしてください。

メモ

- 映像を編集する前に、「付録 1 - 18 「DVD MovieWriter」の使用にあたって」をよくお読みください。
- DVDまたはハードディスクに書き出す前に、「付録 1 - 19 「メディアへの書き込み／ハードディスクへの書き出しについて」をよくお読みください。

起動方法

［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［DVD MovieWriter for TOSHIBA］→［DVD MovieWriter Launcher］をクリックする

ヘルプの起動方法

「DVD MovieWriter」についての詳細は、『DVD MovieWriter ユーザーガイド』を確認してください。

4 ウイルスバスターによるウイルス対策

「ウイルスバスター」は、個人情報保護、コンピューターウイルスの発見、駆除、ネットワークセキュリティ対策ができるアプリケーションです。

お願い 使用するにあたって

- あらかじめ、「付録 1-14 ウイルスチェック・セキュリティ対策について」を確認してください。

1 ウイルスチェックの方法

インストール方法

＊企業向けモデルのみ

企業向けモデルでは、「ウイルスバスター」は、購入時の状態ではインストールされていません。次の手順でインストールしてください。

1 デスクトップ上の［ウイルスバスターのセットアップ］アイコン（ ）をダブルクリックする

2 画面の指示に従ってインストールする

インストールの途中で「ウイルスバスター」の使用許諾契約画面が表示されます。
内容を確認し、［使用許諾契約書の条項に同意します］をチェックし、手順を進めてください。契約に同意しなければ、「ウイルスバスター」をインストールできません。
途中でシリアル番号の入力画面が表示されますが、何も入力せずに次の手順へ進んでください。

1 最新の対策法を手に入れる

コンピューターウイルスは、次々と新しいものが出現します。ウイルスチェックは、パターンファイルに基づいて行いますので、最新のコンピューターウイルスに対応したパターンファイルを入手する必要があります。「ウイルスバスター」ではアップデート機能を使ってパターンを更新できます。
「ウイルスバスター」の無料更新サービスを使用するためには、インターネットに接続してお申し込みを行っていただく必要があります。
あらかじめインターネットに接続する設定を行ってから操作を始めてください。

1 **通知領域の［ウイルスバスター］アイコン（ ）をダブルクリックする**

［ウイルスバスター］アイコンが通知領域に表示されていない場合は、［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［ウイルスバスター2010］→［ウイルスバスター2010を起動］をクリックしてください。

［ウイルスバスター］画面が表示されます。

［現在の状況］タブで、「ウイルスバスター」のセキュリティ状況が確認できます。

（表示例）

2 **［現在の状況］タブで［アップデート開始］ボタンをクリックする**

（表示例）

アップデート機能を有効にする

アップデート機能を利用するには、アップデート機能を有効にしてください。有効にするには、メールアドレスの入力が必要です。

アップデート機能を有効にしていない場合は、［ウイルスバスター］画面の［現在の状況］タブで、「アップデート機能を利用できません」と表示されます。［アップデート機能を利用できません］の［有効にする］ボタンをクリックしてください。

アップデート機能を有効にするための画面が表示されます。［ご使用前に必ずお読みください］と［個人情報の取り扱いについて］の内容を確認し、メールアドレスを入力して、［ウイルスバスターを有効にする］ボタンをクリックしてください。

以降は、表示される画面の指示に従って操作してください。

2 ウイルスをチェックする

ウイルスチェックは、パソコンで使用しているソフトウェアやファイルの動きを監視するリアルタイム検索や、定期的に検索を実行する予約検索もありますが、ここでは手動での検索を説明します。

1 通知領域の［ウイルスバスター］アイコン（ ）をダブルクリックする

［ウイルスバスター］画面が表示されます。

2 ［現在の状況］タブで［検索開始］ボタンをクリックする

（表示例）

検索を開始します。
ウイルスのチェックが終わると、結果画面が表示されます。
ウイルスが発見された場合、初期設定ではウイルスやファイルの種類によって適切な処理が実行されるように設定されています。特別な理由がない限り設定を変更しないで使用することをおすすめします。
詳しくは、ヘルプを確認してください。

3 ［閉じる］ボタンをクリックする

2 ウイルス対策以外の機能

「ウイルスバスター」には、コンピューターウイルスを検出／除去する総合ウイルス対策機能のほかに次の機能があります。

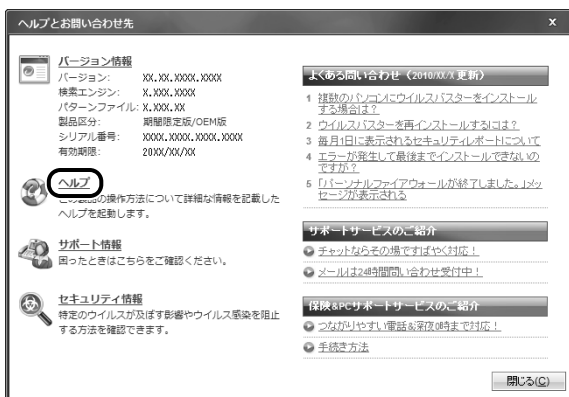
- フィッシング詐欺への対策をする
- スパイウェアを検出して処理する
- 個人情報の漏えいを防止する
- 不正アクセスを防止する（パーソナルファイアウォール）
- 迷惑メールや詐欺メールを判定して処理する
- ネットワークへの不正侵入を監視する
- ネットワーク上の複数台の「ウイルスバスター」を管理する
- 有害サイトへのアクセスを制限する

詳しくは、ヘルプを確認してください。

ヘルプの起動

1 ［ウイルスバスター］画面で［ヘルプとお問い合わせ先］をクリックする

［ヘルプとお問い合わせ先］画面が表示されます。

2 表示された画面で［ヘルプ］をクリックする

（表示例）

［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［ウイルスバスター2010］→［ウイルスバスター2010 ヘルプ］を順にクリックしても表示されます。

5 有害サイトを遮断する

本製品には、特定のWebページへのアクセスを制限することができるアプリケーションソフト「i-フィルター5.0」が用意されています。
子供の年齢に合わせた設定や、アクセスを制限したいカテゴリの指定、制限の強弱も設定できます。パスワードを使用すれば、簡単に設定を解除することもできるので、大人から子供まで家族で個別に設定することができます。

「i-フィルター5.0」の無料お試し版を使用するには、インターネットに接続してお申し込みを行っていただく必要があります。
設定方法は、「i-フィルター5.0」のヘルプを確認してください。

お願い 使用期限について

- あらかじめ、「付録 1-20 「i-フィルター」について」を確認してください。

インストール方法

「i-フィルター5.0」は、購入時の状態ではインストールされていません。
［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］の、［アプリケーション］タブからインストールしてください。

起動方法

1 **［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［i-フィルター］→［i-フィルター］をクリックする**

最初に起動したときには、使用許諾契約書とその他の内容を確認し、［「i-フィルター」を使ってみる］ボタンをクリックしてください。

無料お試し版の使用を申し込むには、インターネットに接続して行いますので、あらかじめインターネットに接続する設定を行ってください。

ヘルプの起動方法

1 **［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［i-フィルター5.0］→［i-フィルター5.0ヘルプ］をクリックする**

6 文書や表、メールを作る

＊Office搭載モデル、PowerPoint搭載モデルのみ

Office搭載モデルにはOffice Personal 2007、PowerPoint搭載モデルにはOffice PowerPoint 2007がインストールされています。
Office Personal 2007には、次のアプリケーションが含まれています。

- Microsoft® Office Word 2007
- Microsoft® Office Excel® 2007
- Microsoft® Office Outlook® 2007

詳しくは各アプリケーションのヘルプを参照してください。

お願い 使用するにあたって

- あらかじめ、「付録 1-15 文書や表、メールについて」を確認してください。

メモ

- Office Personal 2007のいずれかのアプリケーションを初めて起動したときは、[ユーザー名の指定]画面が表示されます。ユーザー名を入力し、[OK]ボタンをクリックしてください。
- 初めて「2007 Microsoft Office System」を起動したときは、[マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項]画面が表示されます。契約内容を読んで、[同意する]ボタンをクリックしてください。
[同意する]ボタンをクリックしないと、「2007 Microsoft Office System」を使用できません。
- Office Personal 2007の最新アップデート情報については、
http://office.microsoft.com/OfficeUpdate/をご参照ください。

1 Microsoft Office Word

美しい文書を簡単に作ることができるワープロソフトです。文字の種類や大きさを決めたり、文書に表やさし絵を入れたり、ほかのソフトで作った画像やグラフをはりつけたりすることができます。書類作成などで大変役立ちます。

起動方法

1 [スタート]ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［Microsoft Office］→［Microsoft Office Word］をクリックする

ヘルプの起動方法

1 「Microsoft Office Word」を起動後、画面上部の（ ）をクリックする

2 Microsoft Office Excel

見積書や請求書、数字の多い報告書などが簡単に作成できる表計算ソフトです。項目や数字を入力して表を作り、計算式を設定すると自動的に計算を行うことができます。合計、平均、パーセント、標準偏差などの計算が可能です。また、入力した数字からグラフを作ることもできます。

起動方法

1 [スタート] ボタン（ ）→ [すべてのプログラム] → [Microsoft Office] → [Microsoft Office Excel] をクリックする

ヘルプの起動方法

1 「Microsoft Office Excel」を起動後、画面上部の（ ）をクリックする

3 Microsoft Office Outlook

電子メールをはじめとして、予定表・連絡先・仕事の情報・Webサイトへのアクセスなどを、簡単に管理できるスケジュール管理ソフトです。一日の予定をいっぺんに把握することができるので、いちいち多くのウィンドウを開く必要がなく効率的です。

メモ

- 契約しているプロバイダーによっては、使用できないことがあります。詳しくは、契約しているプロバイダーに確認してください。
- 初めて「Microsoft Office Outlook」を起動したときは、[Outlook スタートアップ] 画面が表示されます。必要に応じて、設定を行ってください。

起動方法

1 [スタート] ボタン（ ）→ [すべてのプログラム] → [Microsoft Office] → [Microsoft Office Outlook] をクリックする

ヘルプの起動方法

1 「Microsoft Office Outlook」を起動後、画面上部の（ ）をクリックする

4 Microsoft Office PowerPoint

プレゼンテーション用の資料を簡単に作成できるソフトです。
文字の種類や大きさを見やすく設定したり、グラフやイラストを貼り付けたりすることができます。

起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［Microsoft Office］→［Microsoft Office PowerPoint］をクリックする

Office PowerPoint 2007は、インストール済みですが、初回起動時にプロダクトキーの入力とライセンス認証が必要です。
詳しくは、『Microsoft® Office PowerPoint® 2007 スタートガイド』を参照してください。

ヘルプの起動方法

「Microsoft Office PowerPoint」を起動後、画面上部の（ ）をクリックする

7章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

1 東芝HWセットアップ

「東芝HWセットアップ」を使い、Windows上でハードウェアの設定を変更できます。
複数のユーザーで使用する場合も、設定内容は全ユーザーで共通になります。

起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［HWセットアップ］をクリックする

［東芝HWセットアップ］画面が表示されます。

2 各タブで機能を設定し、［OK］ボタンをクリックする

［キャンセル］ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

ヘルプの起動方法

1 ［東芝HWセットアップ］画面上で、知りたい項目にポインターを置く

項目に対するヘルプが表示されます。

2 BIOSセットアップ

＊この操作は、「オンラインマニュアル（本書）」を参照しながら実行することはできません。
印刷した本項目のページと『取扱説明書』を参照して実行してください。

BIOS（バイオス）セットアップとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。起動と終了方法や基本操作は『取扱説明書』を参照してください。
ここでは、BIOSセットアップの画面について説明します。

1 BIOSセットアップの画面

BIOSセットアップには次の2頁の画面があります。

＊1 Core 2モデルのみ
＊2 SSD内蔵モデルのみ
＊3 N12シリーズのドライブ内蔵モデルのみ

（注）画面は一部をのぞいて標準設定値の表示例です。

2 設定項目

カーソルが移動しない項目は、変更できません（参照のみ）。ここでは、標準設定値を「標準値」と記述します。

1 MEMORY

■Total

本体に取り付けられているメモリの総メモリ容量が表示されます。

2 SYSTEM DATE/TIME

日付と時刻の設定は SPACE または BACKSPACE キーで行います。
月と日と年、時と分と秒の切り替えは、↑ ↓ キーで行います。

■Date

日付を設定します。

■Time

時刻を設定します。

3 PASSWORD

■User Password

・Not Registered（標準値）....ユーザーパスワードが登録されていないときに表示されます。
・Registered............................ユーザーパスワードが登録されているときに表示されます。

【ユーザーパスワードの登録／削除／変更】

ユーザーパスワードの設定は「東芝パスワードユーティリティ」で行うことを推奨します。
BIOSセットアップでユーザーパスワードを設定する場合は、「本章 3-1-2 BIOSセットアップでの設定」を確認してください。

参照 「東芝パスワードユーティリティ」について
「本章 3-1-1 東芝パスワードユーティリティでの設定」

【ユーザーパスワードを忘れてしまったとき】

ユーザーパスワードを忘れてしまった場合は、東芝PCあんしんサポートに相談してください。
ユーザーパスワードの解除を東芝PCあんしんサポートに依頼する場合は、有料です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

■Supervisor Password

・Not Registered（標準値）...スーパーバイザーパスワードが登録されていないときに表示されます。
・Registered............................スーパーバイザーパスワードが登録されているときに表示されます。

【スーパーバイザーパスワードの登録】

スーパーバイザーパスワードの登録は、「東芝パスワードユーティリティ」で行うことを推奨します。

参照 「本章 3-2 スーパーバイザーパスワード」

【スーパーバイザーパスワードの削除／変更】

BIOSセットアップで、いったんスーパーバイザーパスワードを設定してしまうと、BIOSセットアップではスーパーバイザーパスワードの削除と変更ができません。
その場合は、「東芝パスワードユーティリティ」でスーパーバイザーパスワードの削除や変更を行ってください。

参照 「本章 3-2 スーパーバイザーパスワード」

【スーパーバイザーパスワードを忘れてしまったとき】

スーパーバイザーパスワードを忘れてしまった場合は、東芝PCあんしんサポートに相談してください。スーパーバイザーパスワードの解除を東芝PCあんしんサポートに依頼する場合は、有料です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

4 HDD PASSWORD

■HDD

パスワードを設定するハードディスクです。

- Built-in HDD..........................内蔵ハードディスクに設定されます。
- eSATA HDD ....eSATAのハードディスクを接続している場合にのみ表示され、選択すると、eSATAのハードディスクにパスワードが設定されます。

■HDD Password Mode

登録するHDDパスワードを選択します。HDDパスワード（ユーザーHDDパスワード、マスターHDDパスワード）を登録していないときのみ、選択できます。HDDパスワードが登録されている場合は、いったんHDDパスワードを削除してから選択してください。

- User Only（標準値）.............ユーザーHDDパスワードのみ設定する
- Master+User........................マスターHDDパスワードとユーザーHDDパスワードを設定する

■User Password

ユーザーHDDパスワードを設定します。

■Master Password

マスターHDDパスワードを設定します。
「HDD Password Mode」が「Master+User」の場合のみ表示されます。

マスターHDDパスワードを設定し、続けてユーザーHDDパスワードの設定を行います。

- Not Registered（標準値）…マスターHDDパスワードまたはユーザーHDDパスワードが登録されていないときに表示されます。
- Registered…………………………マスターHDDパスワードまたはユーザーHDDパスワードが登録されているときに表示されます。

参照 HDDパスワードの設定方法「本章 3 - 4 HDDパスワード」

5 BOOT PRIORITY

■Boot Priority

システムを起動するディスクドライブの順番を設定します。
通常は「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」に設定してください。

- HDD → FDD → CD-ROM → LAN（標準値）
- FDD → HDD → CD-ROM → LAN
- HDD → CD-ROM → LAN → FDD
- FDD → CD-ROM → LAN → HDD
- CD-ROM → LAN → HDD → FDD
- CD-ROM → LAN → FDD → HDD

（上記の標準値以外の5項目）─指定のドライブ順に起動する

「FDD」では、別売りのフロッピーディスクドライブを接続していない場合、SDメモリカード＊1が起動します。
本製品では、SDメモリカード＊1の起動ディスクを作成することができます。

＊1 本機能は、SDHCメモリカードには対応しておりません。

参照 SDメモリカードの起動ディスクについて「2章 1 - 2 - SDメモリカードから起動する」

■HDD Priority

「USB Memory BIOS Support Type」でHDDを選択した場合に、システムを起動する順番を設定します。

- Built-in HDD → USB → eSATA（標準値）
- USB → Built-in HDD → eSATA
- Built-in HDD → eSATA → USB
- USB → eSATA → Built-in HDD
- eSATA → Built-in HDD → USB
- eSATA → USB → Built-in HDD

6 OTHERS

■Core Multi-Processing

＊Core 2モデルのみ

Core Multi-Processingでは、CPUの動作モードを設定します。

・Enabled（標準値）..................Dual Coreモードに設定する
・Disabled.................................Single Coreモードに設定する

■Dynamic CPU Frequency Mode

＊Core 2モデルのみ

・Dynamically Switchable（標準値）....CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を有効にし、使用状況に応じてCPU周波数を自動的に切り替えます。
・Always High...CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、CPU周波数を高周波数にしてパソコンの処理能力を優先します。
・Always Low..CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、CPU周波数を低い周波数にしてパソコンのバッテリー駆動時間を優先します。

■Execute-Disable Bit Capability

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能を有効にするかどうかを設定します。
エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能とは、コンピューターウイルスや不正アクセスによるバッファー・オーバーフロー攻撃からパソコンを守るために、セキュリティを強化する機能です。

・Available（標準値）................有効にする
・Not Available.........................無効にする

■Virtualization Technology

＊Core 2モデルのみ

CPUとChipsetに実装されたIntel Virtualization Technologyの許可／禁止を設定します。
Intel Virtualization Technologyとは、１台のマシンを複数の仮想マシンとして動作させる技術です。

・Disabled.................................Intel Virtualization Technologyを禁止に設定する
・VT-x & VT-d...........................VT-x & VT-d機能を有効にする
・VT-x Only................................VT-x機能を有効にする
・VT-d Only................................VT-d機能を有効にする

取り付けられているメモリ容量が違う場合（例1GB+2GB）は「Disabled」または「VT-x Only」に設定してください。

＊モデルによっては、一部またはすべてが表示されない場合があります。すべて表示されないモデルは、本機能を搭載していません。

■Trusted Execution Technology

＊Core 2モデルのみ

Trusted Execution Technologyの許可／禁止を設定します。
Trusted Execution Technologyとは、Virtualization Technologyを使ってTPMと連携させるセキュリティ技術です。

- ・Disabled（標準値）................Trusted Execution Technologyを禁止に設定する
- ・Enabled..................................Trusted Execution Technologyを許可に設定する

Trusted Execution Technologyを許可に設定する場合、事前に［6］「OTHERS」の「Virtualization Technology」を「VT-x & VT-d」に、［16］「SECURITY CONTROLLER」の「TPM」を「Enabled」に設定してください。

■Auto Power On

自動的にシステムの電源を入れる機能の設定状態を示します。

- ・Disabled................................Auto Power On機能が設定されていない
- ・Enabled（標準値）.................Auto Power On機能が設定されている

「Alarm Time」と「Alarm Date Option」の機能によって、自動的に電源が入ったあとは設定が解除されます。
Windowsを使用している場合は「Alarm Time」と「Alarm Date Option」の設定は無効になります。
Windowsのタスクスケジューラを使用してください。

Auto Power On機能の設定は「OPTIONS」ウィンドウで行います。

「OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。
アラームの時刻の設定は *SPACE* または *BACKSPACE* キーで行います。
時と分、月と日の切り替えは、↑ ↓キーで行います。

● Alarm Time

自動的に電源を入れる時間を設定します。

- ・Disabled................................時間を設定しない

● Alarm Date Option

自動的に電源を入れる月日を設定します。
「Alarm Time」が「Disabled」の場合は、設定できません。

- ・Disabled................................月日を設定しない

● **Wake-up on LAN**

ネットワークで接続された管理者のパソコンからの呼び出しにより、自動的に電源を入れます。
［14］「PCI LAN」の「Built-in LAN」が「Enabled」の場合に設定できます。
Wake up on LAN機能を使用する場合は、必ずACアダプターを接続してください。電源を切っている状態でも、バッテリーを使っていないときの充電保持時間が別紙の『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』の表記よりも短くなります。

・Enabled ....Wake up on LAN機能を使用する
・Disabled（標準値）................Wake up on LAN機能を使用しない

Wake up on LAN機能を有効にするためには、「デバイス マネージャー」の［ネットワークアダプター］でネットワークアダプター名をダブルクリックし、表示されたプロパティ画面の［電源の管理］タブで［このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする］および［Magic Packetでのみ、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする］の項目にチェックをつける必要があります。

パスワードセキュリティで設定したパスワードと休止状態が設定してある状態で、Auto Power On機能を設定してシステムを起動させた場合、「Password=」と表示されます。パスワードセキュリティで設定したパスワードを入力すると、休止状態からWindowsに復帰します。

参照 パスワードセキュリティの設定「本章 3 パスワードセキュリティ」

● **on Battery**

「Wake-up on LAN」が「Enabled」の場合に設定できます。

・Enabled.............................バッテリー駆動の際に、Wake-up on LAN機能を有効にします。
・Disabled（標準値）...........バッテリー駆動の際に、Wake-up on LAN機能を無効にします。

● **Critical Battery Wake-up**

「Critical Battery Wake-up機能」の有効／無効を設定します。「Critical Battery Wake-up機能」とは、スリープ状態の間にバッテリーの残量が少なくなった場合、自動的に休止状態になり、データをハードディスクに保存します。
なお、Windows 7またはWindows Vistaをお使いの場合のみ有効です。

・Enabled（標準値）..................Critical Battery Wake-up機能を有効にする
・Disabled.................................Critical Battery Wake-up機能を無効にする

「Critical Battery Wake-up機能」を有効にするには、Windows上でも設定が必要です。
次の操作を行って、設定してください。

① **［コントロールパネル］を開き、［システムとセキュリティ］の［バッテリ設定の変更］をクリックする**

② **［プラン設定の変更］をクリックする**

③ **［詳細な電源設定の変更］をクリックする**

④ **［電源オプション］画面の［詳細設定］タブで、［バッテリ］をダブルクリックする**

⑤ **［バッテリ切れの操作］をダブルクリックし、表示された項目で「バッテリ駆動」が「休止状態」になっていることを確認する**

⑥ **［OK］ボタンをクリックする**

■Beep Volume

警告音（ビープ音）の音量を設定します。
Off、Low、Medium（標準値）、Highのいずれかを選択できます。

■Diagnostic Mode

BIOSのハードウェア診断テスト機能を有効にするかどうかの設定をします。

・Disabled（標準値）................ハードウェア診断テスト機能を無効にする
・Enabled..................................ハードウェア診断テスト機能を有効にする

■USB Sleep and Charge

USBの常時給電の設定をします。
初期設定では「Disabled」に設定されています。「Enabled」に設定を変更すると、本機能が使用できます。
「Enabled」には複数のモード設定があります。通常はMode1に設定してください。
Mode1で本機能を使用できない場合は、他のモードに設定を変更してください。
ただし、外部機器によってはいずれかのモードに設定しても、本機能を使用できない場合があります。
この場合、「Disabled」に設定を変更し、本機能の使用を中止してください。

・Enabled（Mode1）..............有効にする
・Enabled（Mode2）..............有効にする
・Enabled（Mode3）..............有効にする
・Enabled（Mode4）..............有効にする
・Disabled（標準値）................無効にする

■SATA Interface setting

＊SSD内蔵モデルのみ

SSDの性能とバッテリー駆動時間の優先度を選択できます。

・Performance（標準値）........SSDの性能／eSATAポート転送速度*1を優先する
・Battery Life...........................バッテリー駆動時間を優先する

＊1 eSATAポートに接続する機器によって、転送速度は異なります。

7 CONFIGURATION

■Device Config.

ブート時にBIOSが初期化する装置を指定します。

・Setup by OS（標準値）........OSをロードするのに必要な装置のみ初期化する
それ以外の装置はOSが初期化します。
・All Device ....すべての装置を初期化する

プレインストールされているOSを使用する場合は、「Setup by OS」（標準値）を選択することを推奨します。

8 BATTERY

■Battery Save Mode

バッテリーセーブモードを設定します。
「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウが開きます。
「User Setting」を選択した場合のみ、設定の変更ができます。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの設定項目は次のように表示されます。

●Full Power（標準値）	●Low Power	●User Setting（設定例）
Processing Speed = High	Processing Speed = Low	Processing Speed = Low
CPU Sleep Mode = Enabled	CPU Sleep Mode = Enabled	CPU Sleep Mode = Enabled
LCD Brightness = Super-Bright＊1	LCD Brightness = Bright＊1	LCD Brightness = Semi-Bright＊1
Cooling Method = Maximum Performance	Cooling Method = Battery Optimized	Cooling Method = Battery Optimized

＊1 ACアダプターを接続している場合の表示内容です。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウを閉じるには、↑ ↓キーを押して選択項目を「Processing Speed」または「Cooling Method」の外に移動します。

次に「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

● **Processing Speed**

処理速度を設定します。
使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

・High..処理速度を高速に設定する
・Low ....処理速度を低速に設定する

● **CPU Sleep Mode**

CPUが処理待ち状態のとき、電力消費を低減します。
一部のアプリケーションソフトでは「Enabled」に設定すると処理速度が遅くなることがあります。その場合は「Disabled」に設定してください。

・Enabled……………………電力消費を低減する
・Disabled……………………電力消費を低減しない

● **LCD Brightness（LCD輝度）**

画面の明るさを選択します。

・Semi-Bright………………低輝度に設定する
・Super-Bright………………最高輝度に設定する
・Bright………………………高輝度に設定する

● **Cooling Method（CPU熱制御方式）**

CPUの熱を冷ます方式を選択します。CPUが高熱を帯びると故障の原因になります。

・Cooling Optimized…………パソコン本体内部の温度が上昇したときに、主にファンを使用して冷却します。
・Maximum Performance……パソコン本体内部の温度が上昇したときに、主にファンを使用して冷却します。
「Cooling Optimized」よりもファン音が静かな状態を保ち温度を下げます。
・Performance…………………パソコン本体内部の温度が上昇したときに、［Maximum Performance］と［Battery Optimized］の中間的な方法で冷却します。
・Battery Optimized…………パソコン本体内部の温度が上昇したときに、主にCPU の処理速度を落として冷却します。
［Performance］より消費電力は少なくなります。

■PCI Express Link ASPM

PCI Expressの省電力機能を設定します。

・Auto…………………………バッテリー動作中かつPCI Expressデバイスが使用されていないときに、消費電力を抑えます。
・Disabled……………………省電力機能を無効にし、パフォーマンスを優先させます。
・Enabled（標準値）…………PCI Expressデバイスが使用されていないときに、消費電力を抑えます。

■Enhanced C-States

＊Core 2モデルのみ

Enhanced C-Statesでは、電力消費の低減を設定します。

・Enabled（標準値）…………消費電力を低減する
・Disabled……………………消費電力を低減しない

9 DRIVES I/O

■Built-in HDD

ハードディスクドライブの設定を表示します。

■ODD

＊N12シリーズのドライブ内蔵モデルのみ

CD／DVDドライブの設定を表示します。変更はできません。

■eSATA

eSATAコネクタを設定します。

・Serial ATA Port4（標準値）.........eSATAコネクタを有効にします。
「SATA Controller Mode」が「IDE」に設定されている場合は、「IDE」と表示されます。

・Disabled ....eSATAコネクタを無効にします。

■SATA Controller Mode

SATAコントローラーモードを設定します。

・AHCI（標準値）........................Windows 7またはWindows Vista用のモード（AHCI）です。

・IDE ....レガシーOS用でAHCI対応のドライバーを使わない場合は、こちらのモードを使用してください。
ただし、すべてのレガシーOSでの動作を保証するものではありません。

10 PCI BUS

■PCI BUS

PCIバスの割り込みレベルを表示します。変更はできません。

11 DISPLAY

■Power On Display

起動時のWindows ロゴを表示する表示装置を選択します。

・Auto-Selected（標準値）.....システム起動時に外部ディスプレイを接続しているときは外部ディスプレイだけに、接続していないときは本体液晶ディスプレイだけに表示する

・System LCD only ....本体液晶ディスプレイだけに同時表示する

12 PERIPHERAL

■Internal Pointing Device

タッチパッドを使用する／使用しないを設定します。

・Enabled（標準値）..................使用する

・Disabled.................................使用しない

13 LEGACY EMULATION

■USB KB/Mouse Legacy Emulation

USBキーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- Enabled（標準値）..................レガシーサポートを行う
  ドライバーなしでUSBキーボード／USBマウスが使用できます。
- Disabled.................................レガシーサポートを行わない

■USB-FDD Legacy Emulation

- Enabled（標準値）..................レガシーサポートを行う
  ドライバーなしでUSBフロッピーディスクドライブが使用できます。フロッピーディスクから起動する場合は、こちらに設定します。
- Disabled.................................レガシーサポートを行わない

「USB-FDD Legacy Emulation」が「Enabled」に設定されていても、[5]「BOOT PRIORITY」の「Boot Priority」が標準値の「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」の場合は、本体ハードディスクから起動します。

■USB Memory BIOS Support Type

コンピューターの起動に使用するUSBフラッシュメモリに関する設定をします。

- HDD（標準値）........................USBフラッシュメモリをHDDとして扱います。起動するドライブとしての優先順位は、「Boot Priority」でのHDDの順位になります。ほかのHDDとの優先順位は、「HDD Priority」で設定できます。
- FDD ....USBフラッシュメモリをFDDとして扱います。起動するドライブとしての優先順位は、「Boot Priority」でのFDDの順位になります。

14 PCI LAN

■Built-in LAN

LANコネクタの機能を有効にするかどうかの設定をします。

- Enabled（標準値）..................有効にする
- Disabled.................................無効にする

■Wireless LAN

無線LANの機能を有効にするかどうかの設定をします。

- Enabled（標準値）..................有効にする
- Disabled.................................無効にする

15 SECURITY CONTROLLER

■TPM

TPM（Trusted Platform Module）を有効にするかどうかの設定をします。

・Disabled（標準値）................TPMを有効にしない
・Enabled..................................TPMを有効にする

設定を変更するには、次のように操作してください。

①カーソルバーを「TPM」の「Disabled」または「Enabled」に合わせ、SPACEまたはBACKSPACEキーを押す

画面下部に「Save changes to Security Controller now? (Y/N)」と表示されます。

②Yキーを押す

設定が変更されます。

■Hide TPM

「TPM」で「Disabled」に設定している場合のみ、表示されます。
TPMの表示をシステム上で確認できないようにするときに使用します。

Yes..TPMをシステム上で確認できないようにします。
No（標準値）................................TPMをシステム上で確認できるようにします。

「TPM」を「Enabled」に設定するには、先に「Hide TPM」を「No」に設定してください。
また、「Yes」に設定すると、TPMをシステム上で確認することはできません。

■Clear TPM Owner

「TPM」で「Enabled」に設定した場合のみ、表示されます。
所有者登録とユーザー登録を削除します。
本製品を廃棄するときや、譲渡などにより使用者（管理者）を変更するというように、TPMの使用を中止する場合に行ってください。

①カーソルバーを［Clear TPM Owner］に合わせ、SPACEまたはBACKSPACEキーを押す

画面下部に「Press a key in the turn of [Y], [E], [S] and [Enter].」と表示されます。

②「YES」と入力し（YESキーを押す）、ENTERキーを押す

「TPM」の設定が「Enabled」から「Disabled」に変更され、「Clear TPM Owner」は表示されなくなります。

お願い　操作にあたって

- 所有者登録とユーザー登録を削除すると、TPMに関係するセキュリティ機能が使用できなくなります。このため、管理者の権限を持たないユーザーが「SECURITY CONTROLLER」を操作できないように設定することをおすすめします。

参照 管理者以外のユーザーの制限について『Trusted Platform Module 取扱説明書』

- 所有者登録とユーザー登録を削除したあとに、TPMの使用を再開する場合は、もう1度TPMへ所有者登録やユーザー登録を行う必要があります。

3 パスワードセキュリティ

本製品ではパスワードを設定できます。パスワードには大きく分けて次の3種類があります。

- Windowsのログオンパスワード
  - ・Windowsにログオンするとき
  - ・インスタントセキュリティ状態やパスワード保護の設定をしたスクリーンセーバーを解除するとき

参照 インスタントセキュリティ機能「2章 4 - 2 - FN キーを使った特殊機能キー」

- ユーザーパスワード、スーパーバイザーパスワード
  - ・電源を入れたときや休止状態から復帰するとき、東芝パスワードユーティリティを起動して設定するとき

  ユーザーパスワードやスーパーバイザーパスワードを登録すると、電源を入れたときなどにパスワードの入力が必要になります。
  通常はユーザーパスワードを登録してください。
  スーパーバイザーパスワードは、パソコン本体の環境設定を管理する人が使用します。スーパーバイザーパスワードを登録すると、スーパーバイザーパスワードを知らないユーザーは、BIOSセットアップの設定を変更できないようにする、などいくつかの制限を加えることができます。
  この制限を加える必要がなければ、ユーザーパスワードだけ登録してください。

- HDDパスワード
  ハードディスクを起動するとき

ここでは、ユーザーパスワード／スーパーバイザーパスワードやHDDパスワードの設定方法、トークン*1 の作成方法について説明します。

＊1 パスワードの代わりに使用できるSDメモリカードです。

メモ

- スーパーバイザーパスワードとユーザーパスワードでは、違うパスワードを使用してください。
- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えてください。
- パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作は行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

お願い

- パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、東芝PCあんしんサポートに依頼してください。
  パスワードの解除を東芝PCあんしんサポートに依頼する場合は有料です。HDDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有料です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

パスワードとして使用できる文字

パスワードに使用できる文字は次のとおりです。
アルファベッドの大文字と小文字は区別されません。

使用できる文字	アルファベット（半角）	a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z
	数字（半角）	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号の一部（半角）	; : , . （スペース）など
使用できない文字	・全角文字（2バイト文字） ・日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号など ・記号の一部（半角） 【例】|（バーチカルライン） ¥（エン）など ・ほかのキー（SHIFTキーやCAPSLOCK英数キーなど）と同時に使用しないと入力できない文字	

パスワード登録時に警告メッセージが表示された場合は、登録しようとした文字列に使用できない文字が含まれています。この場合、もう1度別の文字列を入力し直してください。警告が表示されない場合も、上記「使用できない文字」に該当する文字は使用しないでください。また文字列は必ずキーボードから1文字ずつ直接入力してください。

1 ユーザーパスワード

ユーザーパスワードの登録は、「東芝パスワードユーティリティ」を使用することをおすすめします。
また登録した文字列は、パスワードファイルを作成して確認することをおすすめします。

1 東芝パスワードユーティリティでの設定

登録

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［パスワードユーティリティ］をクリックする

2 ［登録］ボタンをクリックする

［ユーザーパスワードの登録］画面が表示されます。

3 ［入力］にパスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。

参照 パスワードに使用できる文字「本節 - パスワードとして使用できる文字」

パスワードは「＊＊＊＊＊」で表示されますので画面で確認できません。
間違えないよう、気をつけて入力してください。
パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作を行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

4 ［確認入力］に手順 3 で入力したパスワードをもう1度入力する

メモ

- ［ユーザーパスワードの登録］画面で［同時にHDDユーザーパスワードに同じ文字列を登録する。］にチェックをしておくと、ここで設定したユーザーパスワードがHDDパスワードとしても登録され、手順 5 で登録の確認画面が表示されます。

参照 HDDパスワード「本節 4 HDDパスワード」

5 ［登録］ボタンをクリックする

パスワードが登録されます。
入力エラーのメッセージが表示された場合は、［OK］ボタンをクリックして画面を閉じ、手順 3 から操作をやり直してください。

パスワードの文字列をファイルとして保存しておくことを推奨するメッセージが表示されます。
このファイルをパスワードファイルと呼びます。パスワードファイルを保管しておけば、パスワードを忘れた場合、本機または本機以外の機器でパスワードを確認することができます。

6 パスワードファイルを作成する場合は［OK］ボタンをクリックする

パスワードファイルを作成しない場合は［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
［OK］ボタンをクリックすると、［名前を付けて保存］画面が表示されます。

7 パスワードファイルを作成する

パスワードファイルの保存先は、フロッピーディスクなどの外部記憶メディアを推奨します。あらかじめ用意しておいてください。

① メディアをセットする
② ［保存する場所］で保存先を選択する
③ ［ファイル名］にファイル名を入力する
④ ［保存］ボタンをクリックする

8 必要に応じて、［パスワードの注釈］を入力する

［パスワードの注釈］にはパスワードのヒントとなる文字列を登録できます。登録すると、パソコンの電源を入れてパスワードの入力が必要なときに、登録した文字列が表示されます。
文字は1行につき最大40文字、最大5行目まで登録できます。この範囲外に入力した文字は登録できません。使用できる文字列はユーザーパスワードと同様です。
パスワード文字列そのものを登録しないでください。

9 ［OK］ボタンをクリックする

お願い

- パスワードファイルを保存した外部記憶メディアは、安全な場所に保管してください。

■トークンの作成

トークンとは、パスワードの代わりに使用することができるSDメモリカードです。トークンは、ユーザーアカウントをコンピューターの管理者に設定しているユーザーのみ作成できます。
トークンを作成するには、フォーマット済みのSDメモリカードが必要です。あらかじめ用意しておいてください。
また、一部のフォーマット形式には対応しておりません。
対応していないSDメモリカードをセットした場合は、警告メッセージが表示されます。その場合は、別のSDメモリカードを使用するか、「東芝SDメモリカードフォーマット」でフォーマットしてください。

参照 SDメモリカードのフォーマット
「2章 9-1 SDメモリカード／SDHCメモリカードを使う前に」

メモ

- トークンは、SDHCメモリカードの対応をしておりません。

トークンの作成は、パスワードを登録済みの場合のみ行えます。あらかじめパスワードを登録しておいてください。

1 「東芝パスワードユーティリティ」を起動する

［東芝パスワードユーティリティ］画面が表示されます。
パスワードで認証を行ってください。

参照 認証について「本節 3 パスワードの入力」

2 ［作成］ボタンをクリックする

3 表示されたメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

[トークンの作成認証] 画面が表示されます。
パスワードで認証を行ってください。

参照 認証について「本節 3 パスワードの入力」

認証は、「東芝パスワードユーティリティ」を起動したときと同じユーザー権限で行ってください。
[ユーザートークンの作成] 画面が表示されます。

4 SDメモリカードをセットする

5 [SDカードのドライブ] でSDメモリカードのドライブを選択する

6 [作成] ボタンをクリックする

トークンが作成されます。

7 表示されたメッセージの内容を確認し、[OK] ボタンをクリックする

お願い

- トークンを作成・使用したあとは、忘れずにSDカードスロットからSDメモリカードを抜き、安全な場所に保管してください。

削除

1 「東芝パスワードユーティリティ」を起動する

[東芝パスワードユーティリティ] 画面が表示されます。
パスワードまたはトークンで認証を行ってください。

参照 認証について「本節 3 パスワードの入力」

2 [削除] ボタンをクリックする

[ユーザーパスワードの削除] 画面が表示されます。

3 [削除] ボタンをクリックする

確認画面が表示されます。

4 [OK] ボタンをクリックする

[ユーザーパスワードの削除認証] 画面が表示されます。
パスワードまたはトークンで認証を行ってください。

参照 認証について「本節 3 パスワードの入力」

認証は、「東芝パスワードユーティリティ」を起動したときと同じユーザー権限で行ってください。

5 **表示されたメッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする**

パスワードが削除されます。

変更

1 **「東芝パスワードユーティリティ」を起動する**

［東芝パスワードユーティリティ］画面が表示されます。
パスワードまたはトークンで認証を行ってください。

参照 認証について「本節 3 パスワードの入力」

2 **［変更］ボタンをクリックする**

［ユーザーパスワードの変更］画面が表示されます。

3 **［入力］に新しいパスワードを入力する**

4 **［確認入力］に手順 3 で入力したパスワードをもう1度入力する**

5 **［変更］ボタンをクリックする**

確認画面が表示されます。

6 **［OK］ボタンをクリックする**

［ユーザーパスワードの変更認証］画面が表示されます。
パスワードまたはトークンで認証を行ってください。
ここでは、まだパスワードは変更されておりませんので、今回手順 3 、4 で入力したものではなく、登録済みのパスワードまたはトークンを使用してください。

参照 認証について「本節 3 パスワードの入力」

認証は、「東芝パスワードユーティリティ」を起動したときと同じユーザー権限で行ってください。

7 **パスワードファイルを作成する場合は［OK］ボタンをクリックする**

パスワードファイルを作成しない場合は［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
パスワードファイルの作成方法は、「本項 1 - 登録」の手順 7 を確認してください。

2 BIOSセットアップでの設定

＊この操作は、「オンラインマニュアル（本書）」を参照しながら実行することはできません。必ず本項目のページを印刷してから実行してください。

BIOSセットアップでの設定は、「PASSWORD」の「User Password」で行います。

登録

1 ESCキーを押しながら電源を入れる

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力してENTERキーを押してください。
「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

2 F1キーを押す

BIOSセットアップが起動します。

3 カーソルバーを「User Password」の「Not Registered」に合わせ、SPACEまたはBACKSPACEキーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

4 パスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。パスワードに使用できる文字は、「東芝パスワードユーティリティ」の場合と同様です。

5 ENTERキーを押す

パスワードが確認され、「New User Password」が「Verify User Password」に変わって表示されます。

6 もう1度パスワードを入力する

確認のため、手順4と同じパスワードをもう1度入力してください。

7 ENTERキーを押す

パスワードが登録され、「User Password」が「Registered」に変わって表示されます。2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。手順4からやり直してください。

■BIOSセットアップの終了方法

BIOSセットアップの終了方法は、次のとおりです。

1 FN＋→キーを押す

本製品では、FN＋→がENDキーの機能を持ちます。
「Are you sure? (Y/N) The changes you made will cause the system to reboot.」と表示されます。

2 Yキーを押す

設定内容が有効になり、BIOSセットアップが終了します。

削除

1 ESCキーを押しながら電源を入れる

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力してENTERキーを押してください。
「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

2 F1キーを押す

BIOSセットアップが起動します。

3 カーソルバーを「User Password」の「Registered」に合わせ、SPACEまたはBACKSPACEキーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

4 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに＊が表示されます。

5 ENTERキーを押す

「User Password」が「New User Password」に変わって表示されます。
手順4で入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、ビープ音が鳴りエラーメッセージが表示されます。手順4からやり直してください。

6 ENTERキーを押す

ここでは何も入力しません。
「New User Password」が「Verify User Password」に変わって表示されます。

7 ENTERキーを押す

ここでは何も入力しません。
パスワードが削除され、「User Password」が「Not Registered」に変わって表示されます。

購入時の設定では、入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう1度設定を行ってください。

BIOSセットアップの終了方法は、「本項 2 - BIOSセットアップの終了方法」を確認してください。

変更

1 ESC キーを押しながら電源を入れる

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して ENTER キーを押してください。
「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

2 F1 キーを押す

BIOSセットアップが起動します。

3 カーソルバーを「User Password」の「Registered」に合わせ、SPACE または BACKSPACE キーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

4 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに＊が表示されます。

5 ENTER キーを押す

「User Password」が「New User Password」に変わって表示されます。

6 新しいパスワードを入力し、ENTER キーを押す

「New User Password」が「Verify User Password」に変わって表示されます。

7 手順 6 で入力したパスワードをもう1度入力し、ENTER キーを押す

パスワードが変更され、「User Password」が「Registered」に変わって表示されます。
手順 6 と手順 7 で入力したパスワードが一致しない場合は、エラーメッセージが表示されます。手順 6 からやり直してください。

BIOSセットアップの終了方法は、「本項 2 - BIOSセットアップの終了方法」を確認してください。

2 スーパーバイザーパスワード

「東芝パスワードユーティリティ」で、Windows上からスーパーバイザーパスワードの設定や設定の変更ができます。
BIOSセットアップでも登録することができます。

メモ

- 先にユーザーパスワードが登録されている場合は、スーパーバイザーパスワードの登録はできません。スーパーバイザーパスワードとユーザーパスワードを両方登録する場合は、1度ユーザーパスワードを削除し、スーパーバイザーパスワードを登録してからもう1度ユーザーパスワードを登録してください。
- スーパーバイザーパスワードとユーザーパスワードでは、違うパスワードを使用してください。
- スーパーバイザーパスワードを登録すると、ユーザーポリシーを設定できます。ユーザーポリシーとは、複数のユーザーでパソコンを使用している場合の、各ユーザーの権限を設定する機能です。

1 「東芝パスワードユーティリティ」での設定

起動方法

1 **[スタート]ボタン（ ）→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[ファイル名を指定して実行]をクリックする**

2 **「C:¥Program Files¥TOSHIBA¥PasswordUtility¥TOSPU.exe」と入力する**

3 **[OK]ボタンをクリックする**

[東芝パスワードユーティリティ]画面が表示されます。
パスワードを登録している場合はパスワードまたはトークンで認証を行ってください。

4 **[スーパーバイザーパスワード]タブをクリックする**

メモ

- F12キーを押しながら電源を入れて起動ドライブを選択したい場合は、「東芝パスワードユーティリティ」の［スーパーバイザーパスワード］タブで［ユーザーポリシー］の［変更］ボタンをクリックし、［ユーザーポリシーの設定］画面の［HWセットアップ／BIOSセットアップの使用を許可する］のチェックをはずさないでください。
  チェックをはずしていると、F12キーを押しながら電源を入れても、起動ドライブの選択ができません。

  参照 F12キーで起動ドライブを変更する方法「2章 1-2 起動するドライブを変更する場合」

- 「東芝パスワードユーティリティ」の［スーパーバイザーパスワード］タブで、［ユーザーポリシーの設定］画面の［ユーザーパスワードの登録／変更を強制する］をチェックすると、次のように設定されます。

  - **ユーザーパスワードが登録されていない場合**
    設定後の1回目の起動時に、「New Password=」と表示されます。
    ユーザーパスワードの登録を行ってください。
  - **ユーザーパスワードが登録されている場合**
    設定後の起動時、「Password=」でユーザーパスワードを初めて入力したときに、「New Password=」と表示されます。
    新しいユーザーパスワードに変更してください。

  「Verify Password=」に「New Password=」で入力したパスワードをもう1度入力すると、ユーザーパスワードが登録／変更されます。

操作方法

■登録、削除、変更

スーパーバイザーパスワードの登録、削除、変更などの設定方法は、「東芝パスワードユーティリティ」でのユーザーパスワードの設定方法と同様です。
ユーザーパスワードの設定を確認してください。

参照 ユーザーパスワード「本節 1-1 東芝パスワードユーティリティでの設定」

なお、スーパーバイザーパスワードを削除すると、ユーザーパスワードも同時に削除されます。

■一般ユーザーの操作を制限する

スーパーバイザーパスワードを登録すると、スーパーバイザーパスワードを知らないユーザーは「東芝HWセットアップ」の設定を変更できないようにする、などいくつかの制限を加えることができます。
スーパーバイザーパスワードを登録した状態で、次の手順を実行してください。

1 スーパーバイザーパスワード設定用の「東芝パスワードユーティリティ」を起動する

［東芝パスワードユーティリティ］画面が表示されます。
パスワードで認証を行ってください。

参照 認証について「本節 3 パスワードの入力」

2 ［スーパーバイザーパスワード］タブで［ユーザーポリシー］の［変更］ボタンをクリックする

［ユーザーポリシーの設定］画面が表示されます。

3 操作を許可する項目をチェックする

4 ［設定］ボタンをクリックする

5 表示されたメッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする

［ユーザーポリシーの設定認証］画面が表示されます。
スーパーバイザーパスワードで認証を行ってください。

参照 認証について「本節 3 パスワードの入力」

6 表示されたメッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする

2 BIOSセットアップでの設定

＊ **この操作は、「オンラインマニュアル（本書）」を参照しながら実行することはできません。必ず本項目のページを印刷してから実行してください。**

BIOSセットアップでも、スーパーバイザーパスワードを登録することができます。

操作方法

■登録

BIOSセットアップの「PASSWORD」の「Supervisor Password」で登録できます。
登録方法は、BIOSセットアップでのユーザーパスワードの登録方法と同様です。
ユーザーパスワードの登録を確認してください。

参照 「本節 1 - 2 - 登録」

■削除、変更

BIOSセットアップで、いったんスーパーバイザーパスワードを登録してしまうと、BIOSセットアップではスーパーバイザーパスワードの削除と変更ができません。
その場合は、「東芝パスワードユーティリティ」でスーパーバイザーパスワードの削除や変更を行ってください。

参照 「本節 1 - 1 東芝パスワードユーティリティでの設定」

また、BIOSセットアップで、いったんスーパーバイザーパスワードを登録してしまうと、次の操作も制限され、設定ができなくなります。

・BIOSセットアップ画面での設定変更
・東芝HWセットアップでの設定変更
・*F12*キーを押しながら電源ボタンを押して、起動ドライブを選択する

その場合は、「東芝パスワードユーティリティ」でスーパーバイザーパスワードの削除をしてから、操作を行ってください。

3 パスワードの入力

パスワードの代わりにトークンを使うこともできます。

電源を入れたとき／休止状態から復帰するとき

パスワードが設定されている場合、パソコンまたはBIOSセットアップ起動時にパスワード入力画面が表示されます。
この場合は、次の手順を行ってパソコンまたはBIOSセットアップを起動します。

■パスワードを入力する

1 設定したとおりにパスワードを入力し、*ENTER*キーを押す

Arrow Mode LED、Numeric Mode LEDは、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。
パスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

■トークンを使う

1 トークンをセットする

あらかじめトークンをセットしておいてから電源を入れると、自動的にパスワードが解除されます。

■指紋認証を使う

1 指紋センサーに指をのせ、手前側にすべらせる

参照 指紋認証「本章 4 指紋認証を使う」

東芝パスワードユーティリティを起動したとき

ユーザーパスワードを登録している場合、「東芝パスワードユーティリティ」を起動すると、認証を求める画面が表示されます。次の方法で認証を行います。
トークンでの認証は、ユーザーアカウントをコンピューターの管理者に設定しているユーザーのみ行うことができます。

■パスワードを入力する

1 **認証を求める画面が表示されたら、パスワードを入力する**

2 **［確認］ボタンをクリックする**

■トークンを使う

1 **認証を求める画面が表示されたら、トークンをセットする**

1 パスワードを忘れてしまった場合

ユーザー／スーパーバイザーパスワードを忘れてしまった場合は、次の方法で確認または解除してください。

- **パスワードファイルを確認する**
  電源を入れるときにパスワードが必要になった場合は、本機以外の機器で確認してください。
- **トークンを使用して登録したパスワードを解除する**

上記の方法でパスワードの確認または解除できなかった場合は、東芝PCあんしんサポートに相談してください。パスワードの解除を東芝PCあんしんサポートに依頼する場合は、有料です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

4 HDDパスワード

＊ **この操作は、「オンラインマニュアル（本書）」を参照しながら実行することはできません。必ず本項目のページを印刷してから実行してください。**

HDDパスワードは、ハードディスクを保護するセキュリティ機能です。
HDDパスワードの登録、削除、変更などの設定は、BIOSセットアップの「HDD PASSWORD」で行います。

1 注意事項

登録したパスワードの内容は、メモをとるなどして、安全な場所に保管しておくことを強くおすすめします。

お願い

- 万が一、登録したパスワードを忘れた場合、修理・保守対応ではパスワードを解除できません。この場合、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、ハードディスクドライブの交換対応となります。この場合、有料での交換となります。
  ハードディスクドライブが使用できなくなったことによる、お客様またはその他の個人や組織に対して生じた、いかなる損失に対しても、当社はいっさい責任を負いません。
  HDDパスワードの設定については、この点を十分にご注意いただいた上でご使用ください。

2 HDDパスワードの種類

HDDパスワードは、ユーザーHDDパスワードとマスターHDDパスワードの2つを設定することが可能です。

■ユーザーHDDパスワード

各パソコンの使用者自身が設定することを想定したパスワードです。
マスターHDDパスワードを削除すると、同時にユーザーHDDパスワードも削除されます。

■マスターHDDパスワード

管理者などがパソコン本体の環境設定を管理／保守するために設定することを想定したパスワードです。
マスターHDDパスワードはユーザーHDDパスワードの代わりに使えます。ユーザーHDDパスワードを忘れた場合でも、マスターHDDパスワードを入力してハードディスクドライブにアクセスできます。マスターHDDパスワードを使用してユーザーHDDパスワードを変更することもできます。
なお、マスターHDDパスワードのみを登録することはできません。

組織などでマスターHDDパスワードを用いた運用を検討した場合、各パソコンのユーザーに対してパソコン本体を配布する前に、あらかじめ管理者がBIOSセットアップでマスターHDDパスワードと仮のユーザーHDDパスワードを設定しておく必要があります。

ユーザーHDDパスワードとマスターHDDパスワードの登録、削除方法は同じです。以降は、ユーザーHDDパスワードの設定を例に説明しています。

3 HDDパスワードの登録

マスターHDDパスワード（Master Password）の項目は、BIOSセットアップの「HDD Password Mode」が「Master+User」の場合のみ表示されます。
マスターHDDパスワードを設定し、続けてユーザーHDDパスワードの設定を行います。

1 ESC キーを押しながら電源を入れる

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して ENTER キーを押してください。
「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

2 F1 キーを押す

BIOSセットアップが起動します。

3 カーソルバーを「User Password」の「Not Registered」に合わせ、SPACE または BACKSPACE キーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

4 パスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力します。パスワードに使用できる文字は、ユーザーパスワードの場合と同様です。

参照 ユーザーパスワードに使用できる文字「本節- パスワードとして使用できる文字」

パスワードは1文字ごとに＊が表示されますので、画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

5 ENTER キーを押す

パスワードが確認され、「New User Password」が「Verify User Password」に変わって表示されます。

6 パスワードを入力する

確認のため、手順 4 と同じパスワードをもう1度入力してください。

7 ENTER キーを押す

パスワードが登録されます。2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、エラーメッセージが表示されます。手順 4 からやり直してください。

BIOSセットアップの終了方法は、「本節 1 - 2 - BIOSセットアップの終了方法」を確認してください。

メモ

- 「東芝パスワードユーティリティ」でユーザーパスワードを設定している場合、同じパスワードを使えばHDDパスワードを設定することができます。

4 HDDパスワードの削除

1 ESC キーを押しながら電源を入れる

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して ENTER キーを押してください。
「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

2 F1 キーを押す

BIOSセットアップが起動します。

3 カーソルバーを「User Password」の「Registered」に合わせ、SPACE または BACKSPACE キーを押す

パスワードが入力できる状態になります。

4 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに＊が表示されます。

5 ENTER キーを押す

「User Password」が「New User Password」に変わって表示されます。
手順 4 で入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、ビープ音が鳴りエラーメッセージが表示されます。手順 4 からやり直してください。

6 ENTER キーを押す

ここでは何も入力しません。
「New User Password」が「Verify User Password」に変わって表示されます。

7 ENTER キーを押す

ここでは何も入力しません。
パスワードが削除されます。

BIOSセットアップの「HDD Password Mode」で「Master+User」を選択した場合は、マスターHDDパスワードの削除を行うと、同時にユーザーHDDパスワードも削除されます。
ユーザーHDDパスワードのみを削除することはできません。
BIOSセットアップの終了方法は、「本節 1 - 2 - BIOSセットアップの終了方法」を確認してください。

5 HDDパスワードの変更

1 ESC キーを押しながら電源を入れる

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながすメッセージが表示されます。パスワードを入力して ENTER キーを押してください。
「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

2 **F1 キーを押す**

BIOSセットアップが起動します。

3 **カーソルバーを「User Password」の「Registered」に合わせ、SPACE または BACKSPACE キーを押す**

パスワードが入力できる状態になります。

4 **登録してあるパスワードを入力する**

ユーザーHDDパスワードを入力してください。またはユーザーHDDパスワードの代わりに、マスターHDDパスワードを入力することもできます。この場合、マスターHDDパスワードを使ってユーザーHDDパスワードを変更することができます。
入力すると1文字ごとに＊が表示されます。

5 **ENTER キーを押す**

「User Password」が「New User Password」に変わって表示されます。
手順 4 で入力したパスワードが正しくない場合は、エラーメッセージが表示されます。手順 4 からやり直してください。

6 **新しいパスワードを入力し、ENTER キーを押す**

「New User Password」が「Verify User Password」に変わって表示されます。

7 **手順 6 で入力したパスワードをもう1度入力し、ENTER キーを押す**

パスワードが変更されます。
手順 6 と手順 7 で入力したパスワードが一致しない場合は、エラーメッセージが表示されます。手順 6 からやり直してください。

BIOSセットアップの終了方法は、「本節 1 - 2 - BIOSセットアップの終了方法」を確認してください。

6 HDDパスワードの入力

HDDパスワードが設定されている場合、電源を入れると「HDD Password =」と表示されます。
この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

1 **設定したとおりにHDDパスワードを入力し、ENTER キーを押す**

Arrow Mode LED、Numeric Mode LEDは、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。
HDDパスワードの入力ミスを3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

4 指紋認証を使う

本製品には「指紋センサー」と「指紋認証ユーティリティ（東芝フィンガープリントユーティリティ）」が用意されています。ここでは、指紋を登録し、指紋認証を行う方法について説明します。

1 指紋認証とは

指紋認証とは、手の指紋の情報をパソコンに登録することにより、パスワードなどの入力に代えて本人であることを証明する機能です。キーボードからパスワードを入力する代わりに、登録した指を指紋センサー上にすべらせるだけで、次のことが実行できます。

- Windows ログオン
- インターネットのホームページで、パスワードの入力
- スクリーンセーバーの解除
- パソコン本体起動時のユーザーパスワードまたはHDDパスワードの入力
- スリープからの復帰
- ファイルやフォルダーの暗号化

詳しくは「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。
ヘルプの起動方法は、本節の最後で説明しています。

お願い 指紋認証の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 16 指紋認証について」を確認してください。

2 Windowsログオンパスワードを設定する

「指紋認証ユーティリティ」の設定や登録をするためには、「Windows ログオンパスワード」を設定する必要があります。
Windowsログオンパスワードを設定していない場合は、［コントロールパネル］の［ ユーザー アカウントと家族のための安全設定］で設定することができます。

参照 Windowsログオンパスワードの設定方法『Windowsヘルプとサポート』

すでにWindowsログオンパスワードを設定してある場合は、「本節 3 指紋を登録する」に進んでください。

3 指紋を登録する

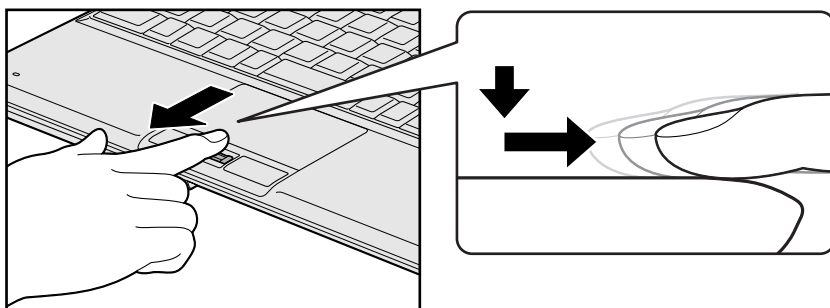
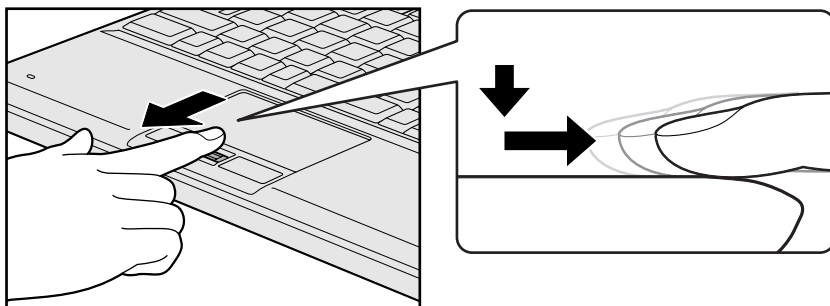
「指紋認証ユーティリティ」で、指紋を登録します。次の手順を実行してください。指をけがしたときなどのために、2本以上の指を登録してください。
指紋センサーには、最大20パターンの指紋を登録することができます。複数のユーザーでパソコンを使用している場合は、全ユーザー合わせて20パターンまで登録できます。たとえば、1人で10パターンの指紋を登録した場合、ほかのユーザーが登録できるのは残り10パターンです。

指紋センサーに指紋をうまく読み取らせるには

1 指紋センサーに対して指をまっすぐ出し、指を寝かせた状態で、第1関節を軽く指紋センサー中央の上におく

2 第1関節から先端にかけて、指のはら部分が指紋センサーに触れるように手前に水平に引く

指先だけ指紋センサーにのせると、指紋が認識されない場合があります。第1関節から先端にかけて指のはらの部分が指紋センサーに触れるように、ゆっくりとすべらせてください。

■RX2シリーズ、RX2Lシリーズの場合

■N12シリーズの場合

1 操作方法

「指紋認証ユーティリティ」でユーザー登録を行います。ユーザー登録では、Windowsのユーザーアカウントとそのログオンパスワードを登録したあと、そのユーザーアカウントでログオンし、認証で使用する指（指紋）を登録します。

1 指紋を登録するユーザーアカウントでログオンする

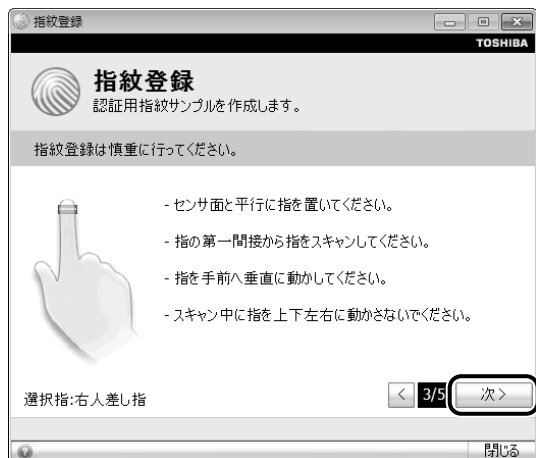
2 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［TOSHIBA Fingerprint Utility］をクリックする

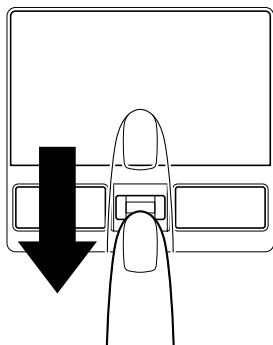
［指紋登録］画面が表示されます。

3 ［Windowsパスワード］にWindowsログオンパスワードを入力し①、［次］ボタンをクリックする②

4 指紋を登録する指の上の○印をクリックし①、［次］ボタンをクリックする②

体勢によっては親指での認証は難しいので、親指以外の指を登録することおすすめします。

5 画面に表示される説明をよく見て、［次］ボタンをクリックする

6 指紋登録の練習のために、指紋センサーに指を軽く乗せ、手前側にすべらせる

第1関節を指紋センサーの上に置き、手前に引くようにすべらせてください。
このとき、タッチパッドに触れないように気をつけてください。

同じ指を3回認識させてください。指紋センサーに指をすべらせると、画面の3つのボックスに、1回ごとの指紋データの読み取り結果が表示されます。
読み取りに成功すると、ボックスの下に「良いイメージ」と表示されます。

3回成功するまで繰り返し認識させてください。

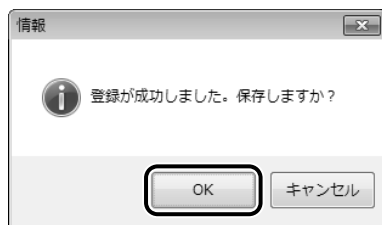
＊［スキップ］ボタンをクリックすると、指紋登録の練習をスキップすることができます。

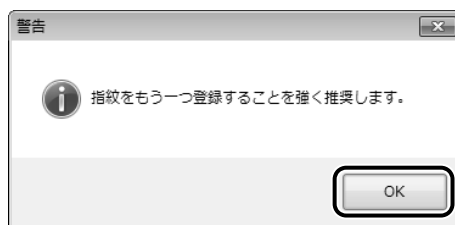
7 3回成功したら、［次］ボタンをクリックする

8 指紋登録のために、指紋センサーに指を軽く乗せ、手前側にすべらせる

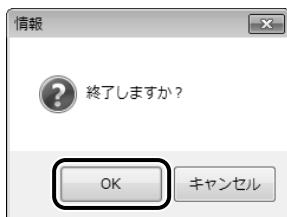
手順 6 で練習した要領で、第1関節を指紋センサーの上に置き、手前に引くようにすべらせてください。
ここで指紋をできるだけ精細に読み取らせることで、認証率を向上させることができます。
同じ指を3回読み取らせます。読み取りに成功すると、ボックスの下に「良いイメージ」と表示されます。

3回成功するまで繰り返し認識させてください。
3回とも指紋の読み取りに成功すると、メッセージが表示されます。
＊9回以上失敗すると、手順 4 に戻ります。

9 指紋データを保存するために［OK］ボタンをクリックする

10 メッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックする

指をけがしたときなどのために、1ユーザーあたり、2本以上の指紋登録をおすすめします。

11 違う指で手順 4 → 5 → 6 → 7 → 8 → 9 を繰り返す

12 指紋登録を終了する場合は、［閉じる］ボタンをクリックする

13 メッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックする

14 ［閉じる］ボタンをクリックする

15 メッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックする

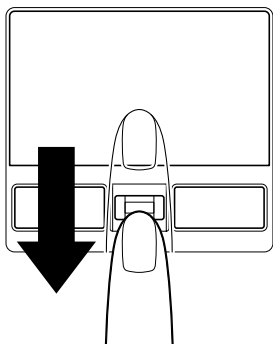
4 指紋認証を行う

指紋を登録すると、指紋センサーに指をすべらせることで、Windowsへログオンできます。
また、パソコンを複数のユーザーで使用している場合、ユーザーの選択も省略できます。

1 操作方法

1 パソコンに電源を入れる

Windowsにログオンする画面が表示されます。

2 指紋登録した指の第1関節を指紋センサーの上にのせ、手前側にすべらせる

指紋が認証されるとWindowsにログオンします。

指紋認証がうまくいかなかった場合は、指紋認証画面が表示されます。
キーボードからパスワードを入力したい場合は、指紋認証画面の［閉じる］ボタン（ ）をクリックしてください。

2 その他の使いかた

パソコンの起動や復帰時に指紋で認証させる

■パソコンの起動時（起動認証）

パソコンの起動時に、ユーザーパスワードやHDDパスワードの代わりに、指紋認証を使用することもできます。

①ユーザーパスワードやHDDパスワードを登録する

参照 ユーザーパスワード、HDDパスワードの登録方法「本章 3 パスワードセキュリティ」

②「指紋認証ユーティリティ」の［設定］で設定する
［設定］メニューが無効な場合は、［管理者として実行］ボタンをクリックして管理者権限に昇格してください。

参照 設定の詳細「指紋認証ユーティリティ」のヘルプ

ユーザーパスワードやHDDパスワードの指紋認証に続けて5回失敗すると、指紋認証ができなくなります。その場合は、キーボードからパスワードを入力してパソコンを起動してください。
また指紋認証画面が表示されているときに、キーボードからパスワード入力をしたい場合は BACKSPACE キーを押してください。キーボードからのパスワード入力が可能になります。

お願い　指紋認証のパスワード入力について

- あらかじめ、「付録 1 - 16 - 指紋認証のパスワード入力について」を確認してください。

■スクリーンセーバーの解除

次のように設定します。

①［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］→［ デスクトップのカスタマイズ］をクリックする
②［スクリーンセーバーの変更］をクリックする
③［再開時にログオン画面に戻る］をチェックする
④［OK］ボタンをクリックする

■スリープからの復帰

次のように設定します。

①［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］→［ システムとセキュリティ］→［ 電源オプション］をクリックする
②［電源プランの選択］で選択されているプランの［プラン設定の変更］をクリックする
③［詳細な電源設定の変更］をクリックする
④［バランス］の［復帰時のパスワードを必要とする］で、［バッテリ駆動］および［電源に接続］を［はい］に設定する
⑤［OK］ボタンをクリックする

指紋データのバックアップをとる

登録してある指紋データをバックアップすることができます。バックアップしておくと、リカバリーしたときなどに指紋を再登録しなくてもすみます。また、別のパソコンで指紋認証を使用したいときに、指紋データを登録しなくてもすみます。

参照 設定の詳細「指紋認証ユーティリティ」のヘルプ

パソコンを捨てるまたは人に譲る場合

パソコンを捨てたり人に譲ったりする前に、登録した指紋データを消去することをおすすめします。
指紋の消去は、「指紋認証ユーティリティ」の［指紋情報管理］で行ってください。

ヘルプの起動方法

1. ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［TOSHIBA Fingerprint Utility］をクリックする

2. をクリックする

5 TPMを使う

本製品には、TPM（Trusted Platform Module）が用意されています。

1 TPMとは

TPMは、TCG（Trusted Computing Group）が策定した仕様に準拠したセキュリティコントローラーチップです。
一般的に、電子データの保護は暗号処理方式（暗号アルゴリズム）によるものなので、ハードディスクやメモリなどに保存されている暗号鍵が、暗号解読の攻撃対象になる可能性があります。
TPMではこれらの暗号鍵を、メイン基板に組み込まれたセキュリティチップに保存するので、より安全にデータが保護されます。
また、TPMは公開されている標準化された仕様のため、それに対応したセキュリティソリューションを使用することにより、より強固なPC環境を構築できます。
本製品では、TPMの設定は、BIOSセットアップと「Infineon TPM Software Professional Package」で行います。
詳しくは、『Trusted Platform Module 取扱説明書』（PDFマニュアル）とヘルプを参照してください。

お願い TPMの操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1-17 TPMについて」を確認してください。

2 TPMを有効にする方法

TPMを使用するには、まずBIOSセットアップでTPMを有効に設定する必要があります。
TPMを有効にする方法は、「本章 2-2-15 SECURITY CONTROLLER」を参照してください。

メモ

- BIOSセットアップでのTPMに関する設定を、管理者の権限を持たないユーザーが変更できないようにすることができます。TPMの設定を守るために、管理者の権限を持たないユーザーに操作制限を加えることをおすすめします。

参照 管理者以外のユーザーの制限について
『Trusted Platform Module 取扱説明書 6 東芝パスワードユーティリティ』

3 TPMのインストール方法

TPMを有効にしたあと、「Infineon TPM Software Professional Package」をインストールします。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする

2 ［セットアップ画面へ］をクリックする

3 ［アプリケーション］タブをクリックする

4 画面左側の［Infineon TPM Software Professional Package］をクリックし、［「Infineon TPM Software Professional Package」のセットアップ］をクリックする

5 画面の指示に従ってインストールする

［ファイルのダウンロード］画面が表示された場合は、［実行］ボタンをクリックしてください。
TPMを使用するための設定や使用方法は、PDFマニュアルとヘルプを参照してください。

4 PDFマニュアルのインストール方法

『Trusted Platform Module 取扱説明書』（PDFマニュアル）のインストール方法は、次のとおりです。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする

2 画面のメッセージに従ってインストールする

［アプリケーション］タブの［Infineon TPM Software Professional Package］に用意されています。

5 PDFマニュアルの起動方法

『Trusted Platform Module 取扱説明書』（PDFマニュアル）の起動方法は、次のとおりです。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［Trusted Platform Module 取扱説明書］をクリックする

6 ヘルプの起動方法

1 通知領域の［Security Platform］アイコン（ ）を右クリックし、表示されるメニューから［ヘルプ］をクリックする

＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。

8章

パソコンの動作がおかしいときは

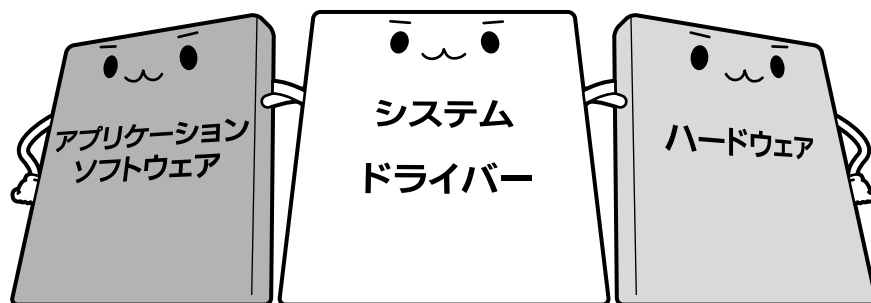
パソコンの操作をしていて困ったときに、どうしたら良いかを説明しています。
「dynabook.com」で情報を調べる方法なども紹介しています。
トラブルが起こったときは、あわてずに、この章を読んで、解消方法を探してみてください。

1 トラブルを解消するまでの流れ

お使いのパソコンに起こったトラブルについて、解決方法を見つけていきましょう。

1 トラブルの原因をつき止めよう

パソコンに起こるトラブルは、その原因がどこにあるかによって解決策が異なります。
そのために、パソコンの構造をある程度知っておくことが必要です。
ここでは、パソコンの構成と、それぞれの構成部分で起こるトラブルの例、その解決方法を紹介します。

■パソコンを構成する3つの部分

● **アプリケーションソフトウェアとは**
メールやインターネットは、アプリケーションソフトウェアの機能です。Word(ワード)(文書作成ソフト)やExcel(エクセル)(表計算ソフト)、ウイルスチェックソフトもアプリケーションソフトウェアの代表的なものです。それぞれ製造元が異なります。

● **システム、ドライバーとは**
システムは、オペレーティングシステム、OS(オーエス)ともいい、パソコンを動かすための基本的な働きをします。本製品のシステムはWindows 7です。
ドライバーは、周辺機器とシステムを連携する役割をします。ドライバーがないと、周辺機器は使用できません。代表的なドライバーに、ディスプレイドライバーやサウンドドライバー、マウスドライバーなどがあります。基本的なドライバーはシステムが標準装備していますが、周辺機器製品に専用のドライバーが付属している場合もあります。

● **ハードウェアとは**
バッテリーやACアダプターはもちろん、画面(ディスプレイ)、キーボード、バッテリー、ハードディスク、CPUなど、パソコン本体を指します。

パソコンはこれらの高度な技術の集合体です。トラブルの原因がそれぞれの製造元にしかわからない場合も多くあります。トラブルの症状に合わせた対処をすることが解決への早道です。
トラブルの解決には、最初に原因の切り分けを行います。一般的にはアプリケーションソフトウェア→システム(OS)、ドライバー→パソコン本体の順にチェックします。

2 トラブル対処法

トラブルが発生したときの解決手順を紹介します。

STEP1 Q&Aを読む

本書では、トラブルの解決方法をQ&A形式で説明しています。
また、『セットアップガイド』などにもQ&Aが記載されているので、あわせて読んでください。

STEP2 付属のマニュアルを読む

本製品には目的別に複数のマニュアルがあります。
本書以外のマニュアルも読んでください。

STEP3 サポートのサイトで調べる

「dynabook.com」へ接続し、各種サポート情報から解決方法を探します。
東芝パソコン全体の「よくある質問（FAQ)」や、デバイスドライバーや修正モジュールのダウンロード、ウイルス・セキュリティ情報などをご覧になれます。
URL：http://dynabook.com/assistpc/index_j.htm

それでもトラブルが解消しない場合は、お問い合わせください。
本製品に用意されているアプリケーションのお問い合わせ先は『取扱説明書 付録 2 お問い合わせ先』で確認してください。

2 Q&A集

ここに掲載しているQ&A集のほかに、『セットアップガイド』にもQ&A集があります。
目的の項目が見つからないときは、『セットアップガイド』も参照してください。

1 画面／表示

Q しばらく放置したら、画面が真っ暗になった

A 表示自動停止機能が働いた可能性があります。

画面には何も表示されませんが実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。

SHIFT キーや CTRL キーを押す、またはタッチパッドを操作すると表示が復帰します。

外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに10秒前後かかることがあります。

A 表示装置が適切に設定されていない可能性があります。

FN ＋ F5 キーを3秒以上押し続けてください。表示装置が本体液晶ディスプレイに切り替わります。

参照 詳細について「4章 4-2-2 方法2－FN＋F5キーを使う」

Q 外部ディスプレイを接続した状態で、パソコンをスリープや休止状態から復帰したとき、本体液晶ディスプレイに何も表示されない

A 外部ディスプレイに、画面表示が切り替わっている可能性があります。

外部ディスプレイの電源を入れて確認してください。パソコン画面が表示されていた場合は、本体液晶ディスプレイに表示を切り替えてください。

参照 詳細について「4章 4-2 表示を切り替える」

Q 外部ディスプレイを取りはずしたときに、画面が表示されなくなった

A 外部ディスプレイを接続してください。

外部ディスプレイをプライマリデバイスに指定してデュアルビュー（拡張）表示の設定をした場合に、スリープや休止状態のときに外部ディスプレイを取りはずすと、スリープや休止状態から復帰したときに画面が表示されないことがあります。

外部ディスプレイの取りはずしは、スリープや休止状態のときに行わないでください。

Q 画面が薄暗く、よく見えない

A FN＋F7キーを押して、本体液晶ディスプレイ（画面）の輝度を明るくしてください[*1]

FN＋F6キーを押すと、逆に、本体液晶ディスプレイの輝度は暗くなります。
FNキーで本体液晶ディスプレイの輝度を変更した場合、パソコンの電源を切ったり再起動したりすると設定はもとに戻ります。

A 本体液晶ディスプレイの輝度が低く設定されている可能性があります。

［電源オプション］には、本体液晶ディスプレイの輝度を落として消費電力を節約する機能があります。この機能で画面の明るさレベルを下げると、画面が暗くなります。
詳細は、［電源オプション］のヘルプを参照してください。
次の手順で設定を変更してください。[*1]

① ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする
② ［ システムとセキュリティ］→［ 電源オプション］をクリックする
③ 利用するプランを選択し、［プラン設定の変更］をクリックする
④ ［プランの明るさを調整］を設定する
　［バッテリ駆動］と［電源に接続］をそれぞれ設定してください。
⑤ ［変更の保存］ボタンをクリックする

＊1 この設定は、外部ディスプレイには反映されません。

A ディスプレイのバックライトがOFFになっている可能性があります。
＊RX2シリーズのみ

バックライトON/OFFボタンを押して、バックライトをONにしてください。

2 キーボード

Q ポインターが輪の形をしている間にキーを押しても反応がない

A システムが処理中の可能性があります。

ポインターが輪の形（ ）をしている間は、システムが処理をしている状態のため、キーボードやタッチパッドなどの操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

Q キーボードから文字を入力しているときにカーソルがとんでしまう

A 文字を入力しているときに誤ってタッチパッドに触れると、カーソルがとんだり、アクティブウィンドウが切り替わってしまうことがあります。

次の手順でタッチパッドを無効に切り替えてください。

① FN＋F9キーを押す
　［タッチパッド］のカードが表示されます。
② FNキーを押したままF9キーを押し直し、［無効］アイコンが大きい状態で指をはなす

Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった

A 飲み物など液体がこぼれて内部に入ると、感電、本体の故障、作成データの消失などのおそれがあります。

もし、液体がパソコン内部に入ったときは、ただちに電源を切り、ACアダプターとバッテリーパックを取りはずして、東芝PCあんしんサポートにご相談ください。

3 タッチパッド／マウス

＊マウスは、別売りです。

Q クリックしても反応がない

A システムが処理中の可能性があります。

ポインターが輪の形（◎）をしている間は、システムが処理をしている状態のため、タッチパッド、マウス、キーボードなどの操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

A マウスが正しく接続されていない可能性があります。

マウスとパソコン本体が正しく接続されていないと、マウスの操作はできません。マウスのプラグを正しく接続してください。

A タッチパッドのみ操作を受け付けない場合、タッチパッドが無効に設定されている可能性があります。

次の手順でタッチパッドを有効に切り替えてください。

① FN＋F9キーを押す
　［タッチパッド］のカードが表示されます。
② FNキーを押したままF9キーを押し直し、［有効］アイコンが大きい状態で指をはなす

Q ダブルクリックがうまくいかないので、速度を変更したい

A 次の手順で、ダブルクリックの速度を調節してください。

① [スタート] ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

② [ハードウェアとサウンド] →［マウス］をクリックする
［マウスのプロパティ］画面が表示されます。

③ [ボタン] タブで［ダブルクリックの速度］のスライダーバーを左右にドラッグする

④ [OK] ボタンをクリックする

Q ポインターの速度を調節したい

A 次の手順でポインターの速度を変更してください。

① [スタート] ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

② [ハードウェアとサウンド] →［マウス］をクリックする
［マウスのプロパティ］画面が表示されます。

③ [ポインター オプション] タブで［速度］のスライダーバーを左右にドラッグする

④ [OK] ボタンをクリックする

Q レーザーマウスの反応がおかしい

A 光の反射が正しく認識されていない可能性があります。

反射しにくい素材の上で使うと正しくセンサーが働かず、ポインターがうまく動きません。次のような場所では動作が不安定になる場合があります。

- 光沢のある表面（ガラス、鏡など）

A 平らな場所でマウスを操作しているか確認してください。

マウスは、平らな場所で操作してください。マウスの下にゴミなどがある場合は取り除いてください。

Q　光学式マウスの反応がおかしい

A▶ 光の反射が正しく認識されていない可能性があります。

反射しにくい素材の上で使うと正しくセンサーが働かず、ポインターがうまく動きません。次のような場所では動作が不安定になる場合があります。

- 光沢のある表面（ガラス、研磨した金属、ラミネート、光沢紙、プラスチックなど）
- 画像パターンの変化が非常に少ない表面（人工大理石、新品のオフィスデスクなど）
- 画像パターンの方向性が強い表面（正目の木材、立体映像の入ったマウスパッドなど）

明るめの色のマウスパッドや紙など、光の反射を認識しやすい素材を使ったものの上で使用してください。

光学式マウスに対応したマウスパッドの使用を推奨します。

光学式マウスに対応していないものやマウスパッドの模様によっては、正常に動作しない場合があります。

A▶ 平らな場所でマウスを操作しているか確認してください。

マウスは、平らな場所で操作してください。マウスの下にゴミなどがある場合は取り除いてください。

4 指紋認証

Q　指紋の読み取りがうまくいかない

A▶ もう一度正しい姿勢で操作してください。

詳しい操作方法は、「7章 4 指紋認証を使う」または「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。

A▶ 登録してあるもう1本の指で読み取りを行ってください。

A▶ どうしてもうまくいかない場合は、一時的にキーボードからパスワードを入力してください。

詳しい操作方法は、「7章 4 指紋認証を使う」または「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。

Q　指にけがをしたため指紋の読み取りができなくなった

A▶ 登録してあるもう1本の指で読み取りを行ってください。

A▶ 登録したすべての指の指紋が読み取れない場合は、一時的にキーボードからパスワードを入力してください。

詳しい操作方法は、「7章 4 指紋認証を使う」または「指紋認証ユーティリティ」のヘルプを参照してください。

Q 認識率が下がったら

A 指紋センサーの表面がよごれていないか確認してください。

よごれている場合には、眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布で軽くふき取ってからもう一度指紋認証を行ってください。

参照 詳細について「7章 4 指紋認証を使う」

A 指の状態を確認してください。

指に傷があったり、手荒れ、極端に乾燥した状態、ふやけた状態など、指紋登録時と状態が異なると認識できない場合があります。認識率が改善されない場合は、ほかの指で登録してください。

参照 詳細について「7章 4 指紋認証を使う」

A 指の置きかたを確認してください。

指を指紋センサーと平行になるように置き、指紋センサーに指の中央を合わせてください。指紋センサーの上に第1関節がくるように置き、すべらせるときはゆっくりと一定の速さですべらせてください。それでも認証できない場合は、指をすべらせる速さを調整してください。

参照 詳細について「7章 4 指紋認証を使う」

5 その他

Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい

A 次の操作を行ってください。

- テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変える
- テレビ、ラジオに対するパソコン本体の方向を変える
- パソコン本体をテレビ、ラジオから離す
- テレビ、ラジオのコンセントとは別のコンセントを使う
- コンセントと機器の電源プラグとの間に市販のフィルターを入れる
- 受信機に屋外アンテナを使う
- 平行フィーダーを同軸ケーブルに替える

付録

本製品の機能を使用するにあたってのお願いや技術基準適合などについて記しています。

1 ご使用にあたってのお願い

本書で説明している機能をご使用にあたって、知っておいていただきたいことや守っていただきたいことがあります。次のお願い事項を、本書の各機能の説明とあわせて必ずお読みください。

1 「PC引越ナビ」について

前のパソコンの動作環境について

- すべてのパソコンでの動作確認は行っておりません。したがって、すべてのパソコンでの動作は保証できません。

操作にあたって

- 「1章 1-3 起動方法」を参照して、注意制限事項を確認してください。
- こん包プログラムが作成するこん包ファイルを分割される場合、分割されるこん包ファイルの大きさは、最大2GBとなります。
- 「PC引越ナビ」がこん包ファイルで同時に移行できるファイル数は、最大65,000ファイルです。
- こん包プログラムからこん包ファイルを作成するには、作成される予定のこん包ファイルの大きさの約2.3倍の空き容量が、保存先の装置に必要です。

2 パソコン本体について

タッチパッドの操作にあたって

- タッチパッドを強く押さえたり、ボールペンなどの先の鋭いものを使わないでください。タッチパッドが故障するおそれがあります。

3 ハードディスクドライブについて

操作にあたって

- Disk LEDが点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万が一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にフロッピーディスクやCD／DVDなどに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、フロッピーディスク、CD／DVDなどに保存した内容の損害については、当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 磁石、スピーカー、テレビ、磁気ブレスレットなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

東芝HDDプロテクションの使用にあたって

- 東芝HDDプロテクションは、振動・衝撃およびその前兆を検出するとHDDのヘッドを退避させ、ヘッドとメディアの接触によってHDDが損傷する危険性を軽減するものです。ただしその効果を保証するものではありません。故障などの際は当社保証規定に従って修理いたします。また、故障などによりHDDの記憶内容が変化・消失する場合がありますが、これによる損害、および本製品の使用不能から生じた損害については当社はその責任をいっさい負いません。大切なデータは必ずお客様の責任のもと普段からこまめにバックアップされるようお願いします。

4 CDやDVDについて

ドライブの電源について

- ドライブを使用するときは、ドライブの電源を切らないでください。

参照 ドライブの電源「5章 2-2 ドライブの電源を切ってバッテリーを節約する」

CD／DVDの操作にあたって

- ディスクトレイ内のレンズおよびその周辺に触れないでください。ドライブの故障の原因になります。
- ディスクトレイLEDが点灯しているときは、イジェクトボタンを押したり、CD／DVDを取り出す操作をしないでください。CD／DVDが傷ついたり、ドライブが壊れるおそれがあります。
- 電源が入っているときには、イジェクトホールを押さないでください。回転中のCD／DVDのデータやドライブが壊れるおそれがあります。

参照 イジェクトホールについて「2章 6-3- CD／DVDが出てこない場合」

- ドライブのトレイを開けたときに、CD／DVDが回転している場合には、停止するまでCD／DVDに手を触れないでください。けがのおそれがあります。
- パソコン本体を持ち運ぶときは、ドライブにCD／DVDが入っていないことを確認してください。入っている場合は取り出してください。
- CD／DVDをディスクトレイにセットするときは、無理な力をかけないでください。
- CD／DVDを正しくディスクトレイにセットしないとCD／DVDを傷つけることがあります。

DVD-RAMのフォーマットについて

- フォーマットを行うと、そのDVD-RAMに保存されている情報はすべて消去されます。一度使用したDVD-RAMをフォーマットする場合は注意してください。

5 FeliCaポートについて

FeliCaポートの操作にあたって

- FeliCaポートの位置を示すマークは、FeliCa対応カードやFeliCa対応携帯電話をかざす際の指示となるものです。誤ってはがさないようご注意ください。
- すべてのFeliCa対応カードやFeliCa対応携帯電話について、本製品のFeliCaポート上での動作確認を行っていません。
  したがって、すべてのFeliCa対応カードやFeliCa対応携帯電話をFeliCaポートにかざしたときの動作は保証できません。
- 本製品のFeliCaポートは、電波法に基づく型式指定を受けた誘導式読み書き通信設備です。
- FeliCaポートにFeliCa対応カードなどを強くたたきつけたり、落としたりすると故障の原因になります。
- FeliCaポートが正常に動作しない場合は、不具合があるか確認してください。
  ①ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにする
  参照 「2章 10-1 FeliCa対応カードをかざす」
  ②「かざしてナビ」のポーリングをオフにする
  参照 「本項 - 5 - ポーリングについて」
  ③［スタート］ボタン→［すべてのプログラム］→［FeliCaポート］→［FeliCaポート自己診断］をクリックする
  表示される画面に従って、確認してください。

ポーリングについて

FeliCaポート上にFeliCa対応カードがかざされているかどうか、FeliCaポートがチェックする動作をポーリングといいます。

通知領域の［かざしてナビ］アイコン（ ）の上にポインターを置くと、ポーリングが行われているときは「開始」、行われていないときは「停止」または「切断中」と表示されます。
「かざしてナビ」のポーリングの状態は、次の手順で変更できます。

①通知領域の［かざしてナビ］アイコンを右クリックする

＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をクリックしてください。

②表示されたメニューから［ポーリングの状態］→［オン］または［オフ］をクリックする
［オフ］をクリックすると、ポーリングを停止します。
ポーリングが行われていないと、FeliCa対応カードをかざしても、「かざしてナビ」は起動しません。

ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフにすると、ポーリングはいっさい行われなくなります。FeliCaポートを使用するときは、スイッチをオンにしてください。

暗証番号・パスワードについて

FeliCa対応カードおよびFeliCa対応携帯電話で提供されている電子マネーなどのサービスは、現金やクレジットカードなどと同等の価値があります。カードの暗証番号や各サービスを受ける際のパスワードについては、他人に知られないように取り扱いに注意してください。
暗証番号やパスワードの漏えいによってサービスの不正利用が行われた場合の損害について、当社はいっさいの責任を負いません。

6 有線LANについて

LANケーブルの使用にあたって

- LANケーブルは市販のものを使用してください。
- LANケーブルをパソコン本体のLANコネクタに接続した状態で、LANケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。LANコネクタが破損するおそれがあります。
- LANインターフェースを使用するとき、Gigabit Ethernet（1000BASE-T）は、エンハンストカテゴリ（CAT5E）以上のケーブルを使用してください。
  Fast Ethernet（100BASE-TX）は、カテゴリ5（CAT5）以上のケーブルを使用してください。
  Ethernet（10BASE-T）は、カテゴリ3（CAT3）以上のケーブルが使用できます。
- ポートリプリケーターを接続しているときは、パソコン本体のLANコネクタを使用しないでください。

7 無線LANについて

無線LANを使用するにあたって

- 無線LANの無線アンテナは、できるかぎり障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信の範囲を最大限有効にするには、ディスプレイを開き、本や分厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。
  また、パソコンとの間を金属板で遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属性のケースなどで覆わないようにしてください。
- 無線LANは無線製品です。各国／地域で適用される無線規制については、「付録 6 無線LANについて」を確認してください。
- 本製品の無線LANを使用できる地域については、「付録 6-7 使用できる国／地域について」を確認してください。

無線LANの操作にあたって

- Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。
- アドホックネットワーク機能で、設定されているネットワーク名へのネットワーク接続が不可能になる場合があります。
  この場合、再度ネットワーク接続を可能にするには、同じネットワーク名で接続されていたコンピューターすべてに対して、新たに別のネットワーク名で設定を行う必要があります。

8 内蔵モデムについて

内蔵モデムの操作にあたって

- モジュラーケーブルは市販のものを使用してください。
- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプターを使用してほかの機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信やほかの機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。

9 Bluetoothについて

- 本製品は、すべてのBluetooth対応機器との接続動作を確認したものではありません。また、すべてのBluetooth対応機器との動作を保証することはできません。
- 本製品のBluetooth機能を使用できる国／地域については、「付録 7-6 使用できる国／地域について」を確認してください。

10 周辺機器について

周辺機器の取り付け／取りはずしについて

- 取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。4章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。
  - ・ホットインサーションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから作業を行ってください。ホットインサーションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
  - ・適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
  - ・ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
  - ・極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
  - ・静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
  - ・本書および『取扱説明書』で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
  - ・作業時に使用するドライバーは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
  - ・本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
  - ・パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向を合わせてください。
  - ・パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

USB対応機器の操作にあたって

- 電源供給を必要とするUSB対応機器を接続する場合は、USB対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB対応機器を使用するには、システム（OS）が対応しており、機器用ドライバーがインストールされている必要があります。
- すべてのUSB対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべてのUSB対応機器の動作は保証できません。
- USB対応機器を接続したままスリープまたは休止状態にすると、復帰後USB対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

❏ 取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- USBフラッシュメモリやMOドライブなど、記憶装置のUSB対応機器を取りはずす場合は、データを消失するおそれがあるため、必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。

USBの常時給電について

- 本機能は初期設定では無効になっておりますので、使用するには「東芝USBスリープ アンド チャージ ユーティリティ」で本機能を有効にする必要があります。
- 本機能を「東芝USBスリープ アンド チャージ ユーティリティ」で有効にした際、（ ⚡ ）アイコンが付いているUSBコネクタに接続しているUSB周辺機器が正しく動作しない場合があります。この場合、本機能を「東芝USBスリープ アンド チャージ ユーティリティ」で無効に設定してください。
- 本機能を利用しての充電は、専用充電器で充電する場合と比較して、より多くの充電時間が必要になることがあります。
- 常時給電を有効にしている場合は、電源OFFの状態でもバッテリーが消費されます。バッテリー駆動時間や休止状態の保持時間が短くなるので、ACアダプターを接続して使用することをおすすめします。
- パソコン本体の電源ON/OFFと連動するUSBバスパワー（DC5V）連動機能を持つ外部機器は、常に動作状態になることがあります。
- 常時給電に対応したUSBコネクタに接続された外部機器の使用電流が過大の場合、安全性確保のためUSBバスパワー（DC5V）の供給を停止させることがあります。
  この場合、外部機器の仕様を確認し、常時給電に対応したUSBコネクタに接続する外部機器の使用電流全体の合計を特定のグループごとに1000mA以下にしてください。
  グループについては、「東芝スリープ アンド チャージ ユーテリティ」を確認してください。
  その後、パソコン本体の電源をON/OFFすることで復帰します。
- 「東芝USBスリープ アンド チャージ ユーティリティ」の設定で、本機能の設定が有効になっていると、常時給電に対応したUSBコネクタでは「USB WakeUp 機能」[*1] が機能しません。常時給電に対応したUSBコネクタで「USB WakeUp 機能」を使用する場合は、本機能を無効に設定してください。

  ＊1 USB WakeUp機能とは、USBコネクタに接続した外部機器によってパソコン本体をスリープ状態から復帰させる機能です。本機能はOSがWindows 7またはWindows Vistaの場合、すべてのUSBコネクタで有効です。

付録

東芝USBスリープ アンド チャージ ユーティリティについて

「東芝USBスリープ アンド チャージ ユーティリティ」は、USBの常時給電に対応しているUSBコネクタの設定を行うことができます。

- 起動方法
  ①［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［USB スリープ アンド チャージ］をクリックする
- USBの常時給電の有効／無効
  「東芝USBスリープ アンド チャージ ユーティリティ」は、特定のグループごとにUSBの常時給電の機能を有効／無効に設定できます。
  グループは、USBコネクタの位置などによって分けられており、「東芝USBスリープ アンド チャージ ユーティリティ」の設定画面で確認することができます。
  USBの常時給電を有効にしたい場合は、各グループの をチェックしてください。
- 給電モードの設定
  USBの常時給電については、［給電モードの設定］で複数のモードから選択できます。
  ［給電モードの設定］で選択したモードは全てのグループで共通に設定されます。
  通常は［モード1］を設定してください。［モード1］でUSBの常時給電を使用できなかった場合は、ほかのモードに設定してください。
  モードによっては、一部のグループがグレーで表示されることがあります。
  グレーで表示されているグループは、選択したモードに対応していないため、常時給電が使用できません。
  ほかのモードを選択するか、グレーで表示されていないグループを使用してください。
  ただし、外部機器によってはグループがグレーで表示されていない場合でも、本機能を使用できないことがあります。各グループのチェックをはずして、常時給電の使用を中止してください。
- バッテリー駆動時の設定
  バッテリー駆動時にバッテリー充電量が減ってきた場合、USBの常時給電を一時停止する機能があります。［バッテリー下限値］に指定したい数値を設定してください。また、［AC接続時のみ］にチェックをつけると、ACアダプターを接続している間だけ、USBの常時給電を行います。

eSATA対応機器の操作にあたって

- スリープまたは休止状態でパソコンのeSATA/USBコネクタにeSATA対応機器を接続しないでください。eSATA対応機器を認識できない場合があります。
  eSATA対応機器は、パソコンに電源が入った状態で接続してください。

外部ディスプレイ接続の操作にあたって

- 必ず、DVDなどを再生する前に、表示装置の切り替えを行ってください。再生中は表示装置を切り替えないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。
  ・データの読み出しや書き込みをしている間
  ・通信を行っている間

- クローン表示にしているときにDVDを再生させると、画像がコマ落ちをすることがあります。この場合は表示解像度を下げるか、本体液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのどちらかだけに表示するか、拡張表示に設定してください。
- 拡張表示で外部ディスプレイをプライマリデバイスに設定した場合、スリープまたは休止状態のときに外部ディスプレイをはずさないでください。スリープまたは休止状態から復帰したときにログオン画面が表示されずに操作ができなくなることがあります。
- ポートリプリケーターを接続しているときは、パソコン本体のRGBコネクタを使用しないでください。

ヘッドホンの操作にあたって

- 次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。
  ・パソコン本体の電源を入れる／切るとき
  ・ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

PCカードの操作にあたって

- ホットインサーションに対応していないPCカードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行ってください。
- PCカードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PCカードを取りはずす際に、PCカードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからPCカードを取りはずしてください。
- PCカードの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずにPCカードを取りはずすとシステムが回復不能な影響を受ける場合があります。

❏ 取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

❏ 取りはずしたあとに

- PCカードを取りはずしたあとは、ダミーカードを挿入してください。ほこりやゴミなどがPCカードスロットに入り、故障するおそれがあります。

11 バッテリーについて

バッテリーを充電するにあたって

- バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリーは5～35℃の室温で充電してください。

社団法人　電子情報技術産業協会の「バッテリ関連Q&A集」について
http://it.jeita.or.jp/perinfo/committee/pc/battery/menu1.htm

12 CD／DVDにデータのバックアップをとる

CD／DVDに書き込む前に

CD／DVDに書き込みを行うときは、市販のライティングソフトウェアは使用しないでください。
CD／DVDに書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。
守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- 書き込みに失敗したCD／DVDの損害については、当社はいっさいその責任を負いません。また、記憶内容の変化・消失など、CD／DVDに保存した内容の損害および内容の損失・消失により生じる経済的損害といった派生的損害については、当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- CD／DVDに書き込むときには、それぞれの書き込み速度に対応し、それぞれの規格に準拠したメディアを使用してください。また、推奨するメーカーのメディアを使用してください。

参照 CD／DVDについて「2章 6 CDやDVDを使う」

- バッテリー駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ずACアダプターを接続してパソコン本体を電源コンセントに接続して使用してください。
- 書き込みを行うときは、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スリープ、休止状態、シャットダウンまたは再起動を実行しないでください。

参照 省電力機能について「5章 2 省電力の設定をする」

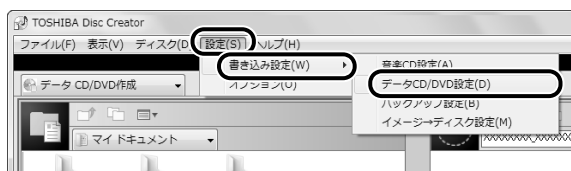
- 次に示すような、ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
  ・スクリーンセーバー
  ・ウイルスチェックソフト
  ・ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
  ・音楽CDやDVDの再生アプリケーション
  ・モデムなどの通信アプリケーション　　など
  ソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となります。
- SDメモリカード、PCカードタイプのハードディスクドライブ、USB接続などのハードディスクドライブなど、本製品の内蔵ハードディスク以外の記憶装置にあるデータを書き込むときは、データをいったん本製品の内蔵ハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- LANを経由する場合は、データをいったん本製品の内蔵ハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- 「TOSHIBA Disc Creator」は、パケットライト形式での記録機能は備えていません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用してDVD-RAMにデータを書き込むことはできません。
- 本製品に付属している「TOSHIBA Disc Creator」を使用してDVD-Video、DVD-VR、DVD-Audioを作成することはできません。

- 書き込み可能なDVDをバックアップする場合は、同じ種類の書き込み可能なDVDメディアでないとバックアップできない場合があります。詳細は「TOSHIBA Disc Creator」のヘルプを参照してください。
- 著作権保護されているDVD-Video を「TOSHIBA Disc Creator」を使用してバックアップを作成しても、作成されたメディアで映像を再生することはできません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用してCD-ROM、CD-R、CD-RWからDVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rにバックアップを作成することはできません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用してDVD-ROM、DVD-Video、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+R からCD-R、CD-RWへバックアップを作成することはできません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用して、ほかのソフトウェアや、家庭用DVDビデオレコーダーで作成したDVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rのバックアップを作成できないことがあります。

書き込みを行うにあたって

- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開く、ユーザーを切り替える、画面の解像度や色数の変更など、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 書き込み中は、周辺機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。

参照 周辺機器について「4章 周辺機器を使って機能を広げよう」

- パソコン本体から携帯電話、およびほかの無線通信装置を離してください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。
- 「TOSHIBA Disc Creator」では、データが正常に書き込まれたことを確認（簡易チェック）するように設定されています。
  次の手順で確認できます。
  ① [スタート] ボタン（ ）→ [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [CD&DVD アプリケーション] → [Disc Creator] をクリックする
  「TOSHIBA Disc Creator」の [Startup Menu] 画面が表示されます。
  ② [データCD/DVD作成] をクリックする
  ③ メインウインドウで [設定] をクリックし、[書き込み設定] → [データCD/DVD設定] をクリックする

[データCD/DVD設定] 画面が表示されます。

④［データチェック］で［書き込み後にデータをチェックする］がチェックされているか確認する
［簡易チェック］と［詳細チェック］を選択することができます。

13 DVDの再生にあたって

本項では、「DVD」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD-VideoフォーマットまたはDVD-VRフォーマットで記録されたディスクを示します。

- 使用するDVDディスクのタイトルによっては、コマ落ちする場合があります。
- 家庭用DVDレコーダーで録画した、ファイナライズされていないDVDはパソコンで再生できない場合があります。
- DVDの再生には、「TOSHIBA DVD PLAYER」を使用してください。「Windows Media Player」やその他市販ソフトを使用してDVDを再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。このようなときは、「TOSHIBA DVD PLAYER」を起動し、DVDを再生してください。
- DVD再生ソフト「TOSHIBA DVD PLAYER」では、DVD-VideoとDVD-VRの再生ができます。Video CD、Audio CD、MP3の再生はサポートしていません。
- DVD再生時は、ACアダプターの接続をおすすめします。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリー駆動で再生する場合は電源プランで「高パフォーマンス」を選択してください。
- DVDを再生する前に、ほかのアプリケーションを終了させてください。また、再生中にはほかのアプリケーションを起動させたり、不要な操作は行わないでください。
- 「TOSHIBA DVD PLAYER」の起動中は、スリープ、休止状態を実行しないでください。
- 「TOSHIBA DVD PLAYER」の起動中は、コンピューターのロック状態に移行する操作（[Windows]＋[L]キーまたは[FN]＋[F1]キーを押す）をしないでください。
- Region（リージョン）コードは4回まで変更することができますが、通常は出荷時のままご利用ください。出荷時の状態では、Regionコードが「2」に設定されておりますので、Regionコードが「2」または「ALL」のDVD-Videoをご使用ください。
- 外部ディスプレイに表示する場合は、再生する前にあらかじめ表示装置を切り替えてください。

参照 表示装置の切り替え「4章 4 外部ディスプレイの接続」

付録

- 外部ディスプレイ側の解像度やリフレッシュレートが高い場合、DVD再生画像が正常に表示されないことがあります。その際はいったん再生を終了し、外部ディスプレイ側の解像度、リフレッシュレートや色数を下げてご使用ください。

その他の注意については、「TOSHIBA DVD PLAYER」のヘルプに記載しています。
「TOSHIBA DVD PLAYER」のヘルプの起動は、［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA DVD PLAYER］→［TOSHIBA DVD PLAYER ヘルプ］をクリックしてください。

14 ウイルスチェック・セキュリティ対策について

使用するにあたって

- ご使用になる場合には必ずウイルス定義ファイルの最新版をダウンロードしてください。
- ウイルス感染を防止するには、常に最新のウイルス定義ファイルをダウンロードしてください。
- 本製品に添付されている「ウイルスバスター」は90日間の使用期限があります。使用期限が切れたあとは、延長の申し込み、または市販品をご検討ください。
- 市販のウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトをインストールする場合は、すでにインストールしているウイルスチェックソフトをすべてアンインストールしてから行ってください。
- Windows ファイアウォールと、「ウイルスバスター」のセキュリティ機能（ファイアウォールなど）が両方とも有効になっていると、アプリケーションなどが正常に動作しない場合があります。1つのセキュリティ機能のみ有効にしてください。

参照 Windows ファイアウォールについて『Windowsヘルプとサポート』

参照 ウイルスチェックソフトのセキュリティ機能について「ウイルスバスター」のヘルプ

15 文書や表、メールについて

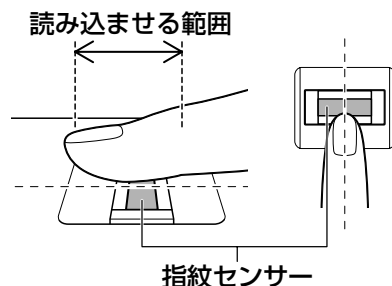
使用するにあたって

- 作成した文書など、ハードディスクや外部記憶メディアに保存しているデータは、万が一故障が起きた場合や、変化／消失した場合に備えて、定期的にバックアップをとって保存してください。ハードディスクや外部記憶メディアに保存した内容の損害については、当社はいっさいその責任を負いません。

16 指紋認証について

指紋認証の操作にあたって

指紋センサーは非常に高度な技術で作られておりますので、次の取扱注意事項を守ってご使用ください。特に指紋センサー表面の取り扱いには十分ご注意ください。

- 次のような取り扱いをすると故障したり、指紋が認証されない原因になります。
  - ・指紋センサー表面を爪などの硬いものでこすったりひっかいたりする
  - ・指紋センサー表面を強く押す
  - ・濡れた手で指紋センサー表面を触る
    指紋センサーの表面に水蒸気などをあてず、乾燥した状態に保ってください。
  - ・化粧品や薬品、砂や泥などの付いた手で指紋センサー表面を触る
    砂などの小さい物でも、指紋センサーを傷つける場合があります。
  - ・指紋センサー表面にシールなどをはる
  - ・指紋センサー表面に鉛筆やボールペンなどで書く
  - ・指紋センサー表面を静電気を帯びた手や布などで触る
- 指紋センサーをご使用になるときには、次の点にご注意ください。
  - ・手が汚れている場合には手を洗い、完全に水分をふき取る
  - ・金属に手を触れるなどして、静電気を取り除く
    特に空気が乾燥する冬場には注意してください。静電気は指紋センサーの故障原因になります。
  - ・眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布でセンサーの汚れをふき取る
    このとき、洗剤は使用しないでください。
  - ・指と指紋センサーが横から見て平行になるように指を置く
  - ・指紋センサーと指の中央を合わせる
  - ・指紋センサーの上に第1関節がくるように置く
  - ・すべらせるときにはゆっくりと一定のはやさで手前にすべらせる
    それでも認識されない場合は、はやさを調整してください。
  - ・右の図のように、指を上下や左右にぶれさせず、指紋センサーが完全に見える状態になるまで手前にすべらせてください。

- 指紋を登録する場合には、認識率向上のために次のような状態の指は避けてください。
  - ・濡れている
  - ・けがをしている
  - ・ふやけている
  - ・荒れている
  - ・汚れている
    指紋の間の汚れや異物を取り除いた状態で登録してください。
  - ・乾燥性の皮膚炎などにかかっている

- 認識率が下がったな、と思ったら次の点を確認してください。
  - ・指紋センサーの表面が汚れていないか確認する
    汚れている場合は、眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布で軽くふき取ってから使ってください。指紋センサー表面は強くこすらないでください。故障するおそれがあります。
  - ・指の状態を確認する
    傷や手荒れ、極端に乾燥した状態、ふやけた状態、指紋が磨耗した状態、極端に太った場合など、指紋の登録時と状態が異なると認識できない可能性があります。認識率が改善されない場合には、ほかの指での再登録をおすすめします。
  - ・指の置きかたに注意する
- その他
  - ・2本以上の指を登録することをおすすめします。うまく認識しにくい場合などは、登録しなおすか、ほかの指を登録してください。
  - ・指紋認証機能は、正しくお使いいただいた場合でも、個人差により指紋情報が少ないなどの理由で、登録・使用ができない場合があります。
  - ・指紋認証機能は、データやハードウェアの完全な保護を保証してはおりません。本機能を利用したことによる、いかなる障害、損害に関して、いっさいの責任は負いかねますので、ご了承ください。

Windowsログオンパスワードの設定について

- パスワードがわからなくなった場合、パソコンの管理者アカウントで設定したユーザーアカウントがほかにあれば、そのアカウントでログオンしてパスワードの再登録ができます。管理者アカウントで設定したほかのユーザーアカウントがない場合は、リカバリーをしてください。リカバリーをすると、購入したあとに作成したデータなどは、すべて消失します。

参照 Windowsログオンパスワードについて『Windowsヘルプとサポート』

指紋認証のパスワード入力について

- 指紋認証に関連するシステム環境や設定が変更された場合、起動時にユーザーパスワードやHDDパスワードの入力を求められることがあります。その場合は、キーボードから各パスワードを入力してください。

17 TPMについて

TPMの操作にあたって

- 「Infineon TPM Software Professional Package」をインストールすると、Windowsログオンパスワードやユーザーパスワードとは別にTPMに対するパスワードを設定する必要があります。設定したパスワードは、忘れたときのために必ず控えておいてください。また控えたパスワードは、安全な場所に保管してください。パスワードがわからなくなった場合、どんな手段でもTPMで保護されたデータを復元することはできません。
- 本製品を修理・保守に出した場合、メイン基板に組み込まれたセキュリティチップ（TPM）内のデータは保証いたしません。TPMを使用している場合に、本製品を保守・修理に出す際は、バックアップウィザードを使用して、TPMをバックアップしておいてください。
  バックアップしたメディアは、安全な場所に保管してください。データのバックアップに関しては、当社はいっさいの責任を負いかねますのでご了承ください。

  参照 バックアップウィザードについて
  TPMのヘルプ『Infineon Security Platformソリューション』

- 本製品を修理・保守に出した場合、搭載されているTPMに障害がなくてもTPM が交換される場合があります。
  その場合、バックアップウィザードを使用して、TPMの設定を復元してください。
- TPMでは、最新のセキュリティ機能を提供しますが、データやハードウェアの完全な保護を保証してはおりません。本機能を利用したことによる、いかなる障害、損害に関して、いっさいの責任は負いかねますので、ご了承ください。
- 管理者（所有者）登録を削除すると、TPMに関係するセキュリティ機能が使用できなくなります。このため、管理者権限を持たないユーザーがBIOSセットアップの［SECURITY CONTROLLER］の項目を操作できないように設定することをおすすめします。

  参照 管理者以外のユーザーの制限について
  『Trusted Platform Module 取扱説明書 6 東芝パスワードユーティリティ』

- 管理者（所有者）登録を削除したあとに、TPMの使用を再開する場合は、もう1度TPMへ管理者（所有者）登録を行う必要があります。

18 「DVD MovieWriter」の使用にあたって

- 「DVD MovieWriter」はコンピューターの管理者アカウントで使用してください。
- 本製品にインストールされていない、その他の映像データを取り込むソフトウェアは使用しないでください。
- 「TOSHIBA DVD PLAYER」などの映像を再生するアプリケーションが動作していると、編集中のプレビューが正しく表示されないことがあります。編集中はほかのアプリケーションを終了してください。
- 編集中のプレビューは本体液晶ディスプレイにのみ表示されます。外部ディスプレイには表示されません。
- 著作権保護されたコンテンツの編集は行えません。
- 著作権保護されているコンテンツは再生できません。
- 「DVD MovieWriter」の動作中は、画像の解像度・色数の変更は行わないでください。
- 「DVD MovieWriter」では、ソース（映像ファイル）のビットレートによっては、1枚に圧縮できない場合があります。
- DVD-AudioやVideo CD、miniDVDを作成することはできません。
- DVDへ書き込みを行うには、映像データのサイズの約2.5倍以上の空き容量がハードディスクに必要です。あらかじめハードディスクの空き容量を確認してください。使用する映像ファイルや編集のしかたによって、必要な空き容量が異なります。
- DVDに映像データを書き込む場合、映像データの大きさや編集のしかたによってはデータの変換に数時間かかることがあります。
- ［Corel Label@Once］画面でのDVDラベルの作成は、必ずレーベル面に直接印刷できるプリンターとメディアをご利用ください。市販のラベルシールを貼付したDVDをご利用になると、ドライブの故障の原因になります。市販のラベルシールは使用しないでください。

19 メディアへの書き込み／ハードディスクへの書き出しについて

CD／DVDへの書き込み／ハードディスクへの書き出しを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。守らずに使用すると、書き込み／書き出しに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、記録メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込み／書き出しに失敗することがあります。

■記録メディアへの書き込み／ハードディスクへの書き出しを行うにあたって

- バッテリー駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリーの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ずACアダプターを使用してパソコン本体を電源コンセントに接続してご使用ください。
- 書き込みを行うときは、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、電源オフ／スリープ／休止状態／再起動を実行しないでください。

参照 省電力の設定について「5章 2 省電力の設定をする」

- 次に示すような、ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
  - ・音楽CD／DVDの再生アプリケーション
  - ・スクリーンセーバー
  - ・ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
  - ・ウイルスチェックソフト
  - ・モデムなどの通信アプリケーション　　など

  ソフトウェアによっては動作の不安定やデータの破損の原因となるので、使用しないことを推奨します。
- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開く、ユーザーを切り替える、画面の解像度や色数の変更など、パソコン本体の操作は行わないでください。
- メディアカードのセット／取り出しや、周辺機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。

参照 メディアカードについて「2章 9 SDメモリカードを使う」

参照 周辺機器について「4章 周辺機器を使って機能を広げよう」

- パソコン本体から、携帯電話およびほかの無線通信装置を離してください。
- SDメモリカード、SDHCメモリカード、USB接続などのハードディスクドライブなど、本製品の内蔵ハードディスク以外の記憶装置にあるデータを書き込むときは、データをいったん本製品の内蔵ハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- LANを経由する場合は、データをいったん本製品の内蔵ハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。
- CD／DVDに書き込みを行うときは、市販のライティングソフトウェアは、使用しないでください。
- CD／DVDに書き込むときには、それぞれの書き込み速度に対応し、それぞれの規格に準拠したメディアを使用してください。また、推奨するメーカーの記録メディアを使用してください。

■作成したDVDについて

- 作成したDVDは、一部の家庭用DVDビデオレコーダーやパソコンでは再生できないこともあります。また、作成したDVD+R DLメディア、DVD-R DLメディアを再生するときは、それぞれの記録メディアの読み取りに対応している機器を使用してください。
- 作成したDVDを本製品で再生するときは、「TOSHIBA DVD PLAYER」を使用してください。「Windows Media Player」やその他の市販ソフトを使用して再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。

■映像データをDVDに書き込む前に

- DVDに書き込みを行うときには、それぞれの規格に準拠した記録メディアを使用してください。また、推奨するメーカーの記録メディアを使用してください。なお、再生する機器に応じて、その機器の取扱説明書でも推奨される記録メディアを使用してください。守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、記録メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。
- 本製品に付属の「DVD MovieWriter」以外の映像データライティングソフトウェアは動作保証していません。

20 「i-フィルター」について

- 無料使用期間はご使用開始より90日間です。無料使用期間が過ぎますと、設定がすべて解除されフィルタリング機能がご使用できなくなります。無料使用期間中に有料にて正規サービスをお申し込みいただくことで、継続して使用することができます。

2 記録メディアについて

メディアを使う前に、次の内容をよく読んでください。
本製品では、次のメディアを使うことができます。

- CD
- DVD
- SDメモリカード
- SDHCメモリカード
- miniSDメモリカード*1
- microSDメモリカード*1

SDメモリカード、SDHCメモリカードで使用できる容量については『dynabook ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

＊1 カード専用のアダプターを装着すると使用できます。

1 使えるCDを確認しよう

＊ ドライブ内蔵モデルのみ

CD-RW、CD-Rについて／CD-RW、CD-Rの使用推奨メーカー

- CD-RW、CD-Rに書き込む際には、次のメーカーのメディアを使用することを推奨します。
  CD-RW（マルチスピード、High Speed）：三菱化学メディア（株)、（株）リコー
  CD-RW（Ultra Speed）：三菱化学メディア（株）
  CD-R ：太陽誘電（株)、日立マクセル（株）*1、三菱化学メディア（株)、（株）リコー
  これらのメーカー以外のメディアを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。
  ＊1 N12シリーズのみ
- 書き込み速度は、使用するメディアによって異なります。
  マルチスピードCD-RWメディア ： 最大4倍速
  High Speed CD-RWメディア ： 最大10倍速
  Ultra Speed CD-RWメディア ： 最大16倍速
  （Ultra Speed+ CD-RWメディアは使用できません。使用した場合、データは保証できません。）
  CD-Rメディア ： RX2シリーズ、RX2Lシリーズの場合は最大16倍速
  N12シリーズの場合は最大24倍速
  （最大の倍速で書き込むためには書き込み速度に対応したCD-Rメディアを使用してください。）
- CD-Rに書き込んだデータの消去はできません。
- CD-RWメディアは書き換え可能なメディアですが、「TOSHIBA Disc Creator」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。
  ファイルの変更・削除が必要な場合は、まずCD-RWメディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。
- CD-RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- ハードディスクに不良セクターがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスターのチェックを行うことをおすすめします。

● ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。

2 使えるDVDを確認しよう

＊ ドライブ内蔵モデルのみ

■DVD-RAMの種類

DVD-RAMにはいくつかの種類があります。本製品のドライブで使用できるDVD-RAMは次のとおりです。

カートリッジタイプのメディアは、カートリッジから取り出してドライブにセットしてください。両面ディスクで、読み出し／書き込みする面を変更するときは、一度ドライブからメディアを取り出し、裏返してセットし直してください。

○：使用できる　×：使用できない

DVD-RAMの種類	本製品の対応
カートリッジなし＊1	○
カートリッジタイプ（取り出し不可）	×
カートリッジタイプ（取り出し可能）＊2	○

＊1　一部の家庭用DVDビデオレコーダーでは再生できない場合があります。
＊2　2.6GB、5.2GBのディスクは使用できません。

付録

DVDについて／DVDの使用推奨メーカー

- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rに書き込む際には、次のメーカーのメディアを使用することを推奨します。
  書き込み速度は、使用するメディアによって異なります。
  これらのメーカー以外のメディアを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。

RX2シリーズ、RX2Lシリーズの場合

メディア		書き込み／書き換え速度	推奨メーカー
DVD-R	4倍速	最大4倍速	太陽誘電(株)、パナソニック(株)
	8倍速、16倍速	最大8倍速	太陽誘電(株)、パナソニック(株)
DVD+R	8倍速、16倍速	最大8倍速	三菱化学メディア(株)、(株)リコー
DVD-RW	2倍速	最大2倍速	日本ビクター(株)、三菱化学メディア(株)
	4倍速、6倍速	最大4倍速	日本ビクター(株)、三菱化学メディア(株)
DVD+RW	2.4倍速	最大2.4倍速	三菱化学メディア(株)、(株)リコー
	4倍速	最大4倍速	三菱化学メディア(株)、(株)リコー
DVD-RAM	3倍速、5倍速	最大3倍速	日立マクセル(株)、パナソニック(株)

これらより速い書き込み倍速に対応したメディアを使用することはできません。

N12シリーズの場合

メディア		書き込み／書き換え速度	推奨メーカー
DVD-R	4倍速	最大4倍速	三菱化学メディア(株)
	8倍速、16倍速	最大8倍速	太陽誘電(株)、日立マクセル(株)、三菱化学メディア(株)
DVD-R DL	4倍速、8倍速	最大4倍速	三菱化学メディア(株)
DVD+R	8倍速、16倍速	最大8倍速	太陽誘電(株)、三菱化学メディア(株)、(株)リコー
DVD+R DL	2.4倍速	最大2.4倍速	三菱化学メディア(株)
	8倍速	最大4倍速	三菱化学メディア(株)
DVD-RW	2倍速	最大2倍速	日本ビクター(株)、三菱化学メディア(株)
	4倍速	最大4倍速	日本ビクター(株)、三菱化学メディア(株)
	6倍速	最大6倍速	日本ビクター(株)、三菱化学メディア(株)
DVD+RW	2.4倍速	最大2.4倍速	三菱化学メディア(株)、(株)リコー
	4倍速	最大4倍速	三菱化学メディア(株)、(株)リコー
	8倍速	最大8倍速	三菱化学メディア(株)、(株)リコー
DVD-RAM	3倍速	最大3倍速	日立マクセル(株)、パナソニック(株)
	5倍速	最大5倍速	日立マクセル(株)、パナソニック(株)

これらより速い書き込み倍速に対応したメディアを使用することはできません。

- DVD-R、DVD+Rに書き込んだデータの消去はできません。
- DVD-RW、DVD+RW メディアは書き換え可能なメディアですが、「TOSHIBA Disc Creator」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。
  ファイルの変更・削除が必要な場合は、まずDVD-RW、DVD+RWメディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。
- DVD-RAM、DVD-RW、DVD+RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されているときには、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rへの書き込みでは、ファイルの管理領域なども必要になるため、メディアに記載された容量分のデータを書き込めない場合があります。
- DVD-RW、DVD-Rへの書き込みでは、DVDの規格に準拠するため、書き込むデータのサイズが約1GBに満たない場合にはダミーのデータを加えて、最小1GBのデータに編集して書き込みます。
  このため、実際に書き込もうとしたデータが少ないにもかかわらず、書き込み完了までに時間がかかることがあります。
- ハードディスクに不良セクターがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスターのチェックを行うことをおすすめします。
- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込むときは、メディアの状態をよくご確認ください。
- DVD-RAMをドライブにセットしたとき、システムがDVD-RAMを認識するまでに多少時間がかかります。

メモ

- DVD-Rは、DVD-R for General Ver2.0規格に準拠したメディアを使用してください。
- DVD-RWは、DVD-RW Ver1.1またはVer1.2規格に準拠したメディアを使用してください。
- DVD-RAMは、DVD-RAM Ver2.0、Ver2.1、Ver2.2規格に準拠したメディアを使用してください。
- 市販のDVD-Rには業務用メディア（for Authoring）と一般用メディア（for General）があります。業務用メディアはパソコンのドライブでは書き込みすることができません。
  一般用メディア（for General）を使用してください。
- 市販のDVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rには「for Data」と「for Video」の2種類があります。映像を保存する場合や家庭用DVDビデオレコーダーとの互換性を重視する場合は「for Video」を使用してください。
- 作成したDVDは、一部の家庭用DVDビデオレコーダーやパソコンでは再生できないこともあります。また、N12シリーズで作成したDVD+R DLメディア、DVD-R DLメディアを再生するときは、それぞれの記録メディアの読み取りに対応している機器を使用してください。

3 メディアカードを使う前に

1 メディアカードの操作にあたって

- SD Card LEDが点灯中は、電源を切ったり、メディアカードを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。データやメディアカードが壊れるおそれがあります。
- メディアカードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく差し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、メディアカードが壊れるおそれがあります。
- スリープ中は、メディアカードを取り出さないでください。データが消失するおそれがあります。
- メディアカードのコネクタ部分（金色の部分）には触れないでください。静電気で壊れるおそれがあります。
- メディアカードを取り出す場合は、必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。
  データが消失したり、メディアカードが壊れるおそれがあります。
- パソコン本体を持ち運ぶときは、必ずSDカードスロットからメディアカードを取り出してください。SDカードスロットやメディアカードが破損するおそれがあります。

2 SDメモリカードを使う前に

- SDカードスロットにminiSDメモリカードをセットするときは、必ずSDメモリカードサイズのminiSDメモリカード用のアダプターを装着した状態で行ってください。
  microSDメモリカードをセットするときは、必ずSDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプターを装着した状態で行ってください。miniSDメモリカードサイズのmicroSDメモリカード用のアダプターは使用できません
- SDカードスロットからminiSDメモリカード／microSDメモリカードを取りはずすときは、必ずminiSDメモリカードまたはmicroSDメモリカード用のアダプターに装着したままの状態で行ってください。
- すべてのSDメモリカード／SDHCメモリカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのSDメモリカード／SDHCメモリカードの動作保証はできません。
- SDメモリカード／SDHCメモリカードは、SDMIの取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。
  そのため、ほかのパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMIとはSecure Digital Music Initiativeの略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SDメモリカード／SDHCメモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐSDMIに準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

SDメモリカード／SDHCメモリカードのフォーマットについて

- Windows上（[コンピューター］画面）でSDメモリカード／SDHCメモリカードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤーなどほかの機器で使用できなくなる場合があります。
- 再フォーマットを行うと、そのSDメモリカード／SDHCメモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。1度使用したSDメモリカード／SDHCメモリカードを再フォーマットする場合は注意してください。
- 「東芝SDメモリカードフォーマット」でフォーマットするときは、「東芝SDメモリカードフォーマット」以外の、SDメモリカード／SDHCメモリカードを使用するアプリケーションはあらかじめ終了させてください。

4 記録メディアの廃棄・譲渡について

記録メディア（フロッピーディスク、半導体メモリ、CD、DVDなど）を廃棄・譲渡する際には、書き込まれたデータが流出しないよう、適切な方法で消去することをおすすめします。
初期化、削除、消去などの操作などを行っても、データの復元ツールで再生できる場合もありますので、十分ご確認ください。
データ消去のための専用ソフトや、メディア専用のシュレッダーも販売されています。

3 お客様登録の手続き

パソコンやアプリケーションを使用するときは、自分が製品の正規の使用者（ユーザー）であることを製品の製造元へ連絡します。これを「お客様登録」または「ユーザー登録」といいます。
お客様登録は、パソコン本体、使用するアプリケーションごとに行い、方法はそれぞれ異なります。
お客様登録を行わなくても、パソコンやアプリケーションを使用できますが、お問い合わせをいただくときにお客様番号（「ユーザーID」など、名称は製品によって異なります）が必要な場合や、お客様登録をしているかたへは製品に関する大切な情報をお届けする場合がありますので、使い始めるときに済ませておくことをおすすめします。

1 東芝ID（TID）お客様登録のおすすめ

東芝では、お客様へのサービス・サポートのご提供の充実をはかるために東芝ID（TID）のご登録をおすすめしております。
サービス内容は、『東芝PCサポートのご案内』を確認してください。

詳しくは、次のアドレス「東芝ID（TID）とは？」をご覧ください。
https://room1048.jp/onetoone/info/about_tid.htm

登録方法

お客様の環境に応じて、登録方法を選択できます。

■方法1 -［東芝お客様登録］アイコンからのご登録方法

インターネットに接続後、登録用のホームページに簡単にアクセスできます。

■方法2 - インターネットからのご登録方法

インターネットに接続後、URLを入力して登録用のホームページにアクセスしていただきます。
登録用ホームページ：http://room1048.jp

商品の追加登録は「方法1」または「方法2」で行います。
ここでは、「方法1」を紹介します。

1 [東芝お客様登録] アイコンからのご登録方法

インターネット接続の設定やインターネットプロバイダーとの契約をしてある場合に、[東芝お客様登録] アイコンからTID登録を行う方法を説明します。インターネットに接続しているあいだの通信料金やプロバイダー使用料などの費用はお客様負担となりますので、あらかじめご了承ください。

メモ

- インストールしているウイルスチェックソフトの設定によって、インターネット接続を確認する画面が表示される場合があります。インターネット接続を許可する項目を選択し、操作を進めてください。
- 初めて「Internet Explorer」を起動したときは、操作の途中で、検索ツールの利用を確認する画面が表示される場合があります。
  画面に従って操作してください。

1 デスクトップ上の [東芝お客様登録] アイコン（ ）をダブルクリックする

[「お客様登録」のお願い] 画面が表示されます。
以降は、画面の指示に従って操作してください。

付録

4 技術基準適合について

■瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人　電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピューターの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

■高調波対策について

（社）電子情報技術産業協会情報処理機器 高調波電流抑制対策実行計画に基づく定格入力電力値：

付属のACアダプターの出力電力値が45Wの場合：55W

■電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

参照 「8章 2 - 5 - Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい」

内蔵モデムについて

＊モデム内蔵モデルのみ

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項を守ってください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第50条1項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。

■対応地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、アルゼンチン、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、メキシコ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルク、レバノン、ロシア

（2009年9月現在）

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。
内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。
内蔵モデムに接続する回線がPBX等を経由する場合は使用できない場合があります。
上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめ了承してください。

参照 設定について「3章 1-4-3 海外でインターネットに接続するには」

■自動再発信の制限

内蔵モデムは2回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を2回以下または再発信間隔を1分以上にしてください）。

＊内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は2回以内（但し、最初の発信から3分以内）」に従っています。

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).
However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.
In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007, AN009,AN010 and DE03,04,05, 08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries/regions	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.
The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. If has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
  For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.
Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can.
In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.
In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.
In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.
***CAUTION:** Use only No. 26AWG or larger modular cable.*

Instructions for IC CS-03 certified equipment

1 NOTICE : The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.
Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.
The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.
Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.
Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.
Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

2 The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:
The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your modem's label.
NOTICE : The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

3 The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.
CANADA:4005B-DELPHI

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the region selection is set to Australia.
The use of other region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in you modem being operated in a non-compliant manner.
To verify that the region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.
To set the region permanently to Australia, enter the following command sequence:
AT%TE=1
ATS133=1
AT&F
AT&W
AT%TE=0
ATZ
Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of $12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.
- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
  a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
  b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.
- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.
- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC
  Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
  a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and
  b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
  c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.

付録

- Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
- The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:
  ATB0 (CCITT operation)
  AT&G2 (1800 Hz guard tone)
  AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)
  ATS0=0 (not auto answer)
  ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)
  ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)
  ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)
- When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value between 3 or 4. This ensures:

(a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.

(b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.

- The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.
  Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
  Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1
  Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.
- The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal.
  Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.
- It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.
- When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.
- This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as Fax Ability.

NOTE THAT FAULT CALL OUT CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is $337.50. An additional charge of $337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. $112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for $NZ1237.50 will be sent under separate cover.

■FCC information

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's RGB port, Universal Serial Bus(USB 2.0)ports, eSATA/USB combo port and Microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules.
Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697
Telephone : (949) 583-3000

■EU Conformity Statementについて

This product and - if applicable - the supplied accessories too are marked with “CE” and comply therefore with the applicable harmonized European standards listed under the Low Voltage Directive 2006/95/EC, the EMC Directive 2004/108/EC and/or R&TTE Directive 1999/5/EC.

Responsible for CE-marking:

TOSHIBA EUROPE GMBH, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany

Manufacturer:

Toshiba Corporation, 1-1 Shibaura 1-chome, Minato-ku, Tokyo, 105-8001, Japan

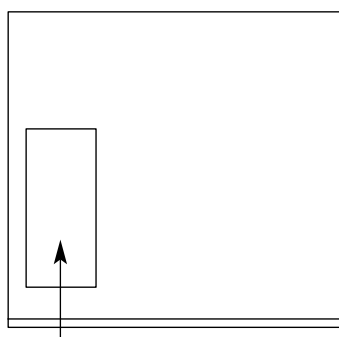
The complete official EU CE Declaration can be obtained on following internet page:
http://epps.toshiba-teg.com/

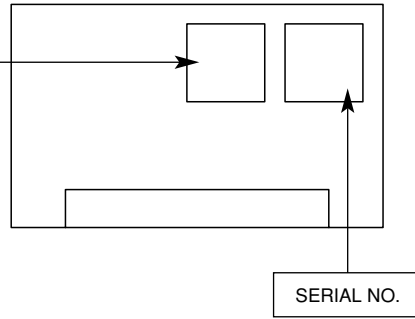
Panasonic DVDスーパーマルチドライブUJ-844
安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

⚠注 意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
   本装置およびパソコン本体には、下記の表示がされています。
   本装置はヨーロッパ共通のレーザー規格【EN60825-1】で“クラス１レーザー機器”に分類されています。
   レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。
2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、東芝PCあんしんサポートにご相談ください。

本装置上のレーザーラベルの表示位置

CAUTION	CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN, AVOID EXPOSURE TO THE BEAM.
ATTENTION	RADIATIONS LASER VISIBLES ET INVISIBLES DE CLASSE 3B QUAND OUVERT. ÉVITEZ TOUT EXPOSITION AU FAISCEAU.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDSÆTTELSE FOR STRÅLING.
VARO!	AVATTAESSA OLET ALTTIINA NÄKYVÄLLE JA NÄKYMÄTTÖMÄLLE LUOKAN 3B LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESEEN.
VARNING	KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. UNDVIK ATT UTSÄTTA DIG FÖR STRÅLEN.
VORSICHT	BEI GEÖFFNETER ABDECKUNG IST SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG DER KLASSE 3B IM GERÄTEINNEREN VORHANDEN. NICHT DEM LASERSTRAHL AUSSETZEN!
PRECAUCIÓN	CUANDO SE ABRE HAY RADIACIÓN LÁSER DE CLASE 3B VISIBLE E INVISIBLE. EVITE LA EXPOSICIÓN A LOS RAYOS LÁSER.

パソコン底面のレーザーラベルの表示位置
Complies with 21 CFR 1040.10.
TOSHIBA CORPORATION
1-1, Shibaura 1-chome,
Minato-ku, Tokyo
105-8001, Japan
クラス1レーザ製品
CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1
APPAREIL À LASER DE CLASSE 1
SERIAL NO.

Panasonic DVDスーパーマルチドライブ UJ862
（DVDスーパーマルチドライブ DVD±R 2層式メディア対応）
安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

⚠注 意

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
VARNING	KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
VARO！	KURSSI 3B NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

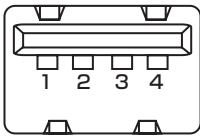
1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
   本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
   本装置はヨーロッパ共通のレーザー規格EN60825-1で“クラス１レーザー機器”に分類されています。
   レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。
2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。
   本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、東芝PCあんしんサポートにご相談ください。

5 各インターフェースの仕様

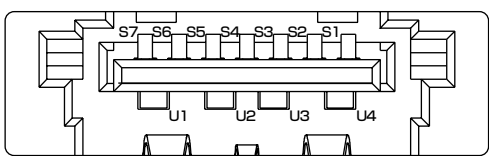
1 RGBインターフェース

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	CRV	赤色ビデオ信号	O
2	CGV	緑色ビデオ信号	O
3	CBV	青色ビデオ信号	O
4	Reserved	予約	
5	GND	信号グランド	
6	GND	信号グランド	
7	GND	信号グランド	
8	GND	信号グランド	
9	+5V	電源	
10	GND	信号グランド	
11	Reserved	予約	
12	SDA	SDA通信信号	I/O
13	-CHSYNC	水平同期信号	O
14	-CVSYNC	垂直同期信号	O
15	SCL	SCLデータクロック信号	I/O

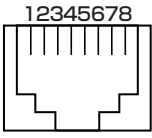
コネクタ図

5　1
10　6
15　11

高密度D-SUB 3列15ピンメス

信号名　　　　：ーがついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

付録

2 USBインターフェース

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	VBUS	+5V	
2	D-	マイナスデータ	I/O
3	D+	プラスデータ	I/O
4	GND	信号グランド	

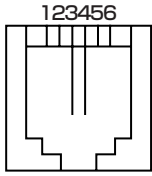
コネクタ図

信号名　　　　：－がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

3 eSATA／USBインターフェース

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
S1	GND	グランド	
S2	A+	eSATAプラスデータ	O
S3	A-	eSATAマイナスデータ	O
S4	GND	グランド	
S5	B-	eSATAマイナスデータ	I
S6	B+	eSATAプラスデータ	I
S7	GND	グランド	
U1	VBUS	+5V	
U2	D-	USBマイナスデータ	I/O
U3	D+	USBプラスデータ	I/O
U4	GND	信号グランド	

コネクタ図

信号名　　　　：－がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

付録

4 LANインターフェース

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	BI_DA+	送受信データA（+）	I/O
2	BI_DA-	送受信データA（−）	I/O
3	BI_DB+	送受信データB（+）	I/O
4	BI_DC+	送受信データC（+）	I/O
5	BI_DC-	送受信データC（−）	I/O
6	BI_DB-	送受信データB（−）	I/O
7	BI_DD+	送受信データD（+）	I/O
8	BI_DD-	送受信データD（−）	I/O
コネクタ図			
12345678			

信号名　　　　：ーがついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

5 モデムインターフェース

＊モデム内蔵モデルのみ

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	−	ノーコンタクト	
2	−	ノーコンタクト	
3	TIP	電話回線	I/O
4	RING	電話回線	I/O
5	−	ノーコンタクト	
6	−	ノーコンタクト	
コネクタ図			
123456			

信号名　　　　：ーがついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

付録

6 無線LANについて

＊無線LANモデルのみ

1 無線LANの概要

本製品には、IEEE802.11a、IEEE802.11b、IEEE802.11g、IEEE802.11nのすべて、もしくはその一部に準拠した無線LANモジュールが内蔵されています。次の機能をサポートしています。

- 周波数チャネル選択
- マルチチャネル間のローミング
- パワーマネージメント

本書では、内蔵された無線LANモジュールの種類によって説明が異なる項目があります。
使用しているパソコンに内蔵された無線LANモジュールの種類の確認については、「3章 1-3-1 無線LANモジュールの確認」をご覧ください。

付録

2 無線特性

無線LANの無線特性は、製品を購入した国／地域、購入した製品の種類により異なる場合があります。
多くの場合、無線通信は使用する国／地域の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない5GHz帯および2.4GHz帯で動作するように設計されていますが、国／地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。
無線規制については、「本節 6 お知らせ」を確認してください。

<table>
<tr><th rowspan="2">無線周波数帯</th><td>IEEE802.11a,
IEEE802.11n</td><td>5GHz（5150-5350MHz および、
5470-5725MHz）</td></tr>
<tr><td>IEEE802.11b,
IEEE802.11g,
IEEE802.11n</td><td>2.4GHz（2400-2483MHz）</td></tr>
<tr><th rowspan="3">変調方式</th><td>IEEE802.11a,
IEEE802.11g</td><td>直交周波数分割多重方式
OFDM-BPSK, OFDM-QPSK,
OFDM-16QAM, OFDM-64QAM</td></tr>
<tr><td>IEEE802.11b</td><td>直接拡散方式
DSSS-CCK, DSSS-DQPSK,
DSSS-DBPSK</td></tr>
<tr><td>IEEE802.11n</td><td>直交周波数分割多重方式（OFDM方式),
空間多重方式（MIMO方式）</td></tr>
</table>

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る"障害物"がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

3 サポートする周波数帯域

無線LANがサポートする5GHz帯および2.4GHz 帯のチャネルは、国／地域で適用される無線規制によって異なる場合があります（表「無線IEEE802.11 チャネルセット」参照）。
各地域で適用される無線規制については、「本節 6 お知らせ」を確認してください。

■無線IEEE802.11 チャネルセット

- 5GHz帯：5150-5350MHz および、5470-5725MHz
（IEEE802.11a、IEEE802.11nの場合）

メモ

- 5GHz無線LANは屋外では使用できません。

	チャネルID	周波数
W52	36	5180
	40	5200
	44	5220
	48	5240
W53	52	5260
	56	5280
	60	5300
	64	5320
W56	100	5500
	104	5520
	108	5540
	112	5560
	116	5580
	120	5600
	124	5620
	128	5640
	132	5660
	136	5680
	140	5700

アクセスポイント側のチャネル（W52/W53/W56）に合わせて、そのチャネルに自動的に設定されます。

● 2.4GHz帯：2400-2483MHz（IEEE802.11b/g、IEEE802.11nの場合）

チャネルID	周波数
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
10	2457*1
11	2462
12	2467*2
13	2472*2

＊1 購入時、アドホックモード接続時に使用するチャネルとして設定されているチャネルです。

＊2 これらのチャネルが使用可能かどうかは、使用する無線LANモジュールによって異なります。使用可能チャネルについては、「本節 7 使用できる国／地域について」を参照してください。

4 本製品を日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。
5GHz帯無線LANを屋外で使用することはできません。

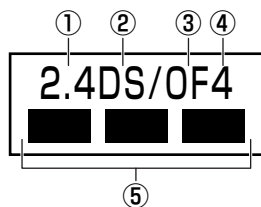
■ステッカー

本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に付属されている次のステッカーをパソコン本体に貼り付けてください。

この機器の使用周波数帯は　2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用 の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア 無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCあんしんサポートへお問い合わせください。

■現品表示

本製品と梱包箱には、次に示す現品表示が記載されています。

① 2.4　：2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
② DS　：変調方式がDS-SS方式であることを示す。
③ OF　：変調方式がOFDM方式であることを示す。
④ 4　：想定される与干渉距離が40m以下であることを示す。
⑤ ■ ■ ■：2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

■東芝PCあんしんサポート

東芝PCあんしんサポートの連絡先は、『取扱説明書』の巻末を参照してください。

5 機器認証表示について

本製品には、電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、次の認証を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

■Intel a/b/g/n モジュールの場合

無線設備名 ：512AN_MMW
株式会社 ディーエスピーリサーチ
認証番号 ：D080241003

■Intel a/b/g/n-WiMAX モジュールの場合

無線設備名 ：512ANXMMW
株式会社 ディーエスピーリサーチ
認証番号 ：D080751003

■Atheros a/b/g/n モジュールの場合

無線設備名 ：AR5BXB92
株式会社 ディーエスピーリサーチ
認証番号 ：D080266003

■Atheros b/g/n モジュールの場合

無線設備名 ：AR5B91-X
株式会社 ディーエスピーリサーチ
認証番号 ：D080273003

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピューター）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備をほかの機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触するおそれがありますので、十分にご注意ください。

付録

6 お知らせ

無線製品の相互運用性

本製品に内蔵されている無線LANモジュールは、Direct Sequence Spread Spectrum（DSSS）／Orthogonal Frequency Division Multiplexing（OFDM）無線技術を使用するあらゆる無線LAN製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Institute of Electrical and Electronics Engineers（米国電気電子技術者協会）策定のIEEE802.11 Standard on Wireless LANs（Revision a/b/g/n）（無線LAN標準規格（版数 a/b/g/n））
- Wi-Fi Allianceの定義するWireless Fidelity（Wi-Fi）認証
  Wi-Fi CERTIFIEDロゴはWi-Fi Allianceの認定マークです。

健康への影響

本製品に内蔵されている無線LANモジュールは、ほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。
本製品に内蔵されている無線LANモジュールの動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。
ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者がWireless LANの使用を制限する場合があります。次にその例を示します。

- 飛行機の中でWireless LAN装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Wireless LAN装置の電源を入れる前に、個々の組織または施設環境の管理者に対して、本製品の使用可否について確認してください。

規制に関する情報

本製品に内蔵されている無線LANモジュールのインストールと使用に際しては、必ず製品付属の取扱説明書に記載されている製造元の指示に従ってください。
本製品は、無線周波基準と安全基準に準拠しています。

●Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.
Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference , and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device.
The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

●USA - Federal Communications Commission (FCC)

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy. If not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation.
If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by tuning the equipment off and on, the user is encouraged to try and correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and the receiver.
- Connect the equipment to outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this the Wireless LAN, or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA.
The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.

The radiated output power of the Wireless LAN is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Wireless LAN shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized.
In the usual operating configuration, the distance between the antenna and the user should not be less than 20cm. Please refer to the PC user’s manual for the details regarding antenna location.
The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada’s website
www.hc-sc.gc.ca/ewh-semt/pubs/radiation/99ehd-dhm237/index-eng.php./

●Europe

Restrictions for Use of 2.4GHz Frequencies in European Community Countries

België/ Belgique:	For private usage outside buildings across public grounds over less than 300m no special registration with IBPT/BIPT is required. Registration to IBPT/BIPT is required for private usage outside buildings across public grounds over more than 300m. For registration and license please contact IBPT/BIPT.
	Voor privé-gebruik buiten gebouw over publieke groud over afstand kleiner dan 300m geen registratie bij BIPT/IBPT nodig; voor gebruik over afstand groter dan 300m is wel registratie bij BIPT/IBPT nodig. Voor registratie of licentie kunt u contact opnemen met BIPT.
	Dans le cas d'une utilisation privée, à l'extérieur d'un bâtiment, au-dessus d'un espace public, aucun enregistrement n'est nécessaire pour une distance de moins de 300m. Pour une distance supérieure à 300m un enregistrement auprès de I'IBPT est requise. Pour les enregistrements et licences, veuillez contacter I'IBPT.
Deutschland:	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow.
	Anmeldung im Outdoor-Bereich notwendig, aber nicht genehmigungspflichtig. Bitte mit Händler die Vorgehensweise abstimmen.
France:	Restricted frequency band: only channels 1 to 7 (2400 MHz and 2454 MHz respectively) may be used outdoors in France.
	Bande de fréquence restreinte : seuls les canaux 1-7 (2400 et 2454 MHz respectivement) doivent être utilisés endroits extérieur en France. Vous pouvez contacter I'Autorité de Régulation des Télécommuniations (http://www.art-telecom.fr) pour la procédure à suivre.
Italia:	License required for indoor use. Use with outdoor installations not allowed.
	E'necessaria la concessione ministeriale anche per l'uso interno. Verificare con i rivenditori la procedura da seguire.
Nederland	License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow.
	Licentie verplicht voor gebruik met buitenantennes. Neem contact op met verkoper voor juiste procedure.

To remain in conformance with European spectrum usage laws for Wireless LAN operation, the above 2.4GHz channel limitations apply for outdoor usage. The user should use the Wireless LAN utility to check the current channel of operation. If operation is occurring outside of the allowable frequencies for outdoor use, as listed above, the user must contact the applicable national spectrum regulator to request a license for outdoor operation.

● Taiwan

Article 12

Without permission granted by the NCC, any company, enterprise, or user is not allowed to change frequency, enhance transmitting power or alter original characteristic as well as performance to an approved low power radio-frequency devices.

Article 14

The low power radio-frequency devices shall not influence aircraft security and interfere legal communications;

If found, the user shall cease operating immediately until no interference is achieved.

The said legal communications means radio communications is operated in compliance with the Telecommunications Act.

The low power radio-frequency devices must be susceptible with the interference from legal communications or ISM radio wave radiated devices.

7 使用できる国／地域について

お願い

- 本製品は、次にあげる国／地域の無線規格を取得しております。これらの国／地域以外では使用できません。

■Intel a/b/g/n モジュール

アイスランド	カナダ	スウェーデン	パナマ	ホンジュラス
アイルランド	韓国	スペイン	バミューダ	マラウイ
アメリカ合衆国	カンボジア	スロバキア	パラグアイ	マルタ
アラブ首長国連邦	キプロス	スロベニア	ハンガリー	マレーシア
イギリス	ギリシャ	タイ	フィリピン	南アフリカ
イタリア	キルギスタン	台湾	フィンランド	モナコ
インド	グアテマラ	チェコ	プエルトリコ	モロッコ
インドネシア	クウェート	中国	ブラジル	モンテネグロ
ウルグアイ	クロアチア	チリ	フランス	ヨルダン
エジプト	ケニア	デンマーク	ブルガリア	ラトビア
エストニア	コスタリカ	ドイツ	ベトナム	リトアニア
エルサルバドル	コロンビア	トルコ	ベルギー	リヒテンシュタイン
オーストラリア	サウジアラビア	日本	ポーランド	ルクセンブルク
オーストリア	ジャマイカ	ニューカレドニア	ボスニア･ヘルツェゴビナ	ルーマニア
オマーン	シンガポール	ニュージーランド	ボリビア	レバノン
オランダ	ジンバブエ	ノルウェー	ポルトガル	
カタール	スイス	バーレーン	香港	

（2009年10月現在）

- 802.11aおよび802.11n モードではアドホック通信は使用できません。
- アドホック通信でのピアツーピア接続は、Ch1～Ch11で使用できます。
- インフラストラクチャ通信でのアクセスポイントへの接続は、Ch1～Ch13，Ch36，Ch40，Ch44，Ch48，Ch52，Ch56，Ch60，Ch64，Ch100，Ch104，Ch108，Ch112，Ch116，Ch120，Ch124，Ch128，Ch132，Ch136，Ch140，Ch149，Ch153，Ch157，Ch161，Ch165で使用できます。

■ Intel a/b/g/n-WiMAX モジュール

日本

（2009年10月現在）

- 無線LANとWiMAXは同時に使用できません。
- 802.11aおよび802.11n モードではアドホック通信は使用できません。
- アドホック通信でのピアツーピア接続は、Ch1～Ch11で使用できます。
- インフラストラクチャ通信でのアクセスポイントへの接続は、Ch1～Ch13，Ch36，Ch40，Ch44，Ch48，Ch52，Ch56，Ch60，Ch64，Ch100，Ch104，Ch108，Ch112，Ch116，Ch120，Ch124，Ch128，Ch132，Ch136，Ch140，Ch149，Ch153，Ch157，Ch161，Ch165で使用できます。

■ Atheros a/b/g/n モジュール

アイスランド	オーストリア	スリランカ	パラグアイ	マルタ
アイルランド	オランダ	スロバキア	ハンガリー	マレーシア
アゼルバイジャン	カナダ	スロベニア	フィリピン	メキシコ
アメリカ合衆国	韓国	セルビア	フィンランド	モナコ
アラブ首長国連邦	カンボジア	タイ	プエルトリコ	モンテネグロ
アルゼンチン	キプロス	台湾	フランス	ヨルダン
イギリス	ギリシャ	チェコ	ブルガリア	ラトビア
イタリア	クウェート	中国	ベトナム	リトアニア
インド	クロアチア	チリ	ベネズエラ	リヒテンシュタイン
インドネシア	ケニア	デンマーク	ペルー	ルクセンブルク
ウクライナ	コロンビア	ドイツ	ベルギー	ルーマニア
ウルグアイ	サウジアラビア	日本	ポーランド	レバノン
エクアドル	シンガポール	ニュージーランド	ボスニア･ヘルツェゴビナ	
エジプト	スイス	ノルウェー	ポルトガル	
エストニア	スウェーデン	バーレーン	香港	
オーストラリア	スペイン	パキスタン	ホンジュラス	

（2009年10月現在）

- 802.11aおよび802.11nモードではアドホック通信は使用できません。
- 802.11bおよび802.11gモードでのアドホック通信は、Ch1～Ch11で使用できます。
- 802.11bモードおよび802.11gモードでのインフラストラクチャ通信は、Ch1～Ch13で使用できます。

付録

■ Atheros b/g/n モジュール

アイスランド	オーストリア	スリランカ	パラグアイ	マルタ
アイルランド	オランダ	スロバキア	ハンガリー	マレーシア
アゼルバイジャン	カナダ	スロベニア	フィリピン	メキシコ
アメリカ合衆国	韓国	セルビア	フィンランド	モナコ
アラブ首長国連邦	カンボジア	タイ	プエルトリコ	モンテネグロ
アルゼンチン	キプロス	台湾	フランス	ヨルダン
イギリス	ギリシャ	チェコ	ブルガリア	ラトビア
イタリア	クウェート	中国	ベトナム	リトアニア
インド	クロアチア	チリ	ベネズエラ	リヒテンシュタイン
インドネシア	ケニア	デンマーク	ペルー	ルクセンブルク
ウクライナ	コロンビア	ドイツ	ベルギー	ルーマニア
ウルグアイ	サウジアラビア	日本	ポーランド	レバノン
エクアドル	シンガポール	ニュージーランド	ボスニア･ヘルツェゴビナ	
エジプト	スイス	ノルウェー	ポルトガル	
エストニア	スウェーデン	バーレーン	香港	
オーストラリア	スペイン	パキスタン	ホンジュラス	

（2009年10月現在）

- 802.11nモードでは、アドホック通信は使用できません。
- 802.11bモードおよび802.11gモードでのアドホック通信は、Ch1～Ch11で使用できます。
- 802.11bモードおよび802.11gモードでのインフラストラクチャ通信は、Ch1～Ch13で使用できます。

付録

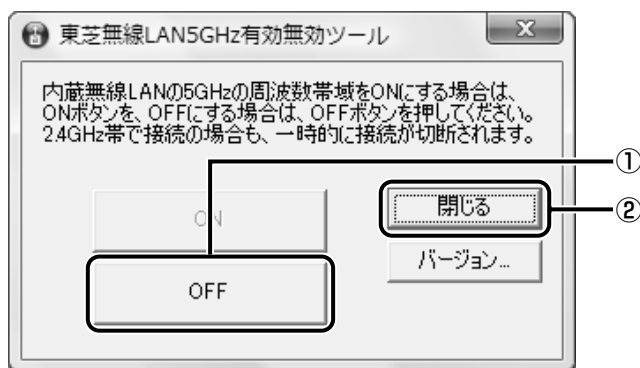
8 「東芝無線LAN5GHz有効無効ツール」について

＊5GHz帯無線LANをサポートしているモデルのみ

5GHz帯無線LANを屋外で使用することはできません。
本製品を屋外に持ち出す場合には、「東芝無線LAN5GHz有効無効ツール」で5GHzの周波数帯域をOFFにしてください。

1 **［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ネットワーク］→［無線LAN5GHz有効無効ツール］をクリックする**

［東芝無線LAN5GHz有効無効ツール］画面が表示されます。

2 **［OFF］ボタンをクリックし①、［閉じる］ボタンをクリックする②**

5GHzの周波数帯域がOFFになります。

メモ

- 屋内で5GHzの周波数帯域を使用する場合は、手順 **2** で［ON］ボタンをクリックし、5GHzの周波数帯域をONにしてください。

付録

7 Bluetoothについて

＊Bluetoothモデルのみ

1 物理仕様

ワイヤレス通信	通信方式	Bluetooth Specification Ver.2.1+EDR
	無線周波数帯	2.4GHz（2402～2480MHz）
	変調方式	周波数ホッピング方式 2値FSK
	出力＊1	最大＋4dBm（Power Class2）
	受信感度＊1	－70dBm
	通信距離	見通し10m＊2
電源電圧		3.3V
消費電力		最大200mA

＊1 アンテナの効率は含まれません。
＊2 周囲の電波環境、障害物、設置環境などにより異なります。

2 無線特性

Bluetoothモジュールの無線特性は、製品を購入した国、購入した製品の種類により異なる場合があります。
多くの場合、無線通信は国／地域によって使用が規制されています。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない2.4GHz 帯で動作するように設計されていますが、国／地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。
本製品のBluetooth通信機能が使用できる国／地域については、「本節 6 使用できる国／地域について」を確認してください。
無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る"障害物"がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

付録

3 Bluetooth® 東芝製モジュールを日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。

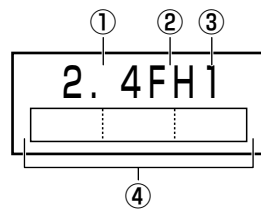
■ステッカー

本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に付属されている次のステッカーをパソコン本体に貼り付けてください。

この機器の使用周波数帯は　2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用 の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア 無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCあんしんサポートへお問い合わせください。

■現品表示

本製品と梱包箱には、次に示す現品表示が記載されています。

① 2.4　：2,400MHz 帯を使用する無線設備を表す。
② FH　：変調方式がFH-SS 方式であることを示す。
③ 1　：想定される与干渉距離が10m以下であることを示す。
④ ▭　：2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

■東芝PCあんしんサポート

東芝PCあんしんサポートの連絡先は、『取扱説明書』の巻末を参照してください。

付録

4 機器認証表示について

本製品は、電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局の端末設備として、技術基準適合認証を受けております。

無線設備名 ： EYXF3CS
財団法人電気通信端末機器審査協会
認証番号 ： D08-0305001

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピューター）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備をほかの機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触するおそれがありますので、十分にご注意ください。

5 お知らせ

■無線製品の相互運用性

Bluetooth® 東芝製モジュールは、Frequency Hopping Spread Spectrum（FHSS）無線技術を使用するあらゆるBluetooth® ワイヤレステクノロジーを用いた製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Bluetooth Special Interest Group策定のBluetooth Specification Ver.2.1+EDR
- Bluetooth Special interest Groupの定義するBluetooth® ワイヤレステクノロジーのLogo認証

メモ

- 本製品はすべてのBluetooth® ワイヤレステクノロジーを用いた機器との接続動作を確認したものではありません。ご使用にあたっては、Bluetooth® ワイヤレステクノロジーを用いた機器対応の動作条件と接続の可否情報を取扱元にご確認ください。

また下記の取り扱い上の注意点があります。

(1) 本製品はBluetooth® Version2.1+EDR仕様に準拠しております。
Bluetooth® Version1.0B 仕様のBluetooth®ワイヤレステクノロジーを用いた機器とは互換性がありません。

(2) 2.4GHz帯のWireless-LANが近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。

(3) Bluetooth®とWireless-LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth®、Wireless-LANのいずれかの使用を中止してください。

■健康への影響

Bluetooth® ワイヤレステクノロジーを用いた製品はほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。
Bluetooth® 東芝製モジュールの動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。
ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者がBluetooth® ワイヤレステクノロジーの使用を制限する場合があります。次にその例を示します。

- 飛行機の中でBluetooth® ワイヤレステクノロジーを用いた装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Bluetooth® ワイヤレステクノロジーを用いた装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

Regulatory statements

● General

This product complies with any mandatory product specification in any Country/ Region where the product is sold. In addition, the product complies with the following.

● European Union (EU) and EFTA

This equipment complies with the R&TTE directive 1999/5/EC and has been provided with the CE mark accordingly.

● Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.
Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference , and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device."
L ' utilisation de ce dispositif est autorisee seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit etre pret a accepter tout brouillage radioelectrique recu, meme si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.
The term "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical specifications were met.

● USA - Federal Communications Commission (FCC)

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy. If not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a articular installation.
If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by tuning the equipment off and on, the user is encouraged to try and correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the distance between the equipment and the receiver.
- Connect the equipment to outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this Bluetooth® Card from TOSHIBA, or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA.
The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.

The radiated output power of the Bluetooth® Card from TOSHIBA is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Bluetooth® Card from TOSHIBA shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized. The antenna(s) used in this device are located at the upper edge of the LCD screen, and this device has been tested as portable device as defined in Section 2.1093 of FCC rules when the LCD screen is rotated 180 degree and covered the keyboard area. In addition, Bluetooth has been tested with Wireless LAN transceiver for co-location requirements. This device and its antenna(s) must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.

The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult Safety Code 6, obtainable from Health Canada's website

http://www.hc-sc.gc.ca/ewh-semt/pubs/radiation/99ehd-dhm237/index-eng.php./

● Taiwan

Article 12 Without permission granted by the NCC, any company, enterprise, or user is not allowed to change frequency, enhance transmitting power or alter original characteristic as well as performance to a approved low power radio-frequency devices.

Article 14 The low power radio-frequency devices shall not influence aircraft security and interfere legal communications; If found, the user shall cease operating immediately until no interference is achieved.

The said legal communications means radio communications is operated in compliance with the Telecommunications Act.

The low power radio-frequency devices must be susceptible with the interference from legal communications or ISM radio wave radiated devices.

6 使用できる国／地域について

お願い

- 本製品は、次にあげる国／地域の無線規格を取得しております。これらの国／地域以外では使用できません。

アイスランド	オマーン	スロバキア	パキスタン	ポルトガル
アイルランド	オランダ	スロベニア	パナマ	香港
アゼルバイジャン	カナダ	セルビア	パプアニューギニア	ホンジュラス
アメリカ合衆国	韓国	タイ	パラグアイ	マルタ
アラブ首長国連邦	キプロス	台湾	ハンガリー	マレーシア
アルゼンチン	ギリシャ	チェコ	バングラディシュ	南アフリカ
イギリス	キルギスタン	中国	フィリピン	メキシコ
イタリア	グアテマラ	チリ	フィンランド	モナコ
インド	クウェート	デンマーク	プエルトリコ	ヨルダン
インドネシア	ケニア	ドイツ	フランス	ラトビア
ウクライナ	コスタリカ	ドミニカ	ブルガリア	リトアニア
ウルグアイ	コロンビア	トルコ	ベトナム	リヒテンシュタイン
エクアドル	サウジアラビア	ナイジェリア	ベネズエラ	ルクセンブルク
エジプト	シンガポール	ニカラグア	ペルー	ルーマニア
エストニア	スイス	日本	ベルギー	レバノン
エルサルバドル	スウェーデン	ニュージーランド	ポーランド	ロシア
オーストラリア	スペイン	ノルウェー	ボスニア・ヘルツェゴビナ	
オーストリア	スリランカ	バーレーン	ボリビア	

（2009年10月現在）

8 内蔵モデムについて

＊モデム内蔵モデルのみ

モデムボードを取り付けることによって、モデム機能を使用できます。あらかじめモデムボードが取り付けられているモデルの場合は、取り付け／取りはずしの作業は必要ありません。また、モデムボードを取りはずした状態で本製品を使用しないでください。

⚠警 告

- **本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないこと**
  内部には高電圧部分が数多くあり、万が一触ると、感電ややけどのおそれがあります。
- **取りはずしたネジは、幼児の手の届かないところに保管すること**
  誤って飲み込むと窒息のおそれがあります。万が一、飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

⚠注 意

- **モデムボードの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプターのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行うこと**
  電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- **電源を切った直後には、モデムボードの取り付け／取りはずしを行わないこと**
  内部が高温になっており、やけどのおそれがあります。電源を切った後30分以上たってから、行ってください。
- **パソコン内部にネジや異物を残さないこと**
  火災、発煙のおそれがあります。

お願い

- モデムボードの取り付け／取りはずし、PTTラベルの確認以外の目的でパソコン本体のモデムカバーを開けないでください。
- モデムボードを取りはずした状態で本製品を使用しないでください。故障の原因になります。
- モデムボードを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

モデムボードの取り付け／取りはずし

■モデムボードの取り付け／取りはずしの前に

次の作業を行ってから、モデムボードの取り付け／取りはずしを行ってください。
①データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る
②パソコン本体に接続されているACアダプターとケーブル類を取りはずす
③ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす
④パソコン本体底面のネジ18本を取りはずす
⑤ベースカバーを取りはずす
　規格（PTT)ラベルを確認することができます。

■モデムの取り付け

①モデムボードにケーブルを取り付ける
②モデム基板にモデムボードに取り付け、モデム固定用のネジ2本でとめる

■モデムボードの取りはずし

①モデム固定用のネジ2本を取りはずし、モデムボードを取りはずす
②モデムボードからケーブルを取りはずす

■モデムボードの取り付け／取りはずしの後に

①ベースカバーをネジ18本で取り付ける
②バッテリーパックを取り付ける